

東京外国語大学 夏期世界史セミナー

世界史の最前線

—14年間の軌跡と展望—

東京外国語大学 海外事情研究所編

東京外国語大学 海外事情研究所

2023

東京外国語大学夏期世界史セミナー
世界史の最前線
—14年間の軌跡と展望—

東京外国語大学 海外事情研究所 編



東京外国語大学 海外事情研究所

2023

目 次

刊行にあたって	(海外事情研究所所長 吉田ゆり子)	4
第1部 「夏季世界史セミナー」の実施状況——プログラムと分析——		
第1章 「夏季世界史セミナー」プログラム一覧		5
「夏季世界史セミナー」プログラム比較表		6
2009年プログラム		7
2010年プログラム		8
2011年プログラム		9
2012年プログラム		10
2013年プログラム		11
2014年プログラム		14
2015年プログラム		17
2016年プログラム		18
2017年プログラム		19
2018年プログラム		22
2019年プログラム		23
2020年プログラム		24
2021年プログラム		25
2022年プログラム		26
第2章 プログラム分析		27
世界史セミナー プログラムの分析	(香坂直樹)	28
対象地域一覧表		30
第2部 「夏季世界史セミナー」参加者アンケートから		
第1章 「夏季世界史セミナー」参加者アンケート——実施概要と集計結果——		31
参加者アンケート実施概要		32
2009年アンケート集計結果		33
2010年アンケート集計結果		38
2011年アンケート集計結果		44
2012年アンケート集計結果		50
2013年アンケート集計結果		56
2014年アンケート集計結果		62
2015年アンケート集計結果		68
2016年アンケート集計結果		74

2020年アンケート集計結果		80
2021年アンケート集計結果		88
2022年アンケート集計結果		96
第2章 アンケート分析		104
参加者アンケートの分析	(金理花・吉田友香)	105
作業の所感	(金理花・吉田友香)	108
あとがき 「東京外国語大学世界史セミナー」の資料をまとめて		
	(篠原琢)	109

刊行にあたって

海外事情研究所では、2009年から今年度2022年度まで、「世界史の最前線」（通称「世界史セミナー」）を14年間、毎年夏季に実施してきました。コロナの感染対策のため、2020・21・22年度と、全面オンラインでの開催となりましたが、14年目の今年に、これまでの企画を振り返り、その記録を整理して公開するとともに、2023年度からの改善に資することができるよう、世界史セミナーアーカイブズ化事業を立ち上げ、その成果の一部を、『世界史セミナー 14年のあゆみ』としてまとめ、公刊することにいたしました。

そもそも「世界史セミナー」は、2009年、ベトナム思想史研究者で同僚の今井昭夫先生（現、東京外国語大学名誉教授）から、「世界史の最前線」と銘打って、高校世界史教員の方々に、リカレント教育の意味を込めて、本学の世界史・日本史を専門とする教員が、学界の最新の研究成果を講義してはどうか、というアイデアをいただいたことに始まりました。「世界史セミナー」と名付けているものの、世界史・日本史双方の教員が、歴史学の研究成果と、その現代的な意義をお話しし、高校の歴史教育の現場で教材として活用していただきたいという趣旨で開始しました。当時も、海外事情研究所所長を勤めていたことから、手許の資料をさがしてみると、所員と相談しながら企画を進めた記録が出てきました。そこには、外国語大学は言語を教える大学と思われているものの、実は他大学の史学科にもみられない量と質の世界史教員が教鞭をとり、世界各地の歴史教育をおこなっていることを知らせたい、という趣旨が記されていました。

全国各地から、高校の教育現場が多忙であるにもかかわらず、多くの先生方がセミナーを受講していただいたことに、御礼申し上げます。毎回のセミナーで指摘された問題点を改善し、今後も世界史セミナーを継続してゆくために、今回は、各年度のプログラムと、ご協力いただいたアンケート結果を集計して掲載することにしました。各講義のレジュメや資料も収集・整理をしましたが、著作権等の関係から、現段階でそのまま採録して公刊することは控えさせていただきます。

まずは、アンケートで指摘された事柄を確認し、2023年度からの世界史セミナーをよりよいものにするために、できる限り改善をはかりたいと考えています。

将来にわたって、世界史セミナーが継続し、高校の歴史教育の現場と大学教育とが連携していくことを祈念しております。

2023年3月24日

海外事情研究所所長 吉田ゆり子

第1部 「夏季世界史セミナー」の実施状況
——プログラムと分析——

第1章 「夏季世界史セミナー」プログラム一覧

「夏季世界史セミナー」(2009～2022)プログラム比較表

開催年		開催日	開催方式 (開催場所)	講義数	講義以外の企画／備考
I	2009	7月27日(月) ～28日(火)	対面式 (府中キャンパス)	8	・全体討議 (1・2日目)
II	2010	8月3日(火) ～4日(水)	対面式 (府中キャンパス)	7	・意見交換会 (8月3日夕)
III	2011	8月3日(水) ～4日(木)	対面式 (府中キャンパス)	8	・意見交換会 (8月3日夕)
IV	2012	8月3日(金) ～4日(土)	対面式 (府中キャンパス)	5	・全国歴史教育研究協議会特別 講演 (8月3日午前) ・意見交換会 (8月4日昼)
V	2013	7月30日(火) ～31日(水)	対面式 (府中キャンパス)	6	・入試説明会 (7月30日夕) ・意見交換会 (7月31日昼)
VI	2014	7月29日(火) ～30日(水)	対面式 (府中キャンパス)	7	・入試説明会 (7月30日午後) ・意見交換会 (7月30日昼)
VII	2015	7月27日(月) ～28日(火)	対面式 (府中キャンパス)	6+1	・世界史科研の調査結果報告 (7月27日午前) ・意見交換会 (7月28日昼)
VIII	2016	7月28日(木) ～29日(金)	対面式 (府中キャンパス)	6+2	・講演 (7月28日午前) ・科研調査報告 (7月29日午前) ・意見交換会 (7月29日昼)
IX	2017	7月27日(木) ～28日(金)	対面式 (府中キャンパス)	7+1	・科研調査報告 (7月28日午前) ・意見交換会 (7月28日昼)
X	2018	7月25日(水) ～26日(木)	対面式 (府中キャンパス)	7+1	・科研調査報告 (7月28日午前) ・意見交換会 (7月28日昼)
XI	2019	7月24日(水) ～25日(木)	対面式 (府中キャンパス)	7+1	・科研調査報告 (7月25日午後) ・意見交換会 (7月25日昼)
XII	2020	7月29日(水) ～30日(木)	オンライン式 +動画限定配信	8	・新型コロナのためオンライン開催 (+講義動画を期間限定で配信)
XIII	2021	8月2日(月) ～3日(火)	オンライン式 +動画限定配信	8	・新型コロナのためオンライン開催 (+講義動画を期間限定で配信)
XIV	2022	8月2日(火) ～3日(水)	オンライン式 +動画限定配信	7+1	・新型コロナのためオンライン開催 (+講義動画を期間限定で配信) (※当初はハイブリッド式を検討) ・世界史セミナーまとめの電子出版 企画について報告(2日午後)

東京外国語大学 夏期世界史セミナー —世界史の最前線—

東京外国語大学では、本学の世界各地域の歴史学担当スタッフによる最新の研究成果を公開するとともに、高校で世界史教育を担当する先生の方々との対話を通じて、世界史教育に新たな視座を示すことを目標に2日間のセミナーを実施します。この機会に日ごろの世界史教育での悩みなど一緒に考えていきましょう。皆様のご参加を心よりお待ちしております！

2009年7月27日(月)～28日(火) 東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟 427

TUFS OPEN ACADEMY

プログラム

※今後の調整によって、多少、変更になる可能性もありますので、ご了承ください。

1 日 目	27日(月)	10:00～10:30	受付
		10:30～11:30	「東京外国語大学で地域史をどう捉えているか」(鈴木茂)
		11:30～11:50	質疑応答
		11:50～13:00	昼食・休憩
		13:00～14:00	「近世ヨーロッパ国制の再検討—スペイン帝国の構造を中心に」(立石博高)
		14:00～14:20	質疑応答
		14:30～15:30	「『東欧』史の描き方」(篠原琢)
		15:30～15:50	質疑応答
		16:00～17:00	「ジェンダーからみる南アジア近代史：宗教・社会改革、ナショナリズム、国民国家の表象」(栗屋利江)
		17:00～17:20	質疑応答
		17:20～18:30	1日目全体 意見交換
2 日 目	28日(火)	09:00～10:00	「アメリカ革命による共和制から民主制へ」(金井光太郎)
		10:00～10:20	質疑応答
		10:30～11:30	「『トルコ』を軸に世界史をみる」(新井政美)
		11:30～11:50	質疑応答
		11:50～13:00	昼食・休憩
		13:00～14:00	「中国開封の消えたユダヤ人」(佐藤公彦)
		14:00～14:20	質疑応答
		14:30～15:30	「『ペルシア』か『イラン』か？『ペルシア人』か『イラン人』か？—国民国家的歴史認識の『虚構』—」(八尾師誠)
		15:30～15:50	質疑応答
		15:50～17:00	2日目・全体 意見交換

参加者募集要項

海外事情研究所主催・高大連携事業

東京外国語大学 夏期世界史セミナー —世界史の最前線II—

東京外国語大学では、本学の世界各地域の歴史学担当スタッフによる最新の研究成果を公開するとともに、高校で世界史教育を担当する先生の方々との対話を通じて世界史教育に新たな視座を示すことを目標に、今年度も2日間のセミナーを実施します。今年は意見交換会も設けますので、その機会に日ごろの世界史教育での悩みなど一緒に考えていきましょう。皆様のご参加を心よりお待ちしております！

2010年8月3日(火)～4日(水) 東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟 115(予定)

プログラム

※今後の調整によって、多少、変更になる可能性もありますので、ご了承ください。

1 日 目	3日(火)	12:30～13:00	受付
		13:00～13:10	海外事情研究所所長挨拶(吉田ゆり子)
		13:10～14:20	「狩猟採集社会は「文明」の呪縛から抜け出せるか」(小川英文)
		14:20～14:30	質疑応答
		14:30～14:40	休憩
		14:40～15:50	「沈黙の共同体—ハンド・サインから見る中世ヨーロッパ」(千葉敏之)
		15:50～16:00	質疑応答
		16:00～16:10	休憩
		16:10～17:20	「オスマン帝国史の描き方」(林佳世子)
		17:20～17:30	質疑応答
		17:45～19:45	意見交換会(学生会館ホール)
2 日 目	4日(水)	09:00～09:30	受付
		09:30～10:40	「大西洋世界の成立とブラジル」(鈴木茂)
		10:40～10:50	質疑応答
		10:50～11:00	休憩
		11:00～12:10	「代表的アメリカ人、フランクリン」(金井光太郎)
		12:10～12:20	質疑応答
		12:20～13:20	昼休み
		13:20～14:30	「東欧の経験した第二次世界大戦」(篠原琢)
		14:30～14:40	質疑応答
		14:40～14:50	休憩
		14:50～16:00	「多民族国家ソ連の構成原理と現実」(鈴木義一)
		16:00～16:10	質疑応答

参加者募集要項

海外事情研究所主催・高大連携事業

東京外国語大学 夏期世界史セミナー —世界史の最前線III—

東京外国語大学では、世界各地の歴史および文化を専門とするスタッフによる最新の研究成果を公開し、高校や予備校で世界史教育を担当する先生方との対話を通じて世界史教育に新たな視座を示すことを目標に、今年度も2日間のセミナーを実施します。初日のセミナー後には意見交換会も設けますので、この機会に日ごろの世界史教育での悩みなど一緒に考えていきましょう。皆様のご参加を心よりお待ちしております！

2011年8月3日(水)～4日(木) 東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟 101

プログラム

※今後の調整によって、多少、変更になる可能性もありますので、ご了承ください。

1 日 目	3日(水)	09:00～09:30	受付
		09:30～09:40	海外事情研究所所長挨拶(鈴木茂)
		09:40～11:00	《ネーション再考—国民国家と諸地域の相克をめぐる》(立石博高)
		11:00～11:10	休憩
		11:10～12:30	「中国の商業と商人—明清時代における徽州商人の活動を中心として」 (臼井佐知子)
		12:30～13:40	休憩
		13:40～15:00	「ラテンアメリカにおける先住民の復権」(受田宏之)
		15:00～15:10	休憩
		15:10～16:30	「幕末期日本外交と開港場」(吉田ゆり子)
		16:45～17:45	入試説明会
		18:00～	意見交換会・懇親会(学生会館ホール)
2 日 目	4日(木)	09:00～09:30	受付
		09:30～10:50	「教会刑罰から見る中世ヨーロッパ」(千葉敏之)
		10:50～11:00	休憩
		11:00～12:20	「中東・北アフリカ地域における「インターネット革命」の真相—歴史的評価—」 (青山弘之)
		12:20～13:30	昼休み
		13:30～14:50	「《交易の時代》—大航海時代に先立つ15～17世紀のアジア」(青山亨)
		14:50～15:00	休憩
		15:00～16:20	「南部反乱」とゲディスバーク演説による国民神話の再構築(金井光太郎)

参加者募集要項

海外事情研究所主催・高大連携事業

東京外国語大学 夏期世界史セミナー —世界史の最前線IV—

東京外国語大学では、本学の世界各地域の歴史学担当スタッフによる最新の研究成果を公開するとともに、高校で世界史教育を担当する先生の方々との対話を通じて世界史教育に新たな視座を示すことを目標に、今年度も2日間のセミナーを実施します。今年は2日目の昼休みに意見交換会も設けますので、その機会に日ごろの世界史教育での悩みなど一緒に考えていきましょう。皆様のご参加を心よりお待ちしております！

尚、8月3日(金曜日)9時半より全歴研の講演もあります。こちら是非ご参加ください。

2012年8月3日(金)～4日(土) 東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟 115(予定)

プログラム ※今後の調整によって、多少、変更になる可能性もありますので、ご了承ください。

1 日 目	3日(金)	13:30～14:00	受付
		14:00～14:10	海外事情研究所所長挨拶(鈴木茂)
		14:10～15:10	「アラブの春」のその後： 絡み合う紛争がもたらす「民主化」の阻害(青山弘之)
		15:10～15:30	質疑応答
		15:30～15:50	休憩
		15:50～16:50	「近世日本における差別と地域社会」(吉田ゆり子)
		16:50～17:20	質疑応答
2 日 目	4日(土)	09:00～09:30	受付
		09:30～10:30	「東南アジアを中心として見た7～9世紀の仏教世界」(青山亨)
		10:30～10:50	質疑応答
		10:50～11:10	休憩
		11:10～12:10	「ホロコーストとマイノリティ： 両大戦期中欧の世界史的変動」(相馬保夫)
		12:10～12:30	質疑応答
		12:30～14:00	質疑応答昼休み意見交換会・懇親会(学生会館ホール)
		14:30～15:30	「フランス植民地における農村の変容と「文明化」 ～チャド共和国の事例から～」(坂井真紀子)
		15:30～15:50	質疑応答

8月3日(金曜日)9:30～11:00 全国歴史教育研究協議会東京大会特別講演 場所 研究講義棟 115

「赤道の南には過ちはない：南大西洋と世界史」(鈴木茂)

入場無料！

海外事情研究所主催・高大連携事業

東京外国語大学 夏期世界史セミナー —世界史の最前線V—

東京外国語大学では、本学の世界各地域の歴史学担当スタッフによる最新の研究成果を公開するとともに、高校で世界史教育を担当する先生の方々との対話を通じて世界史教育に新たな視座を示すことを目標に、今年度も2日間のセミナーを実施します。今年は1日目に入試説明会、2日目の昼休みに意見交換会を設けます。日頃の皆様のご参加を心よりお待ちしております！

2013年7月30日(火)～31日(水) 東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟 227(予定)

プログラム ※今後の調整によって、多少、変更になる可能性もありますので、ご了承ください。

1 日 目	30日(火)	9:00～9:30	受付
		9:30～9:40	海外事情研究所所長挨拶(吉田ゆり子)
		9:40～10:40	「中世ヨーロッパにおける普遍公会議の機能」(千葉敏之)
		10:40～11:00	質疑応答
		11:00～11:10	休憩
		11:10～12:10	「戦間期日本における都市と農村—『生活』という視座から」(野本京子)
		12:10～13:30	昼休み
		13:30～14:30	「ベトナム人兵士の目線から見たベトナム戦争—オーラル・ヒストリーの可能性を探る」(今井昭夫)
		14:30～14:50	質疑応答
		14:50～15:10	休憩
		15:10～16:10	入試説明会
2 日 目	31日(水)	09:00～09:30	受付
		09:30～10:30	「アメリカ・プリマス起源の神話構築」(金井光太郎)
		10:30～10:50	質疑応答
		10:50～11:10	休憩
		11:10～12:10	「まっすぐな国境線と地域間紛争—植民地統治にみる西アフリカの事例から—」(坂井真紀子)
		12:10～12:30	質疑応答
		12:30～14:00	質疑応答昼休み意見交換会・懇親会(学生会館ホール)
		14:30～15:30	「「テロとの戦い」を通じた「民主化」か、「民主化」という名の「テロ」拡散か?: 2000年以降のアラブ世界における政治変動を読み解く」(青山弘之)
		15:30～15:50	質疑応答

プログラム 1 日目

千葉敏之「中世ヨーロッパにおける普遍公会議の機能」

ヨーロッパ文明の特質の一つに、集会的社会というものがある。むろん、いかなる文明、いかなる政治体制下でも、議会等の集会在、君主や首長の統治と被統治者である臣民の利害とを調整するなどの重要な役割を果たしてきた。ヨーロッパでは、古代ゲルマン社会の「戦士の集会」、古代ローマの元老院制度などを継承しつつ、身分制議会という固有の政治制度が発展した。この世俗的議会の発展は、中世においてはつねに、聖職者の参集する地方教会会議、教皇が召集する公会議、さらには「全地の聖職者」が召集される普遍公会議、という教会的会議体の発展と平行的な関係にあった。この集会の二元性こそが、ヨーロッパ社会の本質であったといえる。

この講義では、中世ヨーロッパに特有の普遍公会議に焦点を当て、上記のような集会の多元的システムのなかで普遍公会議が果たした役割を、初期キリスト教時代から、1439年のフェラーラ=フィレンツェ公会議まで、時代ごとに分析していく。

野本京子「戦間期日本における都市と農村—『生活』という視座から」

第一次大戦中の都市への人口集中がもたらす「都市化」の進展は、生活という局面においては科学的・合理的な「能率重視」の生活をめざすという考え方をともなっていた。いいかえれば、産業化だけではなく、生活レベルでの近代化が問われるようになったのである。1920年に文部省の外郭団体である生活改善同盟会が設立されるが、指導者の目線は欧米諸国を意識しつつ、第一次大戦後の日本（とりわけ都市）の生活様式や生活態度といった家庭生活の改善を射程に入れたものであった。一方農村においては、都市の「文化生活」に対して、農村の独自性にもとづいた生活改善という主張が展開される。本講義では、1920年代以降の生活改善運動において、欧米諸国に比肩する（すべき）生活文化の担い手としてどのような階層が想定されていたのか、また都市と農村とが対比的・対抗的に論じられるにいたった背景とその意味について、「生活」「生活水準」をキーワードとして論じていきたい。

今井昭夫「ベトナム人兵士の目線から見たベトナム戦争

—オーラル・ヒストリーの可能性を探る—

ベトナム戦争は冷戦下の20世紀後半における最大の「ホット・ウォー」の一つであり、アジアの民族解放闘争を象徴する出来事でした。この戦争はベトナムでは「抗米救国抗戦」と呼ばれているように、アメリカ合衆国が大きくコミットした戦争でした。米軍の介入過程や撤退後のアメリカ社会に見られた「ベトナム・シンドローム」について、私達は『ベスト&ブライテスト』などの書籍や「地獄の黙示録」、「ディアハンター」等のアメリカ映画などにより、ある程度知っています。一方、ベトナム人から見たベトナム戦争像については、ほとんど知らないといっても過言ではないでしょう。本報告では、私が2005年から始めた、ベトナム国内の退役軍人等への20回近くの聞き取り調査をもとに、ベトナム人兵士の目線から見たベトナム戦争像の粗描を試みるとともに、ベトナム戦争研究におけるオーラル・ヒストリーの可能性と「戦争の記憶」についてお話しいたします。また平和学習の題材としてベトナム戦争がどのようなことを提供しうるのかについても、受講者の皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

プログラム2日目

金井光太郎「アメリカ・プリマス起源の神話構築」

アメリカ合衆国の起源はいつどこでしょうか。教科書にあります。1607年ジェームズ・タウンです。これには明らかに先住民やスペイン人の活動を排除するバイアスがあります。しかし、その点を別としても、1620年プリマスもアメリカの起源とされます。ピルグリム・ファーザーといわれる入植者こそ、自由を求めて新天地を開拓するアメリカ人の原点とされています。彼らの逸話は、感謝祭を始めとして大いに神話化されています。むしろ、本当の「アメリカ」はプリマスに始まるとイメージするのではないのでしょうか。しかしながら、そのイメージは奴隷制と対抗する「自由」の政治文化の中で構築されたのであり、その抗争の頂点である南北戦争において完成しました。リンカーンは感謝祭をアメリカの国民的な祝日と規定し、プリマスの経験こそが自由を求めて移民を選択した人々による理念の共和国、アメリカを象徴するものとしたのでした。この時初めて自由と並んで平等理念がアメリカ的原理に組み込まれたのでした。他方、「移民の国、アメリカ」はアフリカ系の経験をアメリカ性から排除することになりました。

坂井 真紀子

「まっすぐな国境線と地域間紛争～植民地統治にみる西アフリカの事例から～」

アフリカの自然は多岐にわたる。砂漠やサバンナ、森林といった異なった自然環境の影響のもと、現在もさまざまな形態の社会が存在している。植民地時代以前には、イスラム化した中央集権的な帝国や王国が覇権を争う一方で、定住しない遊牧民コミュニティがサハラ砂漠を移動する社会があった。また自然信仰によってゆるい共同体を維持する“無頭社会”も農耕民コミュニティによくみられる社会形態であった。だが、19世紀後半に行われたヨーロッパ列強によるアフリカ大陸分割によって、こうした複数の社会は一つの地域にまとめられ植民地統治されることとなった。人工的な直線で囲われた地域は、やがてヨーロッパ型の「近代国家」として独立していくことになるが、その統治は社会構造の多様さゆえに困難を極めている。本発表では、現在もアフリカ各地に内在する地域間紛争の原因を、ヨーロッパ列強による植民地統治時代にさかのぼって考察する。

青山弘之

「テロとの戦い」を通じた「民主化」か、「民主化」という名の「テロ」拡散か？：

2000年以降のアラブ世界における政治変動を読み解く」

チュニジアでの政権崩壊（2011年）を機にアラブ世界全土で高揚した「アラブの春」は、当初は「独裁政権」に対する「民衆革命」と捉えられ、体制転換後には「民主化」が実現すると夢想された。しかし、その後の現実を目を向けると、こうした予定調和を辿った国はなく、そのいずれもが内政麻痺、国家破綻、内戦、さらには「サラフィー主義者」、「ジハード主義者」などと称される過激な集団の台頭といった危機に直面している。

アラブ世界において、「民主化」と「テロ」はどのように結びついているのか？ 本報告では、「テロとの戦い」と「中東民主化構想」といった論理のもとで推し進められたイラク戦争（2003年）、レバノン「杉の木革命」後の欧米諸国によるシリア・バッシング（2005年）、そして「アラブの春」とその後の各国の混乱に着目し、アラブ世界の「民主化」に隠された危険性を明らかにする。

海外事情研究所主催・高大連携事業

東京外国語大学 夏期世界史セミナー —世界史の最前線VI—

東京外国語大学では、本学の世界各地域の歴史学担当スタッフによる最新の研究成果を公開するとともに、高校で世界史教育を担当する先生の方々との対話を通じて世界史教育に新たな視座を示すことを目標に、今年度も2日間のセミナーを実施します。今年は、2日目の昼休みに意見交換会、入試説明会を設けます。皆様のご参加を心よりお待ちしております！

2014年7月29日(火)～30日(水) 東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟 227(予定)

プログラム ※今後の調整によって、多少、変更になる可能性もありますので、ご了承ください。

1 日 目	29日(火)	9:00～9:30	受付
		9:30～9:40	海外事情研究所所長挨拶(吉田ゆり子)
		9:40～10:40	「聖人崇敬から見た中世ヨーロッパ大天使ミカエル崇敬を中心に」(千葉敏之)
		10:40～11:00	質疑応答
		11:00～11:10	休憩
		11:10～12:10	「風刺画から見る20世紀初頭の世界」(小松久男)
		12:10～12:30	質疑応答
		12:30～13:30	昼休み
		13:30～14:30	「モンロー宣言と戦争を終わらせる戦争」(金井光太郎)
		14:30～14:50	質疑応答
		14:50～15:10	休憩
		15:10～16:10	「伝単からラオス内戦をみる」(菊池陽子)
		16:10～16:30	質疑応答
2 日 目	30日(水)	09:00～09:30	受付
		09:30～10:30	「南大西洋の世界:ロビンソン・クルーソーの航海再考」(鈴木茂)
		10:30～10:50	質疑応答
		10:50～11:10	休憩
		11:10～12:10	「アラブの春」における希望と苦悩」(名誉教授・藤田進)
		12:10～12:30	質疑応答
		12:30～14:00	昼休み意見交換会・懇親会(学生会館ホール)
		14:00～14:40	入試説明会
		14:40～15:40	「時代のなかの農業史研究—『農本主義』を手がかりに」(野本京子)
		15:40～16:00	質疑応答

プログラム 1 日目

千葉敏之「聖人崇敬から見た中世ヨーロッパ—大天使ミカエル崇敬を中心に」

キリスト教は通例、一神教であると説明される。しかし、一人であるはずの神は父・子・聖霊という三つの位格（三位一体）を持ち、子キリストは人の姿に受肉する際、人間の女性マリアの母胎を借りた。父は神であるが、母は人間マリアであり、マリアは死後昇天して、戴冠されることで、「神の母」としての座を与えられた。これらの神的存在（神性）の下にはさらに、夥しい数の聖人・聖女の群れが存在した。ダンテ『神曲』の天国篇に描写されるように、天国は幾重もの階層から成り、各層にはその聖性に依じて天使・聖母・聖人が位置を占めた。この厚みと多様＝多層性をもつ神性の塊こそが、キリスト教の神であった。

本講義では、中世ヨーロッパにおける神的存在（聖人、天使など）のあり方について整理しつつ、このような神性が必要とされた理由を、大天使ミカエル崇敬を中心に、その社会的機能の観点から考察する。

小松久男「風刺画から見る 20 世紀初頭の世界」

1906 年、帝政ロシアの南部、コーカサスの中心都市ティフリス（今のグルジアの首都トビリシ）で『モッラー・ナスレディン』という風刺雑誌が創刊された。モッラー・ナスレディンとはトルコ系の人々に広く知られるとんち話の主人公である。ムスリム（イスラーム教徒）知識人が発行したこの雑誌の特徴は、カラー版の風刺画を巧みに用いたことにある。その製作にはティフリス在住のドイツ人画家の協力もあった。これらの風刺画は、20 世紀初頭の世界、たとえばヨーロッパ列強によるアジア・アフリカの植民地支配、隣接するイランの立憲革命やオスマン帝国の青年トルコ人革命、イスラーム世界の従属化を鮮明に映し出すとともに、イスラーム社会の抱える病弊を旺盛な批判精神をもって描き出している。今回の報告では、興味深い風刺画を紹介しながら、ムスリム知識人から見た 20 世紀初頭の世界を考えてみたい。これらの風刺画は教材としても有効と思われる。

金井光太郎「モンロー宣言と戦争を終わらせる戦争」

第一次世界大戦に参戦するときに、ウィルソン大統領はこれが戦争を終わらせる戦争だからアメリカは参加すると正当化しました。しかし、有名なクラウゼヴィッツの『戦争論』では、「戦争はもう一つの手段を以てする政治である」と規定しています。ヨーロッパの国際法秩序では、紛争解決に要すれば戦争することで秩序を回復するものだったのです。戦争をなくせば紛争の火種が残り続けることになります。アメリカにとって、戦争をしなくても秩序が保てる世界、それが西半球でした。そこは大小強弱があるとしても、人民の意志に基づく共和国が公正な秩序を求める世界です。戦争が選ばれるはずはないのです。そうした西半球の国際秩序を正当化し、ヨーロッパの主権国家体制を否定したものが、モンロー宣言に他なりません。そして、両大戦を経て西半球的な国際関係がグローバル化します。「アメリカの世紀」とはそうした原理的な転換を意味するものです。

菊池陽子「伝単からラオス内戦をみる」

第二次世界大戦後の植民地からの独立、国民国家建設の時期と東西冷戦が重なった東南アジアでは、程度の差こそあれ、国内の政治状況に冷戦構造が影響を及ぼしましたが、なかでもインドシナは冷戦が熱戦となった地でした。インドシナというとベトナムだけが注目されますが、ラオスもベトナムと同様、アメリカからの空爆を受け、国土が戦場と化しました。そして、国際的にはラオス王国だけが承認されていたため、ラオスでの戦争は内戦と呼ばれていますが、1954 年のジュネーヴ協定以降、ラオスは実質的な分断国家で、統一されたのは 1975 年のことでした。

米軍の作成した伝単を使用して、分断されていたラオスで、どのようなプロパガンダが展開されていたのかをご紹介します。ラオスという国民国家の形成の中で、ラオス内戦を考えてみたいと思います。

プログラム2日目

鈴木茂「南大西洋の世界：ロビンソン・クルーソーの航海再考」

ダニエル・デフォー作『ロビンソン・クルーソー』の主人公は、17世紀半ばに、当時ポルトガルの植民地であったブラジルの総督府がおかれていたサルヴァドール（バイア）から、「商品管理係」としてアフリカへ向かう奴隷密貿易船に乗り組む、その航海で遭難する。しばしば「絶海の孤島」と表現されるが、作品の中でロビンソンが漂着したのは、南米大陸が臨めるカリブ海・小アンティル諸島の架空の島であった。この作品からは、コロンブスの「新大陸発見」から約200年後の大西洋交易圏の広がりや深化を垣間見ることができ、興味深い。とりわけ、南大西洋の奴隷貿易が、必ずしも日本の世界史教科書に通常登場する「三角貿易」というかたちを取らなかったことも示唆している。19世紀半ばまでに南北アメリカ大陸に奴隷として運ばれたアフリカ人は1000万人～1200万人に登ると推定されているが、その約半分は南大西洋を舞台としていた。この報告では、奴隷貿易禁止後の解放民のアフリカ帰還を含め、南大西洋で展開した独自の世界を跡づけてみたい。

藤田進「『アラブの春』における希望と苦悩」

二十世紀初期からアラブ人は全体としての集団的な独立を一度も達成したことはないが、その原因の一部は、彼らの土地の戦略的・文化的な重要性が外部の大国の邪心をそそいだからである。アメリカが世界的な優位を確立してから五十年余りになるが、同国の中東政策は、イスラエルの防衛とアラブの原油の自由な流通という二つの原則に基づいて運営されてきた。これらはともにアラブ・ナショナリズムとは真っ向から対立するものであった。今日、アラブ諸国の中で自国の資源を望み通りに自由に処分できる国はないし、それぞれの国益にかなうような立場を取れる国もない。そのような利害がアメリカの政策を脅かすときには、特にそうである。あらゆる面でアメリカの政策は、アラブ人の目標に対しては侮辱的で、公然と敵視するようなものだった。アメリカの経済援助に頼っているアラブ国家もあり、アメリカの軍事力の保護に頼っている国もあり、どの国もみな、お互いに相手は信用しないことに決め込み、また自国民の福祉についてはほとんど考えないことにしている。アメリカ人が唯一の超大国としての横柄さを長いあいだに次第に身につけていくにしたがって、彼らのアラブ諸国に対する扱いは、どんどん悪くなっている。（エドワード・サイード『パレスチナ問題』から）。

上記にみるアラブ民衆の歴史的現実と苦悩についての具体的事実を一部紹介することを通じて、「アラブの春」を論じてみようと思います。

野本京子「時代のなかの農業史研究－『農本主義』を手がかりに」

「農本主義」とは何か。どのような時代状況のなかで立ち現われ、どのような問題を提起しようとしたのか。農業・農村・農民の重要性を説く思想が近代化・産業化という歴史的過程のなかで登場してきたとすれば、それは日本にのみ限定されないのではないか。セミナーではこのような問題意識に基づき、アメリカにおけるポピュリズム運動等についても言及する予定である。さらに、ある特定の時代状況下の「農本主義」の主張だけではなく、研究史を検証することによって、現代までを射程にいれて考えてみたい。その際に、かつては歴史研究のなかで否定的に扱われていた「家」や「ムラ」が、開発論的視点から肯定的に論じられるに至った近年の研究動向を合わせて検討する。「家・ムラ」論の変化は、「農本主義」研究の変化とも関わっており、「農本主義」そして「家」、「ムラ」に対する評価の推移・変容は、近代そして現代の農業・農村の社会的位置と密接不可分であることを検証したい。

海外事情研究所主催・高大連携事業

東京外国語大学 夏期世界史セミナー —世界史の最前線VII—

東京外国語大学では、本学の世界各地域の歴史学担当スタッフによる最新の研究成果を公開するとともに、高校で世界史教育を担当する先生の方々との対話を通じて世界史教育に新たな視座を示すことを目標に、今年度も2日間のセミナーを実施します。なお、2日目の昼休みに意見交換会を設けます。皆様のご参加を心よりお待ちしております！

2015年7月27日(月)～28日(火) 東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟 227

プログラム

1 日 目	27日(月)	10:00～10:30	受付
		10:30～11:40	世界史科研調査結果報告
		11:40～12:30	上記にかんする討論
		12:30～13:20	昼休み
		13:20～13:30	海外事情研究所所長挨拶 (大川正彦)
		13:30～14:30	講義1 なぜいまISなのか —近現代イスラーム(思想)史から考える— (飯塚正人)
		14:30～14:50	質疑応答
		14:50～15:50	講義2 合衆国独立再考 (金井光太郎)
		15:50～16:10	質疑応答
2 日 目	28日(火)	09:00～09:30	受付
		09:30～10:30	講義3 「記憶の日」と「追憶の日」 —戦後イタリアにおける歴史認識と記憶の分断— (小田原琳)
		10:30～10:50	質疑応答
		10:50～11:10	休憩
		11:10～12:10	講義4 キリスト教と近世日本 (吉田ゆり子)
		12:10～12:30	質疑応答
		12:30～14:00	昼休み意見交換会・懇親会 (学生会館ホール)
		14:00～15:00	講義5 イスラーム世界と日本を結んだ男 —アブデュルレシト・イブラヒム(1857-1944)— (小松久男)
		15:00～15:20	質疑応答
		15:30～15:40	休憩
		15:40～16:40	講義6 歴史をいかに伝えるか —ラオスにおける歴史認識の変化と記念日、記念碑— (菊池陽子)
		16:40～17:00	質疑応答

海外事情研究所主催・高大連携事業

東京外国語大学 夏期世界史セミナー —世界史の最前線 VIII—

東京外国語大学では、本学の世界各地域の歴史学担当スタッフによる最新の研究成果を公開するとともに、高校で世界史教育を担当する先生の方々との対話を通じて世界史教育に新たな視座を示すことを目標に、今年度も2日間のセミナーを実施します。なお、2日目の昼休みに意見交換会を設けます。皆様のご参加を心よりお待ちしております！

2016年7月28日(木)～29日(金) 東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟 227(予定)

1 日 目	28日(木)	09:30～10:00	受付
		10:00～11:20	講演 私たちの〈現在〉とは—欧米中心主義の命脈つなぐ「近現代」 (板垣雄三・東京大学名誉教授) コメント：日高智彦(成蹊高等学校)
		11:20～12:00	上記にかんする討論
		12:00～13:00	昼休み
		13:00～13:10	海外事情研究所所長挨拶 (大川正彦)
		13:10～14:10	講義1 インド史叙述とダリト(元不可触民)の/による歴史 (粟屋利江)
		14:10～14:30	質疑応答
		14:30～15:30	講義2 中国と宗教 —キリスト教からみる中国社会 (倉田明子)
		15:30～15:50	質疑応答
		16:10～16:20	休憩
		16:20～17:20	講義3 1812年の戦争：共和国と帝国の冷戦と熱戦 (金井光太郎)
		17:20～17:40	質疑応答
		2 日 目	29日(金)
09:30～10:30	科研調査報告 高大連携による近現代史教育の可能性 —科研費プロジェクト3年間の経験から— (鈴木茂)		
10:30～11:00	質疑応答		
11:00～11:10	休憩		
11:10～12:10	講義4 日本の城と樹木 —人びとの暮らしと城との関係に注目して (吉田ゆり子)		
12:10～12:30	質疑応答		
12:30～14:00	昼休み意見交換会・懇親会(学生会館ホール)		
14:00～15:00	講義5 近世ポーランド・リトアニアの東部地域における宗派問題 ：殉教事件を例に (福嶋千穂)		
15:00～15:20	質疑応答		
15:20～15:30	休憩		
15:30～16:30	講義6 イスラーム世界の歴史とイスラーム(飯塚正人)		
16:30～16:50	質疑応答		

海外事情研究所主催・高大連携事業

東京外国語大学 夏期世界史セミナー —世界史の最前線 IX—

東京外国語大学では、本学の世界各地域の歴史学担当スタッフによる最新の研究成果を公開するとともに、高校で世界史教育を担当する先生の方々との対話を通じて世界史教育に新たな視座を示すことを目標に、今年度も2日間のセミナーを実施します。なお、2日目の昼休みに意見交換会を設けます。

申し込みは、<http://ngc2068.tufs.ac.jp/igas/htdocs/>より受け付けます。

2017年7月27日(木)～28日(金) 東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟 227(予定)

1 日 目	27日(木)	09:00～09:30	受付
		09:30～09:40	海外事情研究所所長挨拶 (大川正彦)
		09:40～10:40	講義1 スペイン帝国と複合君主政論 (立石博高)
		10:40～11:00	質疑応答
		11:00～11:10	休憩
		11:10～12:10	講義2 歴史からみる香港、香港からみる“中国” (倉田明子)
		12:10～12:30	質疑応答
		12:30～13:30	昼休み
		13:30～14:30	講義3 マジャパヒト：14世紀～15世紀東南アジア島嶼部の覇者の実像 (青山 亨)
		14:30～14:50	質疑応答
		14:50～15:00	休憩
		15:00～16:00	講義4 古き良きアメリカと消費者共和国 (金井光太郎)
		16:00～16:30	質疑応答
		2 日 目	28日(金)
09:30～10:30	科研調査報告 高大連携による近現代史教育の可能性 —科研費プロジェクト報告— (鈴木 茂)		
10:30～11:00	質疑応答		
11:00～11:10	休憩		
11:10～12:10	講義5 シロンスク・スレスコ・シュレージエン (シレジア) Śląsk/Slezsko/Schlesien (Silesia)：境界地域の現代史 (篠原 琢)		
12:10～12:30	質疑応答		
12:30～14:00	昼休み意見交換会・懇親会 (学生会館ホール)		
14:00～15:00	講義6 植民地／帝国の歴史と思想—近代日本思想とアジア (米谷匡史)		
15:00～15:20	質疑応答		
15:20～15:30	休憩		
15:30～16:30	講義7 「イスラーム国という現象」とは何だったのか? (青山弘之)		
16:30～16:50	質疑応答		

プログラム 1 日目

立石博高「スペイン帝国と複合君主政論」

近世ヨーロッパにおいて諸王国・諸領邦を包摂した政治体は、1992年に発表されたスペイン史家 J.H.エリオットの論稿によって「複合君主政」と定義されている。それまで、近代「主権国民国家(ソヴリン・ネーション・ステイト)」への到達を前提としたうえで近世国家・近世社会の特質を問題としてきた議論とは異なり、近世という時代的枠組みのなかで代表的な政治体の多様性と可能性を論じることによって、目的論的な歴史観(ナショナル・ヒストリー)への根本的な批判を行なったのであった。わが国では、複合国家論や礫岩国家論のなかでエリオットの研究はたびたび言及されているが、その基本的スタンスをあらためて確認することは重要である(J.H.エリオット著、立石博高・竹下和亮共訳『歴史ができるまで—トランスナショナル・ヒストリーの方法』、岩波書店、2017年6月刊行予定を参照)。しかし、エリオットの複合君主政論には、ひとつにはフェリーペ二世の時代を典型として「等しく重要なもの同士の」合同が実現したとする調和的な時代が想定されているきらいがある。もうひとつには複合君主政体を統合する装置についての考察が不十分な面も見受けられる。本報告では、そうした問題関心につなぐ、あらためて「スペイン帝国」の動態を概観したい。

倉田明子「歴史からみる香港、香港からみる“中国”」

2017年7月1日で香港は中国返還から20周年を迎える。イギリスによる植民地統治が終わり、新たに「一国二制度」という特殊な環境のもとに置かれた香港は、中華人民共和国の一行政単位でありながら、さまざまな面で「大陸(中国)」との「違い」を保持しながら今日に到っている。その間、香港と大陸の関係性は大きく変化し、昨今では雨傘運動で世界の注目を集めたように、両者の対立の側面が際立ってきている。

香港は小さいながらも中国の内と外をつなぐ窓口として機能してきた土地である。香港とはどのような場所だったのか、どうして大陸との「違い」が生まれ、それが現在にどのように影響しているのか、を知ることは、香港という小さな領域を超えて、中国、東アジア、そしてグローバルな歴史と現在の理解にもつながる。本報告では、香港と大陸中国の関係性を植民地香港の成立時期までさかのぼって歴史的に検討するとともに、その香港を通してみえる中国の現在についても考察する。

青山 亨「マジャパヒト:14世紀~15世紀東南アジア島嶼部の覇者の実像」

マジャパヒトは14世紀から15世紀にかけて東南アジア島嶼部に勢力をもったジャワ島の王国である。しかし、高校世界史教科書には必ず記載されている割には、学生に残るイメージは薄いのではないだろうか。カンボジアのアンコール・ワットのような巨大遺跡が残されていないことも一因であろう。これは裏返せば、マジャパヒトは巨大遺跡の建設を必要としなかった国家と見ることもできる。マジャパヒトの繁栄の基盤は、対外的には海上交易の支配、国内的には政治的文化的な統合の進展にあったと考えられる。この報告では、マジャパヒトの建国から最盛期を経て衰退するまでを概観したうえで、同時代の東南アジアにおけるマジャパヒトの位置づけ、後代のインドネシアに及ぼした影響という二つの側面に着目して、マジャパヒトの実像に迫ってみたい。主な史料として14世紀に書かれた宮廷叙事詩『デーシャワルナナ』(『名著で読む世界史120』所収)を取り上げる。

金井 光太郎「古き良きアメリカと消費者共和国」

第2次世界大戦を経てアメリカは、スイートホームの理想の下で大量消費社会を実現した。大量生産は住宅も含めて規格化された商品を安く供給し広く民衆レベルで自由に消費できるようになった。豊かな社会、古き良きアメリカの実現である。しかし、それは単純に皆が幸福だったわけではなく、明確な体制原理を伴っていた。豊かな賃金と福祉体制は男性労働者中心であり、女性は専業主婦が理想的な役割とされた。また、消費社会は個人選択の自由を極大化してゆく。郊外住宅は同質層の集まりとなり、それは行政需要の大きさと負担を決定してゆく。つまり、裕福なコミュニティは政府への依存が小さく、他方大都市のゲットーは行政需要が大きいにもかかわらず財源不足に陥ってしまう。市民は消費者として税負担に見合った行政サービスを要求し、サービスの必要がない以上減税を求めた。大都市に必要な財源までサービスを受けない郊外が負担するいわれはないとする。ティーパーティー運動であり、トランプである。消費者意識からすると公共意識は弱まり民主主義の将来も懸念される。

プログラム 2 日目

鈴木 茂「高大連携による近現代史教育の可能性—科研費プロジェクト報告—」

東京外国語大学海外事情研究所に所属する教員を中心に、「地域研究に基づく「世界史」教育の実践的研究」を行った。この報告では、2013 年から3年間にわたって実施した各種アンケート、聴き取り調査からをもとに、地域研究と連動した世界史教育、とりわけ日本を含む近現代史の教育が抱える課題と可能性について検討する。いま高校における歴史教育は、新必修科目として創設される「歴史総合」の内容や教科書・教材、教育方法、現行の大学入試センター試験に代わる新テストの導入など、大きな変化に直面している。こうした動きに対し、歴史学・地域研究の研究・教育に携わる大学および大学教員がどのように貢献できるのか、考えてみたい。

篠原 琢「シロンスク・スレスコ・シュレージエン(シレジア) Śląsk/Slezsko/Schlesien(Silesia):境界地域の現代史」

シュレージエン(またはシレジア)は、高校世界史の教科書では、オーストリア継承戦争・七年戦争を記述する文脈で必ず登場する。少し詳しい参考書では、シュレージエンはプロト工業化の先進地域として、織物業が盛んであったことや、織工一揆について記されているものもある。また、第一次世界大戦後の国境画定にあたって住民投票が行われたことに触れられている場合もある。しかし、シュレージエンがピアスト朝の故地であったこと、長らく「聖ヴァーツラフの王冠の諸邦」に属していたこと、宗教改革期には、新教徒のアジュールとなっていたこと、第二次世界大戦後、多くの住民が追放されたことや、新たに植民してきたこと、などについて知られることは少ない。

ただし、ここではシュレージエンの歴史の細部の知識を補うことが目的ではない。非常に複雑な「境界地域」としての歴史を、一貫した歴史叙述に整序することができないとすれば、境界地域の歴史の「話法」を編み出さなければならない。相対的に小さな地域の歴史から、ヨーロッパ史の語り方を見直すことを試みたい。

米谷匡史「植民地／帝国の歴史と思想—近代日本思想とアジア」

アジア・植民地と帝国・日本が連関し、矛盾・葛藤をかかえる状況について、近代日本の思想家たちはどのように考えたのだろうか。東アジアの植民地問題と、日本の政治・社会問題を連関させ、帝国秩序の変革・改造を考えた思想の系譜について検討したい。

朝鮮・台湾・中国の民族運動と日本の民主化運動を連携させようとした吉野作造。植民地に資本主義が浸透し、帝国全体の社会問題が顕在化するなかで、植民政策を改革しようとした矢内原忠雄。そして、日中戦争期の危機のなかで、東アジアの多民族の共生と社会変革をめぐる、東亜協同体を論じた三木清・尾崎秀実。近年の植民地研究、帝国史研究の動向をふまえて、主に戦間期・戦時期のアジア論の系譜を考察する。

青山 弘之「『イスラーム国という現象』とは何だったのか？」

イスラーム国は、2014～15年にかけてイラク、シリアだけでなく、欧米諸国を含む各地で「テロ」で繰り返し、「国際社会最大の脅威」として世界を震撼させてきた。欧米諸国、ロシア、トルコなど各国の思惑の違いはあるものの、イスラーム国に対する「テロとの戦い」は一定の成果をあげ、彼らの主要拠点であるイラクのモスル、シリアのラッカ解放も秒読み段階に入っている。本報告では、イスラーム国をめぐる問題がその「敗北」によって一つの節目を迎えようとしているなか、「イスラーム国という現象」すなわちイスラーム国の名をもって認知されてきた集団、思想、そして活動が現代史において以下に位置づけられようとしているのかを考察する。

海外事情研究所主催・高大連携事業

東京外国語大学 夏期世界史セミナー —世界史の最前線 X—

東京外国語大学では、本学の世界各地域の歴史学担当スタッフによる最新の研究成果を公開するとともに、高校で世界史教育を担当する先生の方々との対話を通じて世界史教育に新たな視座を示すことを目標に、今年度も2日間のセミナーを実施します。なお、2日目の昼休みに意見交換会を設けます。皆様のご参加を心よりお待ちしております！

2018年7月25日(水)～26日(木) 東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟 227教室

1 日 目	25日(水)	09:00～09:30	受付
		09:30～09:40	海外事情研究所所長挨拶 (大川正彦)
		09:40～10:40	「科研費研究プロジェクト成果報告」 (鈴木茂)
		10:40～11:00	質疑応答
		11:00～11:10	休憩
		11:10～12:10	講義1 啓蒙の世紀における軍事思想の展開 —軍事改革を支えた「知」の形(18世紀後半フランス)(芹生尚子)
		12:10～12:30	質疑応答
		12:30～13:30	昼休み
		13:30～14:30	講義2 「対テロ戦争」とイスラーム (黒木英充)
		14:30～14:50	質疑応答
		14:50～15:00	休憩
		15:00～16:00	講義3 太平天国の「実像」と「評価」 —中華人民共和国下の歴史研究 (倉田明子)
		16:00～16:20	質疑応答
2 日 目	26日(木)	09:00～09:30	受付
		09:30～10:30	講義4 東アジアの冷戦体制と戦争記憶の民主化 (米谷匡史)
		10:30～10:50	質疑応答
		10:50～11:00	休憩
		11:00～12:00	講義5 日本人のモンゴル抑留とウランバートル市建設 (青木雅浩)
		12:00～12:20	質疑応答
		12:20～14:00	昼休み意見交換会・懇親会 (学生会館ホール)
		14:00～15:00	講義6 『ズデーテン・ドイツ人』の歴史像と祖国愛 —消滅した景観から考える— (篠原琢)
		15:00～15:20	質疑応答
		15:20～15:30	休憩
		15:30～16:30	講義7 ロシアの宗教と文化 (巽由樹子)
		16:30～17:00	質疑応答

海外事情研究所主催・高大連携事業

東京外国語大学

夏期世界史セミナー

—世界史の最前線 XI—

東京外国語大学では、本学の世界各地域の歴史学担当スタッフによる最新の研究成果を公開するとともに、高校で世界史教育を担当する先生の方々との対話を通じて世界史教育に新たな視座を示すことを目標に、今年も2日間のセミナーを実施します。なお、2日目の昼休みに意見交換会を設けます。皆様のご参加を心よりお待ちしております！

2019年7月24日(水)・25日(木) 東京外国語大学府中キャンパス 研究講義棟 227教室

1 日 目	24日 (水)	09:00~09:30	受付
		09:30~09:40	海外事情研究所所長挨拶 (小川英文)
		09:40~10:40	講義 1 戦争は女性を国民化したか —イタリアにおける第一次世界大戦— (小田原琳)
		10:40~11:00	質疑応答
		11:00~11:10	休憩
		11:10~12:10	講義 2 近世京都の非人 (吉田ゆり子)
		12:10~12:30	質疑応答
		12:30~13:30	昼休み
		13:30~14:30	講義 3 中央アジア概念から世界史記述を考える (木村暁)
		14:30~14:50	質疑応答
		14:50~15:00	休憩
		15:00~16:00	講義 4 チェコスロヴァキア・ドイツ人の追放をめぐる —異論派の「歴史家論争」— (篠原琢)
		16:00~16:20	質疑応答
2 日 目	25日 (木)	09:00~09:30	受付
		09:30~10:30	講義 5 教科書のなかのロシア (巽由樹子)
		10:30~10:50	質疑応答
		10:50~11:00	休憩
		11:00~12:00	講義 6 世界で 2 番目の社会主義国の実態 —20 世紀前半のモンゴル人の国家建設— (青木雅浩)
		12:00~12:20	質疑応答
		12:20~14:00	昼休み意見交換会・懇親会(学生会館ホール)
		14:00~15:00	講義 7 写真が語る 1940 年代初頭の仏領インドシナと日本 —朝日新聞社所蔵写真から— (菊池陽子)
		15:00~15:20	質疑応答
		15:20~15:30	休憩
		15:30~16:30	「世界史未履修」から 10 年後の高校世界史教育と地歴科目再編 (鈴木茂)
		16:30~17:00	質疑応答

2020年東京外国語大学世界史セミナー

- ・2020年7月29日(水)～30日(木)
- ・オンライン開催(zoomウェブ会議)

【7月29日(水)】

- ・9:20 開会のごあいさつ
- ・9:30-10:45 講義1
坂井真紀子「カメルーン英語圏の帰属をめぐる紛争の歴史」
- ・10:50-12:05 講義2
山内由理子「『和解』をひらく—オーストラリア先住民と日本人」
- ・13:30-14:45 講義3
伊東剛史「ゾウの涙—ダーウィンと生体解剖論争」
- ・14:50-16:05 講義4
千葉敏之「1187年の世界情勢と〈十字軍〉の再定位」

【7月30日(木)】

- ・9:30-10:45 講義5
青山弘之「歴史はトランプ米政権のシリア政策をどう評価するか」
- ・10:50-12:05 講義6
木村暁「異宗派障壁論を超えて:中央アジア近代史の地平から」
- ・13:30-14:45 講義7
篠原琢「ナショナリズムをどのように記述するか—ハプスブルク帝国史を例として」
- ・14:50-16:05 講義8
鈴木茂「新教育課程と大学入試:ラテンアメリカ史の視点から考える」

海外事情研究所主催

夏季世界史セミナー ―世界史の最前線 XIII―

2021年8月2日(月)～3日(火) オンライン開催 (Zoom Webinar 利用)

(※なお、セミナー実施後に講義動画を限定的に配信する予定です。)

1 日 目	8月2日 (月)	9:00～ 9:20	受付
		9:20～ 9:30	開会の挨拶 (岩崎稔)
		9:30～10:45	【講義 1】 第二次世界大戦・イタリアの戦後処理と歴史認識 (小田原 琳)
		10:45～10:55	休憩
		10:55～12:10	【講義 2】 中世ヨーロッパにおける土地制度を再考する (千葉 敏之)
		12:10～13:30	昼休み
		13:30～14:45	【講義 3】 「東ヨーロッパ」再考 (篠原 琢)
		14:45～14:55	休憩
		14:55～16:10	【講義 4】 歴史学における動物的転回 (伊東 剛史)
2 日 目	8月3日 (火)	9:00～ 9:30	受付
		9:30～10:45	【講義 5】 ロシア革命とモンゴル (青木 雅浩)
		10:45～10:55	休憩
		10:55～12:10	【講義 6】 歴史画の読み方 (久米 順子)
		12:10～ 13:30	昼休み
		13:30～14:45	【講義 7】 中央アジアのイスラームと聖者信仰 (木村 暁)
		14:45～14:55	休憩
		14:55～16:10	【講義 8】 高大連携による歴史教育の課題と大学入試 ―「歴史総合」を手がかりに― (鈴木 茂)
		16:10～16:15	閉会の挨拶

海外事情研究所主催・高大連携事業

夏季世界史セミナー ―世界史の最前線 XIV―

日時:2022年8月2日(火)~3日(水)

開催方法:遠隔式 (Zoom 利用)

(※なお、セミナー実施後に講義動画を限定的に配信する予定です。)

1 日 目	8月2日 (火)	9:00~ 9:20	会場受付/Zoom 入室
		9:20~ 9:30	開会挨拶 (未定)
		9:30~10:45	【講義 1】 現代史としてのユーゴスラヴィア解体——30 年後の地平 (鈴木 健太)
		10:45~10:55	休憩
		10:55~12:10	【講義 2】 「歴史の終わり」から「歴史の回帰」へ ——国際秩序観の転換と歴史教育」(春名 展生)
		12:10~13:30	昼休み
		13:30~14:45	【講義 3】 第二次世界大戦を終わらせる ——ヘルシンキ宣言と歴史の見直し (篠原 琢)
		14:45~14:55	休憩
		14:55~16:10	【報告と質疑】 電子出版『世界史セミナー14 年間の軌跡』(仮) 作成・出版企画に関して
2 日 目	8月3日 (水)	9:00~ 9:30	会場受付/Zoom 入室
		9:30~10:45	【講義 4】 20世紀前半の中国におけるナショナリズム高揚と教科書 (倉田 明子)
		10:45~10:55	休憩
		10:55~12:10	【講義 5】 戦争を教える——日本兵とドイツ兵の戦争経験比較 (小野寺 拓也)
		12:10~ 13:30	昼休み
		13:30~14:45	【講義 6】 朝鮮戦争をいかに教えるか (藤井 豪)
		14:45~14:55	休憩
		14:55~16:10	【講義 7】 「歴史総合」とラテンアメリカ史～何を学ぶか、どう学ぶか～ (鈴木 茂)
		16:10~16:15	閉会挨拶 (未定)

第1部 「夏季世界史セミナー」の実施状況
——プログラムと分析——

第2章 プログラム分析

世界史セミナー プログラムの分析

香坂直樹

【プログラムの概観】

2009～2022年に開催された世界史セミナー（以下、本セミナー）のプログラムの構成は2009年（第1回）からほぼ変化していない。

その特徴は、①7月下旬・8月上旬に連続する二日間でセミナーを開催し、両日に計6～8本の講義を提供すること、②2016年（第7回）以降は講義に加えて、世界史科研の調査報告（鈴木茂先生担当）を行っていることである。

また、2010年（第2回）～2019年（第11回）は講義の合間に意見交換会を開催し、参加者間および講師と参加者との交流の機会を設けていた。

しかし、2020年（第12回）以降は新型コロナウイルス感染症の広まりを受け、セミナー自他の開催方法がZoom利用のオンライン開催（及び講義動画の期間限定公開）へと変化した。それに伴い意見交換会の開催も中断している。

【対象地域・担当講師】

上記の枠内で、これまでの14年間に計104本の講義・報告が設定され、本学内外から全44名の講師がセミナーに登壇した。しかしながら、講師の登壇回数は1～10回と大きくばらつきがある。講義で扱われる地域は登壇する講師が専門とする地域であることが多いため、講師の登壇回数のばらつきが講義で扱われる地域／あまり扱われない地域の偏差を生む一因となっていると考えられる（p.30「対象地域一覧表」参照）。

本セミナーでの講義対象地域としては、西ヨーロッパ地域がもっとも多く登場しており、14年間に計15回の講義が開かれている。

西ヨーロッパに次いで、中東・イスラーム圏（12回）、中東欧地域（10回）も本セミナーよく扱われる地域である。特に中東・イスラーム圏は2009～2018年にかけて毎年講義が設定されている。これは中東和平や「アラブの春」、IS（イスラーム国）の活動など当時の国際情勢を反映したものと考えられる（下記）。

また、「理論研究・歴史（世界史）教育」に関する報告（13回）も多い。これは、概観で述べたように、2016年（第7回）以降に、世界史科研の調査研究報告が毎年含まれていること、さらに、世界史科研が終了した後も、歴史教育・世界史教育に関する報告が毎年なされていることを反映している（※2022年度は予定のみ）。

他方で、本セミナーの講義であまり扱われなかった地域としては、オセアニア地域（1回）、南アジア地域（2回）、アフリカ地域（3回）などがある。また、日本史に関する講義は9回開講されており、他の地域と比較して相対的に頻繁に登場しているといえる。第2部第2章

のアンケート分析でも指摘されているように、日本史の講義に対する参加者の受け止めは多様である。

このような地域の取り上げ方の違いに関して、あるいは地域横断的な講義の設定に関して、新科目である歴史総合への対応という視点からも議論を深めていく必要があると思われる。

【国際情勢・政治との関係】

本セミナーの講義はその時々国際情勢からも影響を受けている。

代表的な事例としては、上述したが、2010年代初めから半ばにかけて、当時の中東・イスラーム圏の情勢を反映し、「アラブの春」やIS（イスラーム国）に関する講義が毎年のセミナーで開かれた例を挙げることができる。特に2012～2014年には「アラブの春」に関する講義が3年連続で開かれ、このテーマへの情報提供を意識したことが伺える。

また、ロシアによるウクライナ侵攻が続いていた2022年（第14回）のセミナーでは、ウクライナ侵攻自体を取りあげた講義は設定されていないものの、全体テーマを「戦争と歴史教育」としており、戦争が続く国際情勢を意識した構成となっている。

アンケートにおいても、これらの時事的な問題の背景を理解したいというニーズが存在することは明らかであり、時事的な問題と「世界史」との連続性を示す講義を提供することが今後も求められていると思われる。

第2部 「夏季世界史セミナー」参加者アンケートから

第1章 「夏期世界史セミナー」参加者アンケート ——実施概要と集計結果——

世界史セミナー(2009～2022)アンケート実施状況比較表

開催年	開催日	アンケート 実施方式	参加者数* (応募者数)	アンケート 回収枚数	アンケート 回収率
I	2009	7月27日(月) ～28日(火) (会場で回収)	55名	43枚	78.2%
II	2010	8月3日(火) ～4日(水) (会場で回収)	79名	57枚	72.1%
III	2011	8月3日(水) ～4日(木) (会場で回収)	154名	91枚	59.1%
IV	2012	8月3日(金) ～4日(土) (会場で回収)	121名	72枚	59.5%
V	2013	7月30日(火) ～31日(水) (会場で回収)	122名	84枚	68.9%
VI	2014	7月29日(火) ～30日(水) (会場で回収)	143名	103枚	72.0%
VII	2015	7月27日(月) ～28日(火) (会場で回収)	158名	87枚	55.1%
VIII	2016	7月28日(木) ～29日(金) (会場で回収)	124名	80枚	64.5%
IX	2017	7月27日(木) ～28日(金) (会場で回収)	132名	(不明)	(不明)
X	2018	7月25日(水) ～26日(木) (会場で回収)	(不明)	(不明)	(不明)
XI	2019	7月24日(水) ～25日(木) (会場で回収)	(不明)	(不明)	(不明)
XII	2020	7月29日(水) ～30日(木) (オンライン式** (Googleform))	95名	21枚	22.1%
XIII	2021	8月2日(月) ～3日(火) (オンライン式** (Googleform))	120名	27枚	22.5%
XIV	2022	8月2日(火) ～3日(水) (オンライン式** (Googleform))	149名	41枚	27.5%

(※2017～2019年はデータ破損のためデータなし)

*参加者数(応募者数)は、事前応募者の人数を示す。そのため、予約なしでの参加者や当日の欠席者などは反映されていない。

**2020年以降のオンライン式アンケートは、セミナー開催後に Googleform のリンクを参加者に送付し、記入を依頼する方法で実施した。

2009 年世界史セミナー・参加者アンケート

■世界史セミナー実施日・会場

- ・2009年7月27日(月)・28日(火)
- ・東京外国語大学府中キャンパス

■参加者数／回収枚数／回収率

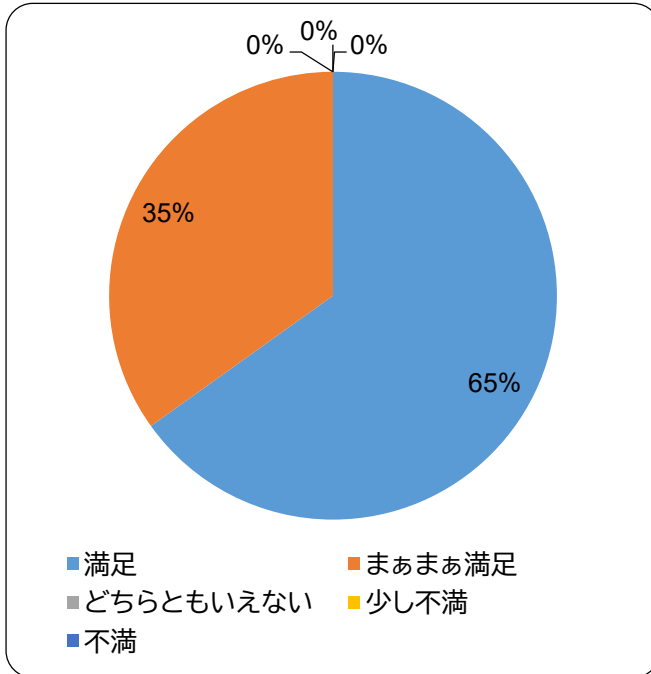
- ・参加者数:55名 / アンケート回収枚数:43枚 / 回収率:78.2%

[質問文・選択肢]

1. 【内容】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
2. 【時期】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
3. 【施設】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
4. 【教え方】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
5. 【教材】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
6. 【総合的】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
7. 今回、セミナーを知った情報先(複数回答可)
〔選択肢〕本学ホームページ / 本学掲示板 / 本学の案内文書 /
/ インターネット上の情報(本学以外) / その他
8. 来年度以降、「夏期世界史セミナー」が開講された場合、受講を希望しますか？
〔選択肢〕する / しない / わからない
9. 今後開講してほしい講座(複数回答可)(自由記述欄)
10. 会場運営についてお気づきになった点があればお書きください(自由記述欄)
11. その他、講座について、ご意見、ご希望がございましたらご自由にお書きください
(自由記述欄)

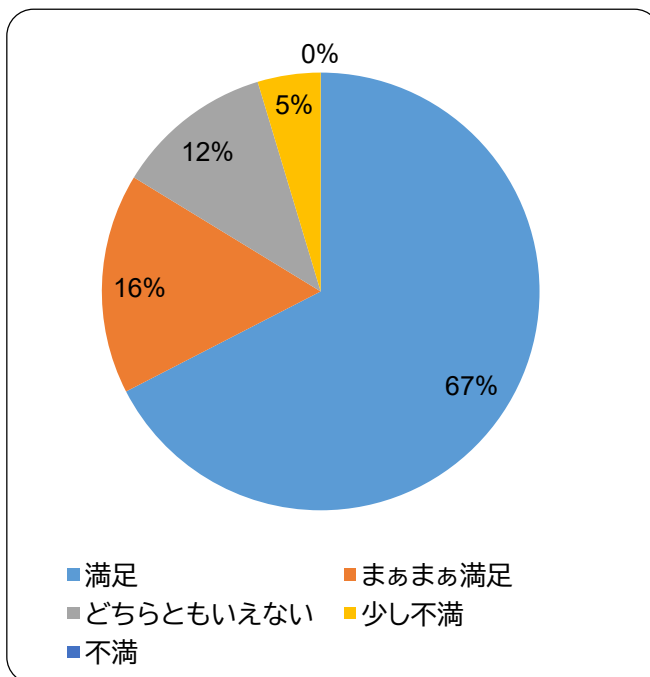
[回答結果]

1. 【内容】当セミナーの満足度をお答えください。



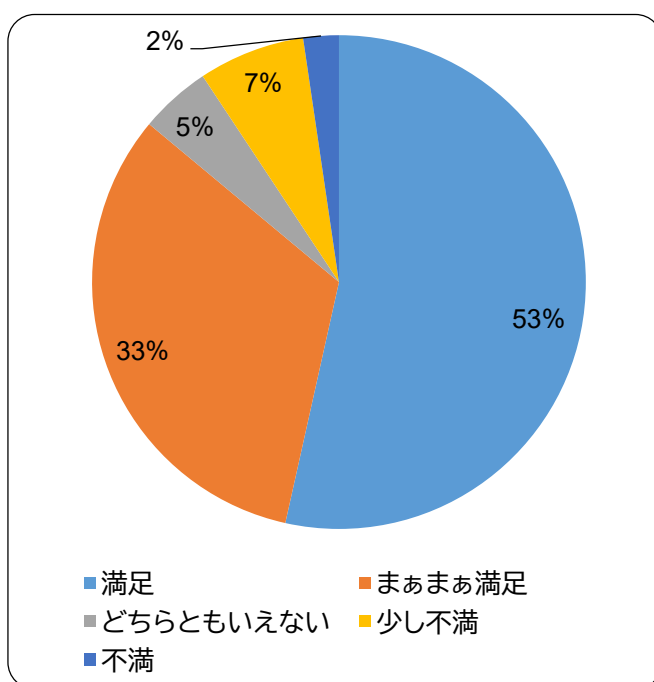
満足	28
まあまあ満足	15
どちらともいえない	0
少し不満	0
不満	0

2. 【時期】当セミナーの満足度をお答えください。



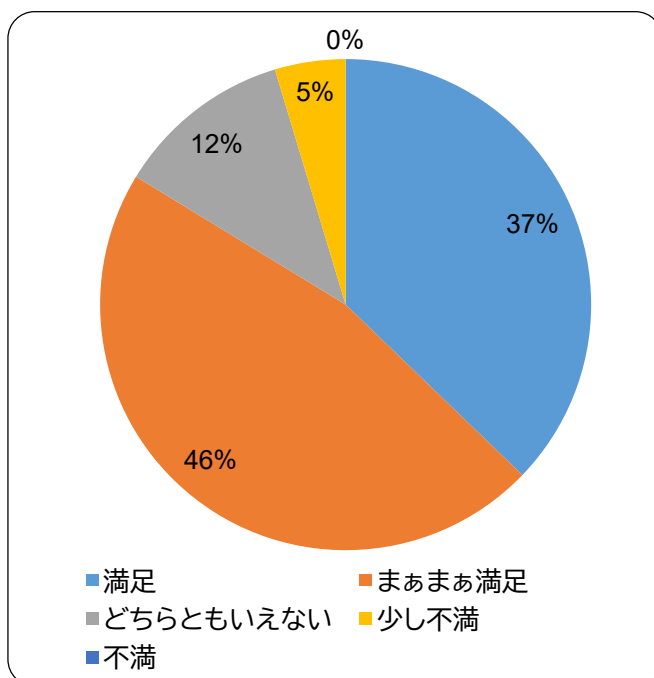
満足	29
まあまあ満足	7
どちらともいえない	5
少し不満	2
不満	0

3. 【施設】当セミナーの満足度をお答えください。



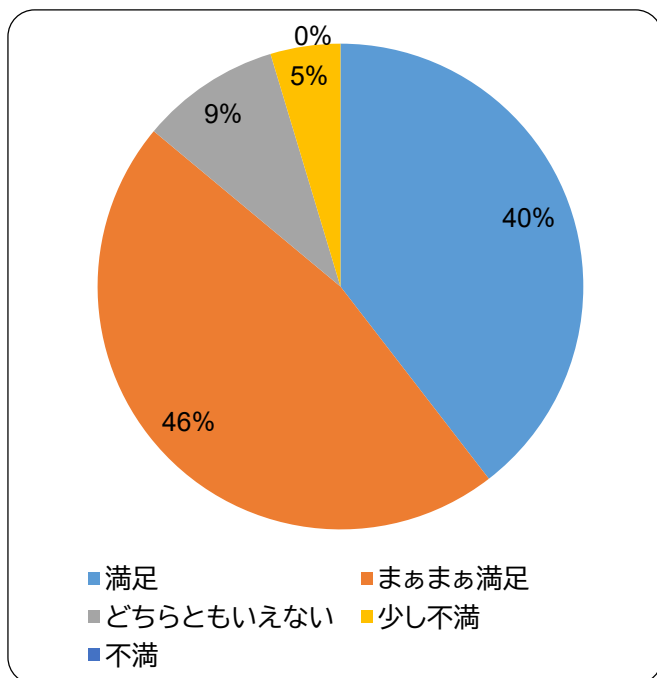
満足	23
まあまあ満足	14
どちらともいえない	2
少し不満	3
不満	1

4. 【教え方】当セミナーの満足度をお答えください。



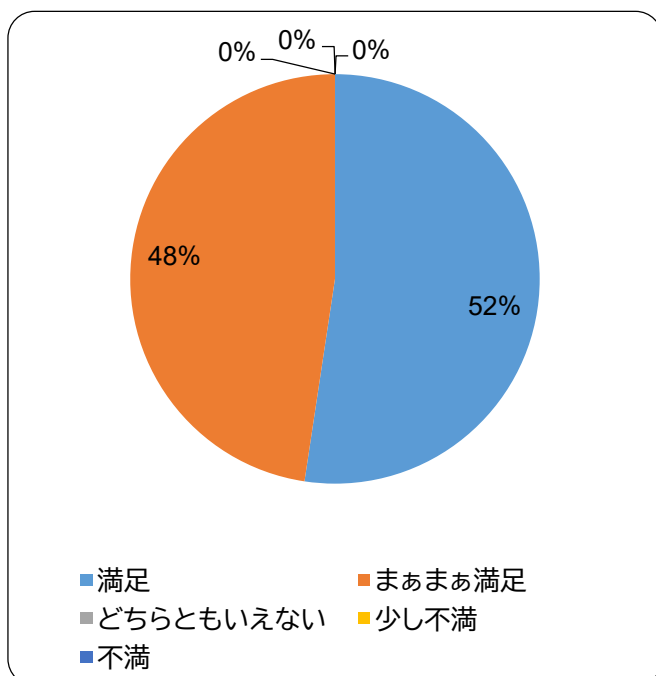
満足	16
まあまあ満足	20
どちらともいえない	5
少し不満	2
不満	0

5. 【教材】当セミナーの満足度をお答えください。



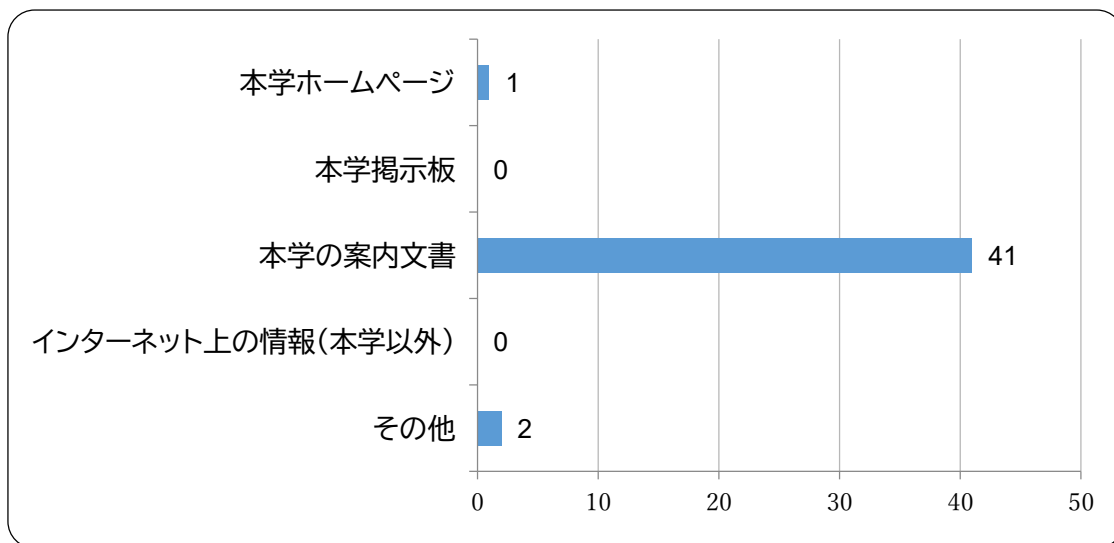
満足	17
まあまあ満足	20
どちらともいえない	4
少し不満	2
不満	0

6. 【総合的】当セミナーの満足度をお答えください。



満足	22
まあまあ満足	20
どちらともいえない	0
少し不満	0
不満	0

7. 今回、セミナーを知った情報先(複数回答可)



本学ホームページ	1
本学掲示板	0
本学の案内文書	41
インターネット上の情報(本学以外)	0
その他	2

その他の内訳
友人の紹介で
同僚からの紹介

2010 年世界史セミナー・参加者アンケート

■世界史セミナー実施日・会場

- ・2010年8月3日(火)・4日(水)
- ・東京外国語大学府中キャンパス

■参加者数／回収枚数／回収率

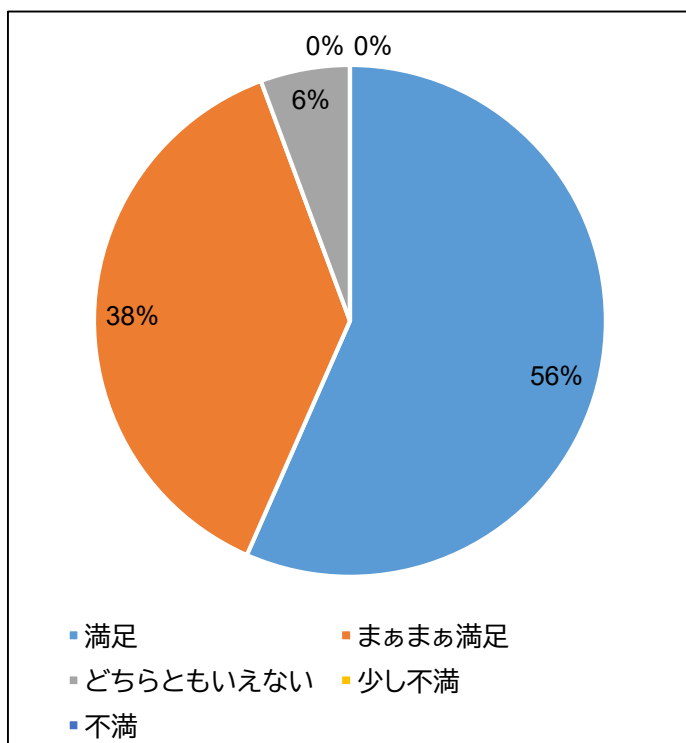
- ・参加者数:79名 / アンケート回収枚数:57枚 / 回収率:72.1%

[質問文・選択肢]

1. 【内容】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
2. 【時期】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
3. 【施設】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
4. 【教え方】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
5. 【教材】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
6. 【総合的】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
7. 今回、セミナーを知った情報先(複数回答可)
〔選択肢〕本学ホームページ / 本学掲示板 / 本学の案内文書 /
/ インターネット上の情報(本学以外) / その他
8. 来年度以降、「夏期世界史セミナー」が開講された場合、受講を希望しますか？
〔選択肢〕する / しない / わからない
9. 会場運営についてお気づきになった点があればお書きください(自由記述欄)
10. その他、講座について、ご意見、ご希望がございましたらご自由にお書きください
(自由記述欄)

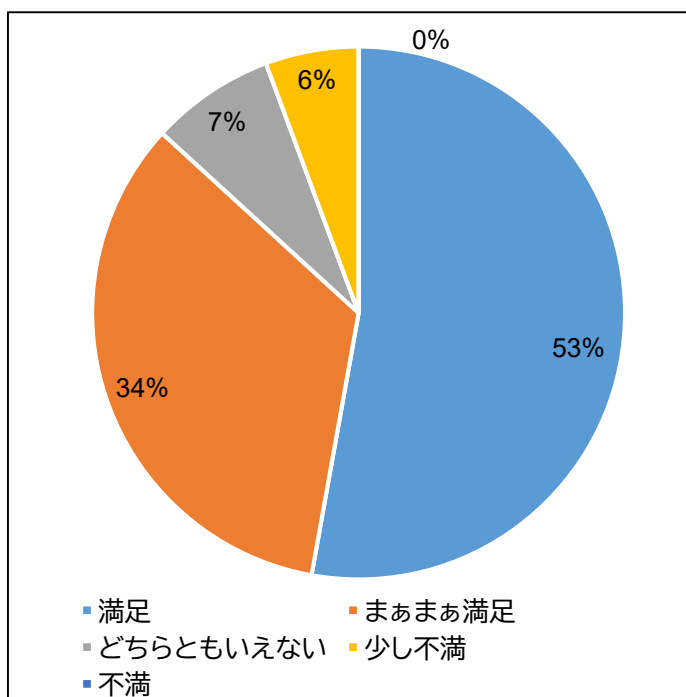
[回答結果]

1. 【内容】当セミナーの満足度をお答えください。



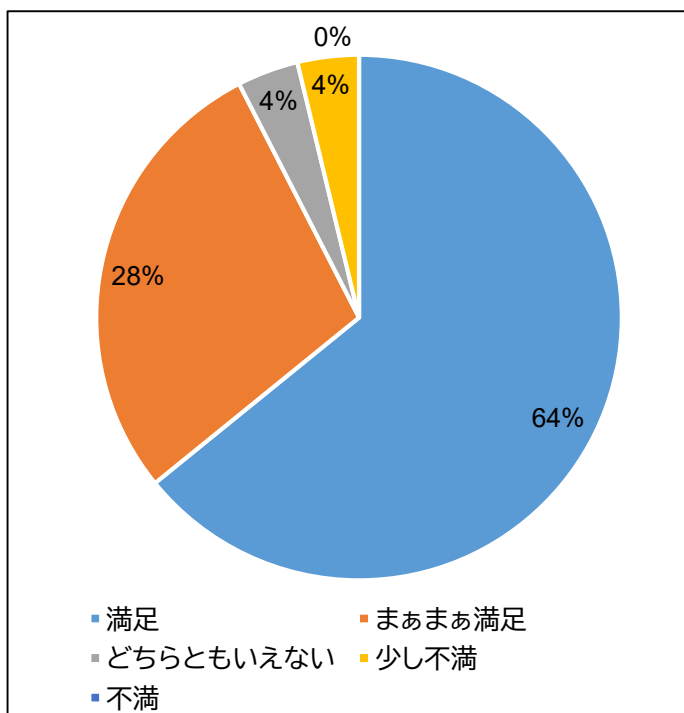
満足	30
まあまあ満足	20
どちらともいえない	3
少し不満	0
不満	0

2. 【時期】当セミナーの満足度をお答えください。



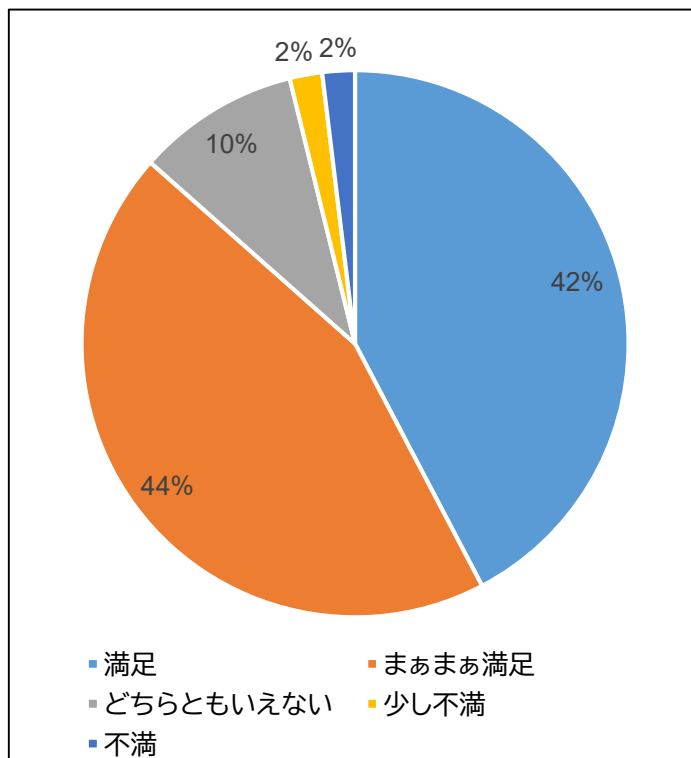
満足	28
まあまあ満足	18
どちらともいえない	4
少し不満	3
不満	0

3. 【施設】当セミナーの満足度をお答えください。



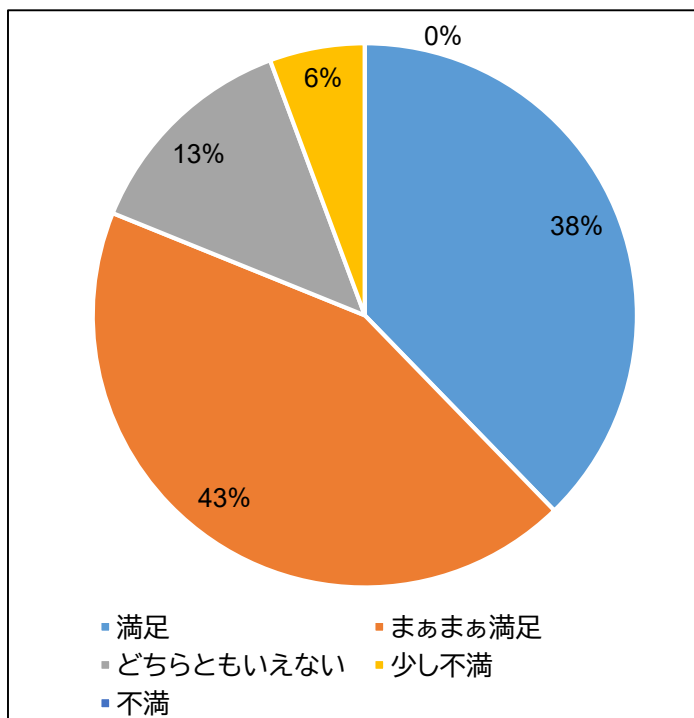
満足	34
まあまあ満足	15
どちらともいえない	2
少し不満	2
不満	0

4. 【教え方】当セミナーの満足度をお答えください。



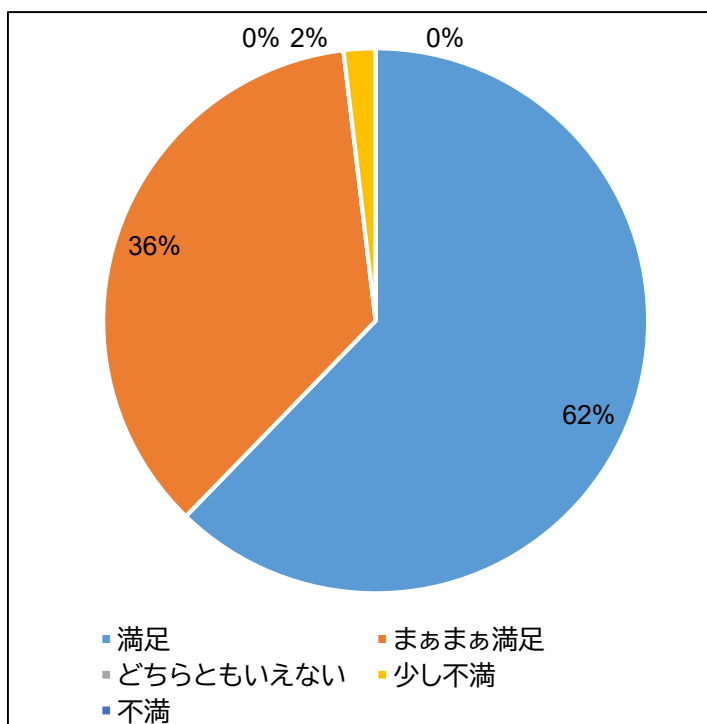
満足	22
まあまあ満足	23
どちらともいえない	5
少し不満	1
不満	1

5. 【教材】当セミナーの満足度をお答えください。



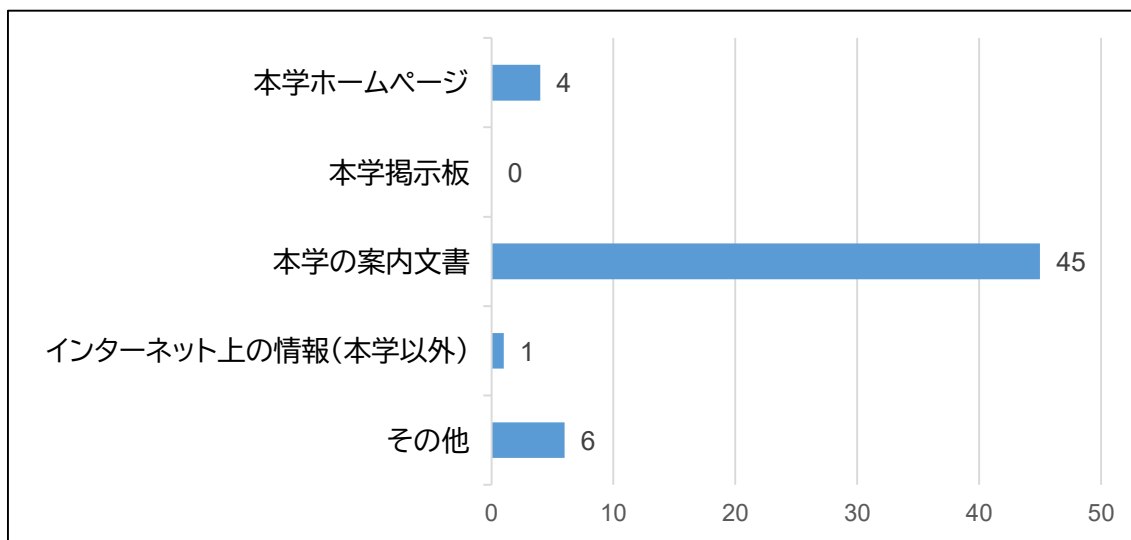
満足	20
まあまあ満足	23
どちらともいえない	7
少し不満	3
不満	0

6. 【総合的】当セミナーの満足度をお答えください。



満足	33
まあまあ満足	19
どちらともいえない	0
少し不満	1
不満	0

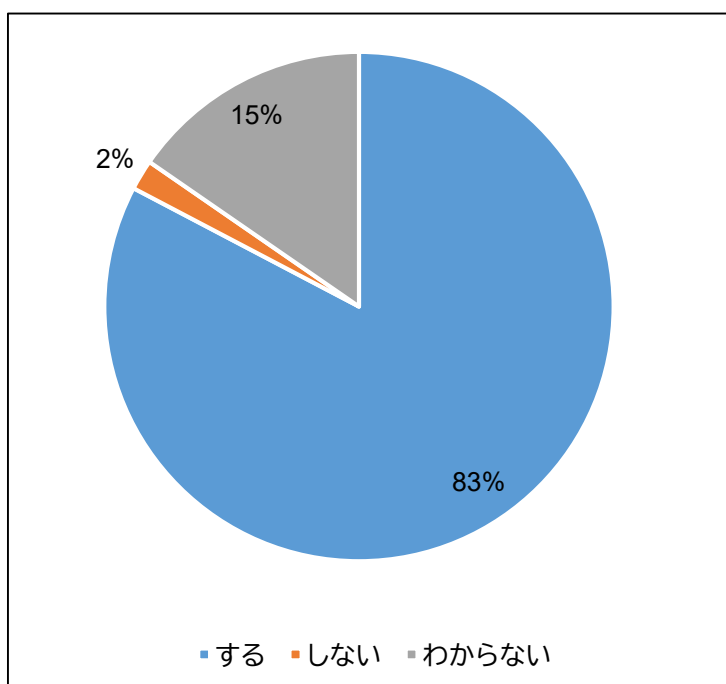
7. 今回、セミナーを知った情報先(複数回答可)



本学ホームページ	4
本学掲示板	0
本学の案内文書	45
インターネット上の情報(本学以外)	1
その他	6

その他の内訳
進路部
知人から
知人の紹介
昨年参加者からの紹介
「本学の案内文書」を同僚から
歴史地理教育

8. 来年度以降、「夏期世界史セミナー」が開講された場合、受講を希望しますか？



する	43
しない	1
わからない	8

2011年世界史セミナー・参加者アンケート

■世界史セミナー実施日・会場

- ・2011年8月3日(水)・4日(木)
- ・東京外国語大学府中キャンパス

■参加者数／回収枚数／回収率

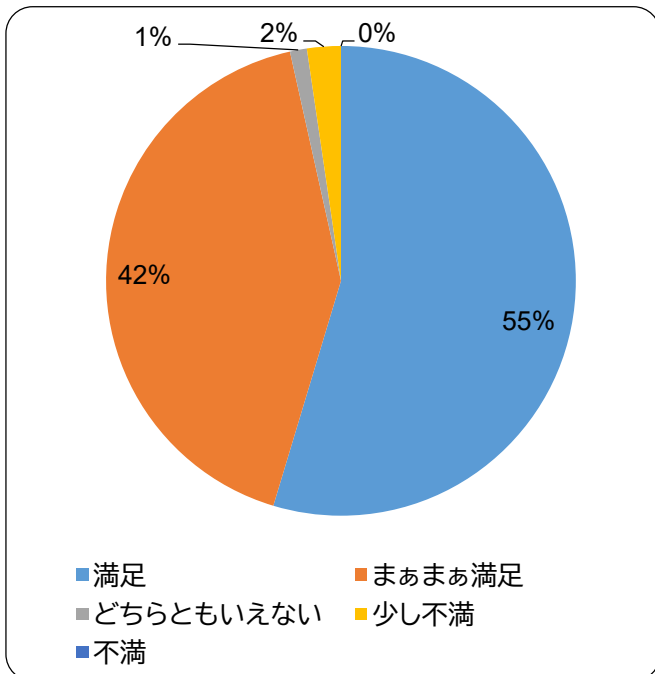
- ・参加者数:154名 / アンケート回収枚数:91枚 / 回収率:59.1%

[質問文・選択肢]

1. 【内容】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
2. 【時期】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
3. 【施設】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
4. 【教え方】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
5. 【教材】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
6. 【総合的】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
7. 今回、セミナーを知った情報先(複数回答可)
〔選択肢〕本学ホームページ / 本学掲示板 / 本学の案内文書 /
/ インターネット上の情報(本学以外) / その他
8. 来年度以降、「夏期世界史セミナー」が開講された場合、受講を希望しますか？
〔選択肢〕する / しない / わからない
9. 会場運営についてお気づきになった点があればお書きください(自由記述欄)
10. その他、講座について、ご意見、ご希望がございましたらご自由にお書きください
(自由記述欄)

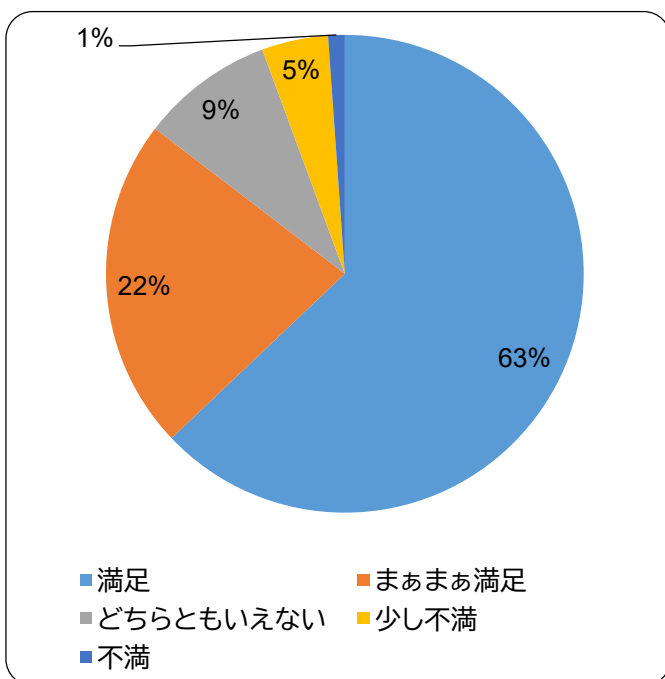
[回答結果]

1. 【内容】当セミナーの満足度をお答えください。



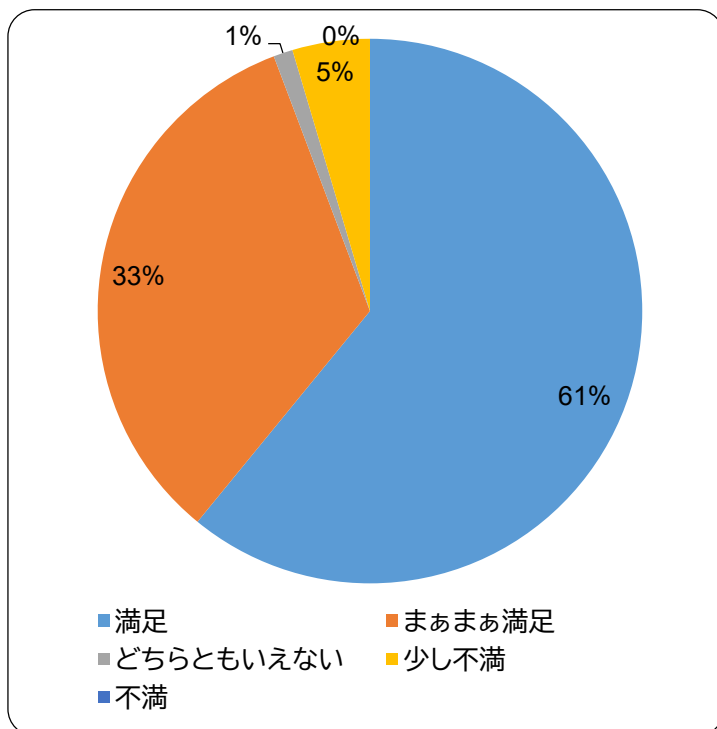
満足	47
まあまあ満足	36
どちらともいえない	1
少し不満	2
不満	0

2. 【時期】当セミナーの満足度をお答えください。



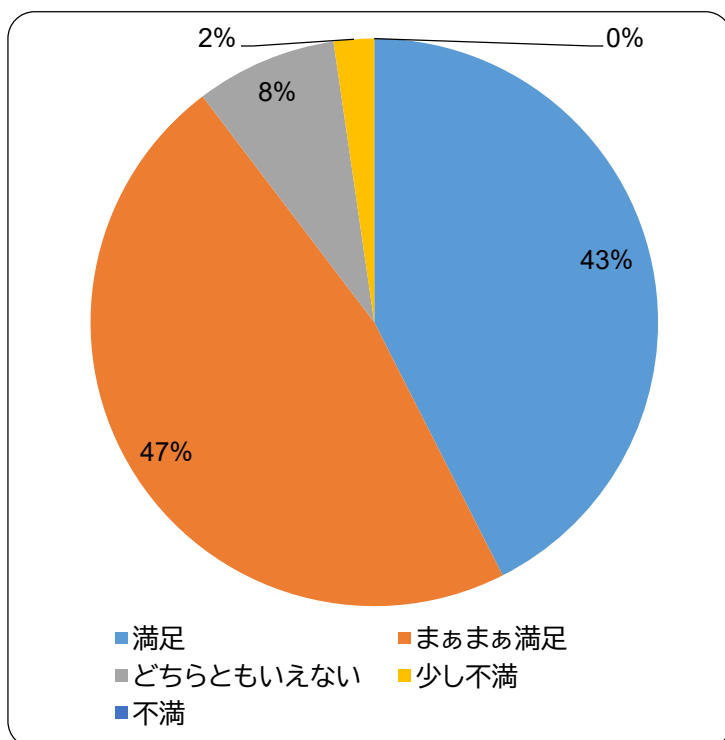
満足	56
まあまあ満足	20
どちらともいえない	8
少し不満	4
不満	1

3. 【施設】当セミナーの満足度をお答えください。



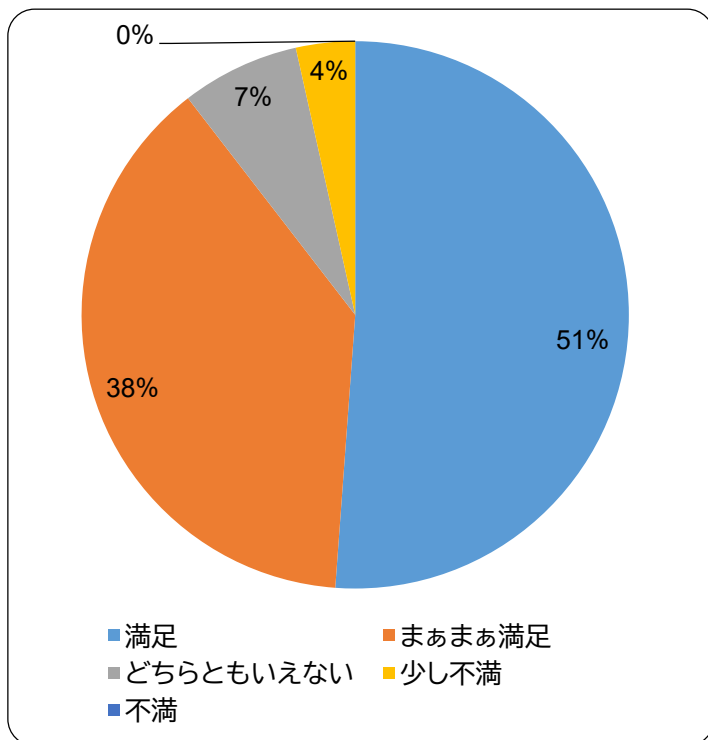
満足	53
まあまあ満足	29
どちらともいえない	1
少し不満	4
不満	0

4. 【教え方】当セミナーの満足度をお答えください。



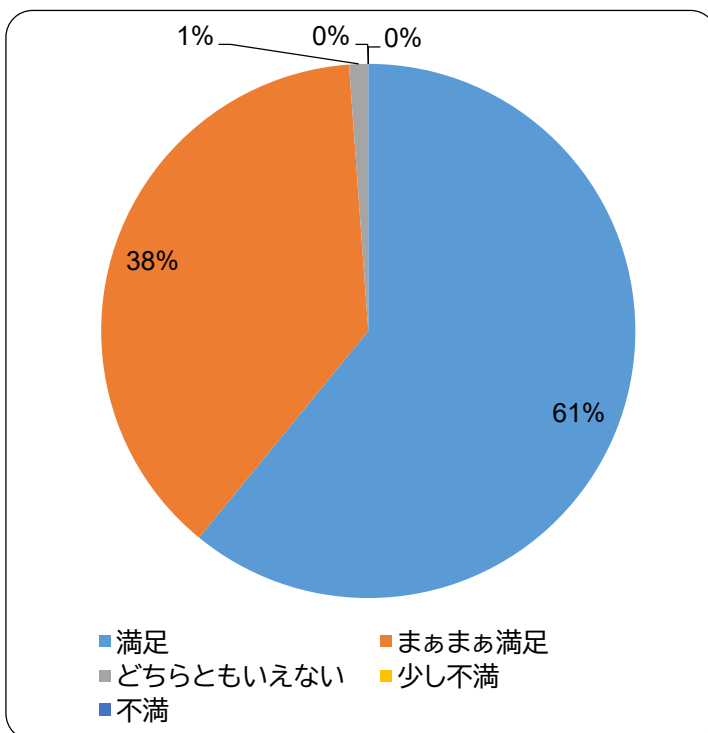
満足	37
まあまあ満足	41
どちらともいえない	7
少し不満	2
不満	0

5. 【教材】当セミナーの満足度をお答えください。



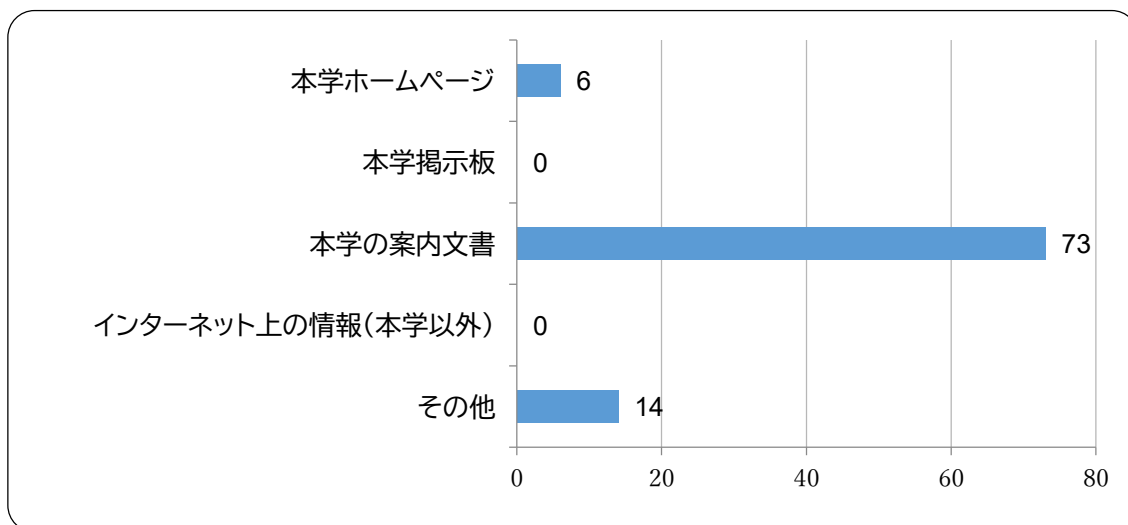
満足	44
まあまあ満足	33
どちらともいえない	6
少し不満	3
不満	0

6. 【総合的】当セミナーの満足度をお答えください。



満足	53
まあまあ満足	33
どちらともいえない	1
少し不満	0
不満	0

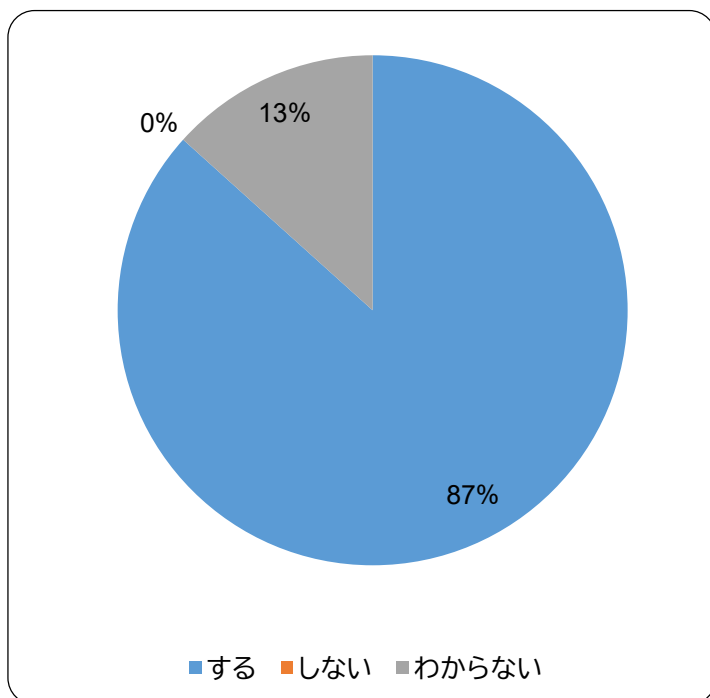
7. 今回、セミナーを知った情報先(複数回答可)



本学ホームページ	6
本学掲示板	0
本学の案内文書	73
インターネット上の情報(本学以外)	0
その他	14

その他の内訳
他校の世界史教員よりの情報 問い合わせました。
教員間メール
友人の紹介
知り合いから 昨年度も参加しました。
勤務校からの紹介
昨年も参加したため、案内…
高教研歴史部会で配付され…
昨年参加した同僚から
他の教員の紹介
DM
知人より
紹介を頂いた

8. 来年度以降、「夏期世界史セミナー」が開講された場合、受講を希望しますか？



する	78
しない	0
わからない	12

2012年世界史セミナー・参加者アンケート

■世界史セミナー実施日・会場

- ・2012年8月3日(金)・4日(土)
- ・東京外国語大学府中キャンパス

■参加者数／回収枚数／回収率

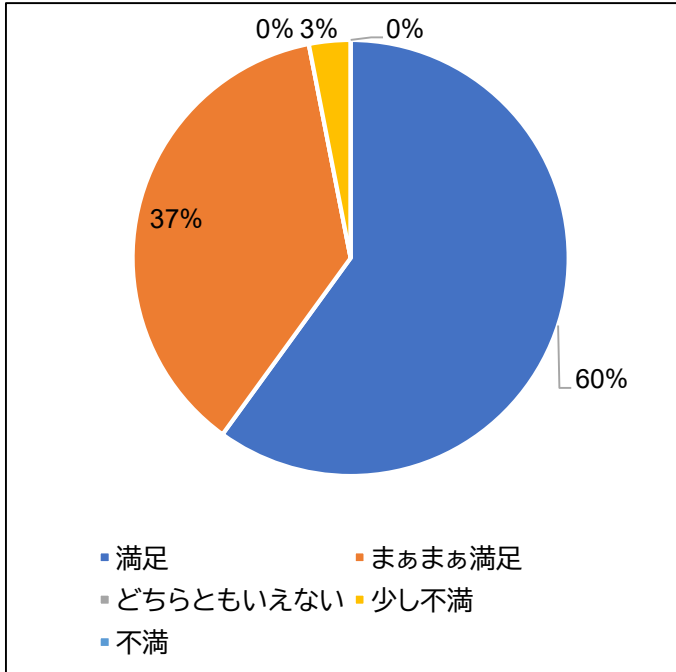
- ・参加者数:121名 / アンケート回収枚数:72枚 / 回収率:59.5%

[質問文・選択肢]

1. 【内容】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
2. 【時期】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
3. 【施設】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
4. 【教え方】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
5. 【教材】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
6. 【総合的】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
7. 今回、セミナーを知った情報先(複数回答可)
〔選択肢〕本学ホームページ / 本学掲示板 / 本学の案内文書 /
/ インターネット上の情報(本学以外) / その他
8. 来年度以降、「夏期世界史セミナー」が開講された場合、受講を希望しますか？
〔選択肢〕する / しない / わからない
9. 会場運営についてお気づきになった点があればお書きください(自由記述欄)
10. その他、講座について、ご意見、ご希望がございましたらご自由にお書きください
(自由記述欄)

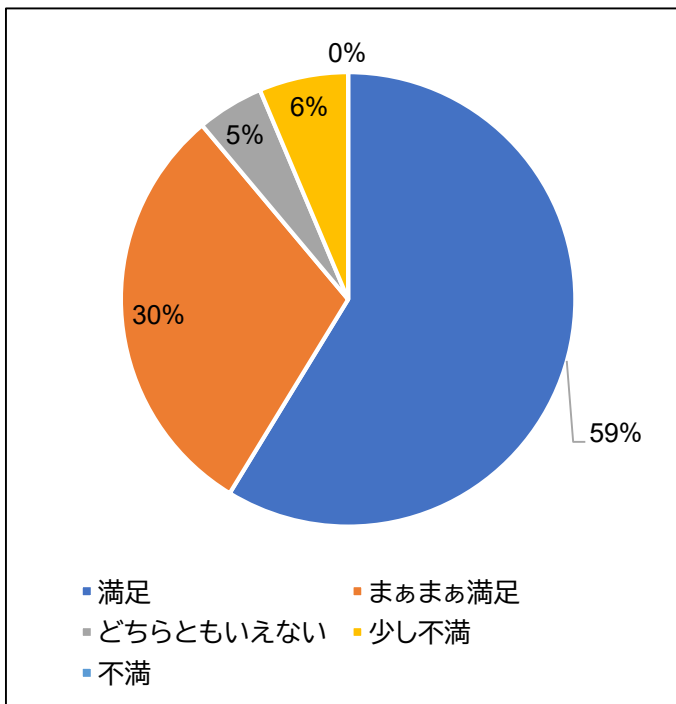
[回答結果]

1. 【内容】当セミナーの満足度をお答えください。



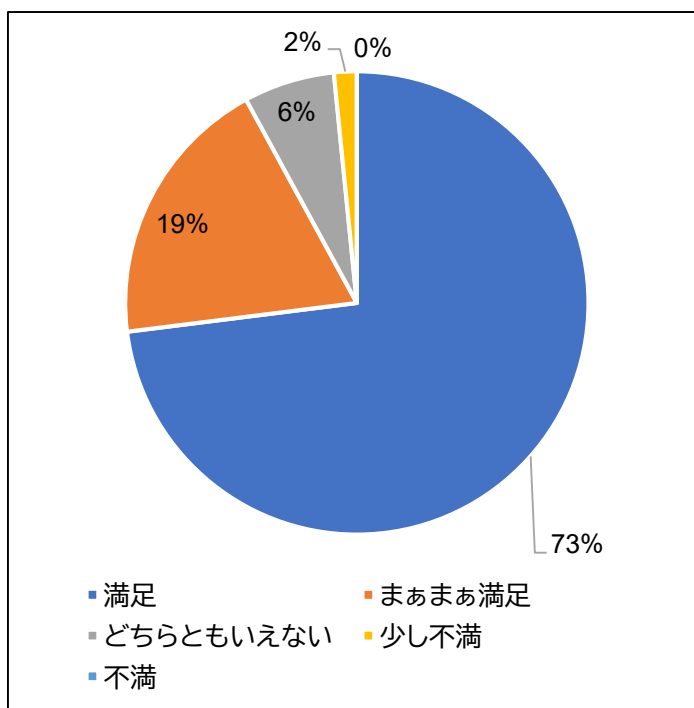
満足	39
まあまあ満足	24
どちらともいえない	0
少し不満	2
不満	0

2. 【時期】当セミナーの満足度をお答えください。



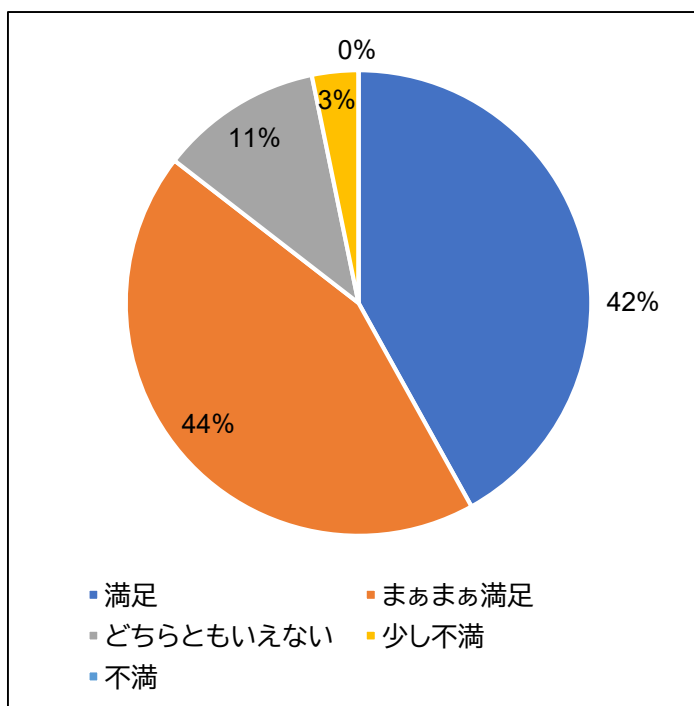
満足	37
まあまあ満足	19
どちらともいえない	3
少し不満	4
不満	0

3. 【施設】当セミナーの満足度をお答えください。



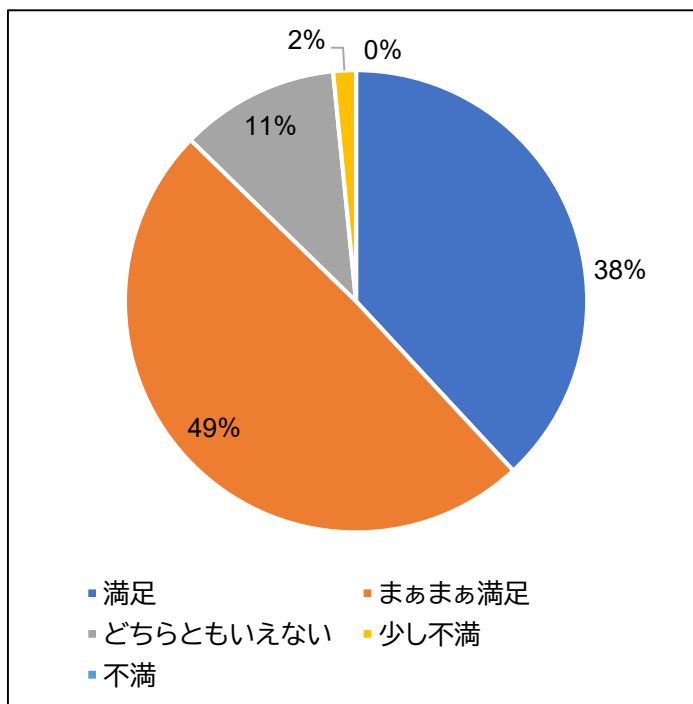
満足	46
まあまあ満足	12
どちらともいえない	4
少し不満	1
不満	0

4. 【教え方】当セミナーの満足度をお答えください。



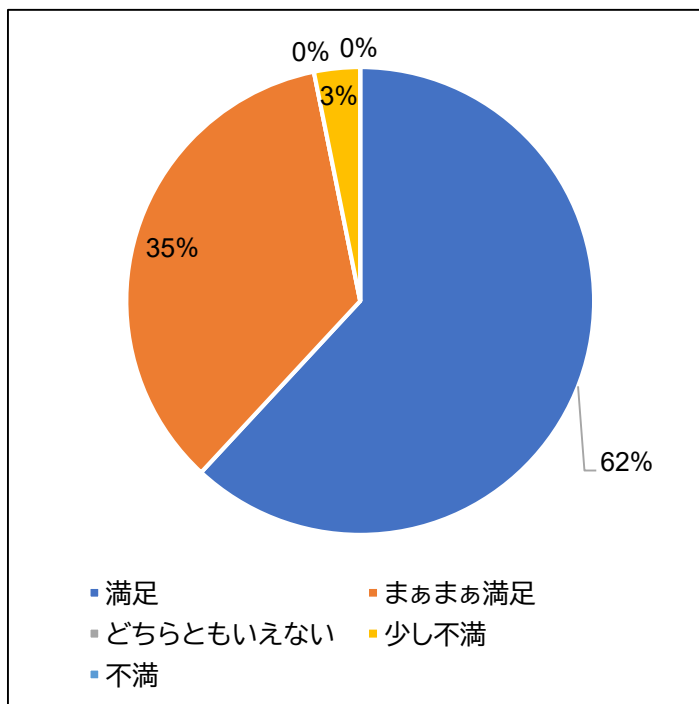
満足	26
まあまあ満足	27
どちらともいえない	7
少し不満	2
不満	0

5. 【教材】当セミナーの満足度をお答えください。



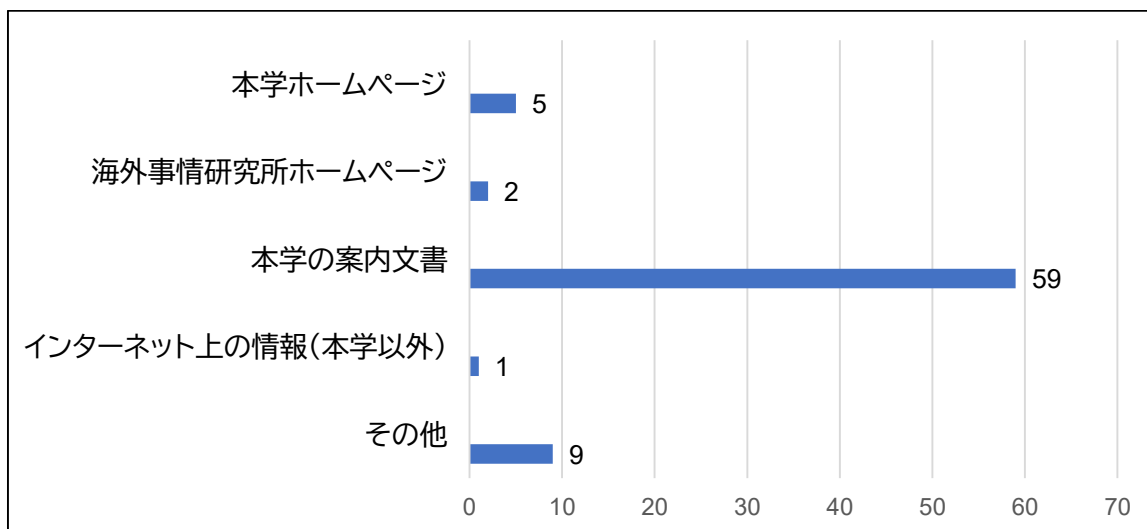
満足	24
まあまあ満足	31
どちらともいえない	7
少し不満	1
不満	0

6. 【総合的】当セミナーの満足度をお答えください。



満足	39
まあまあ満足	22
どちらともいえない	0
少し不満	2
不満	0

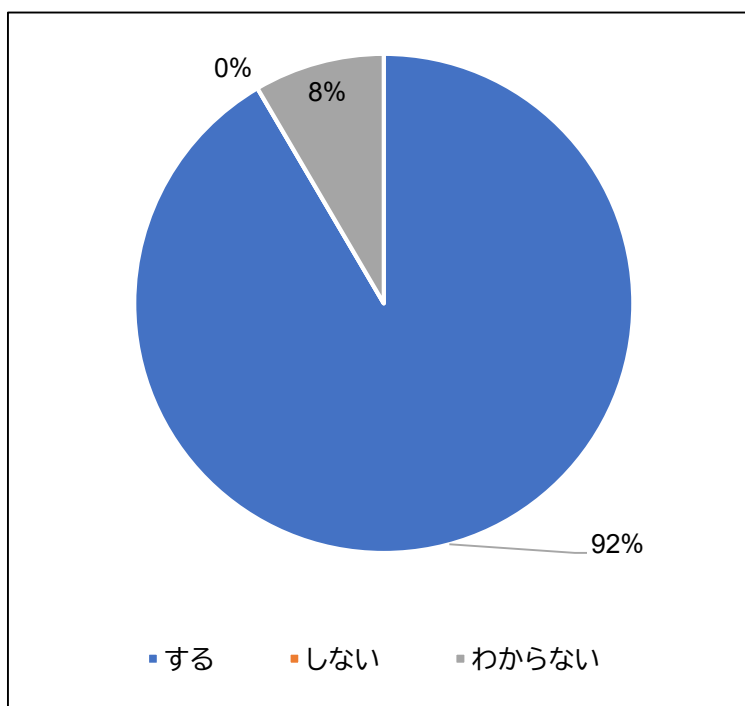
7. 今回、セミナーを知った情報先(複数回答可)



本学ホームページ	5
海外事情研究所ホームページ	2
本学の案内文書	59
インターネット上の情報(本学以外)	1
その他	9

その他の内訳	
勤務先からの紹介	
職場で	
昨年度も参加	
勤務校への案内	
勤務先の教員からの紹介	
知人紹介	
先輩教員の紹介	
知人から	
知人より	

8. 来年度以降、「夏期世界史セミナー」が開講された場合、受講を希望しますか？



する	65
しない	0
わからない	6

2013年世界史セミナー・参加者アンケート

■世界史セミナー実施日・会場

- ・2013年7月30日(火)・31日(水)
- ・東京外国語大学府中キャンパス

■参加者数／回収枚数／回収率

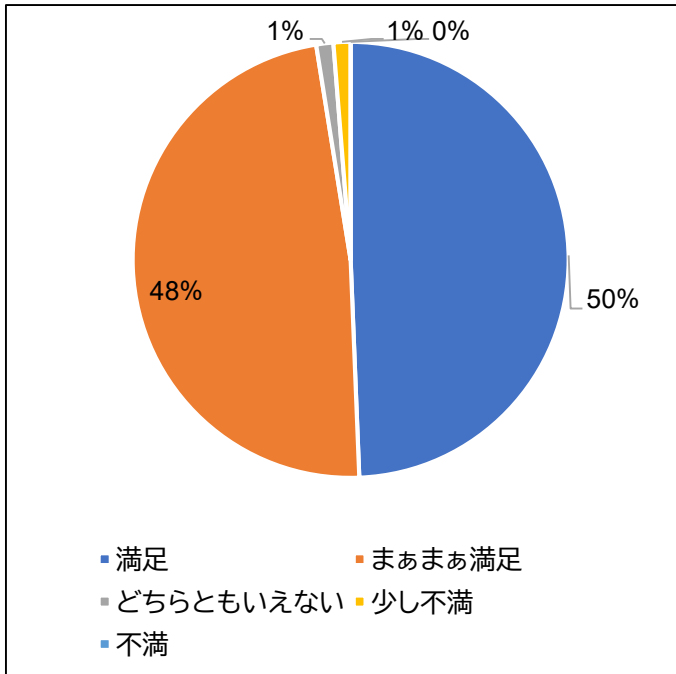
- ・参加者数:122名 / アンケート回収枚数:84枚 / 回収率:68.9%

[質問文・選択肢]

1. 【内容】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
2. 【時期】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
3. 【施設】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
4. 【教え方】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
5. 【教材】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
6. 【総合的】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
7. 今回、セミナーを知った情報先(複数回答可)
〔選択肢〕本学ホームページ / 本学掲示板 / 本学の案内文書 /
/ インターネット上の情報(本学以外) / その他
8. 来年度以降、「夏期世界史セミナー」が開講された場合、受講を希望しますか？
〔選択肢〕する / しない / わからない
9. 会場運営についてお気づきになった点があればお書きください(自由記述欄)
10. その他、講座について、ご意見、ご希望がございましたらご自由にお書きください
(自由記述欄)

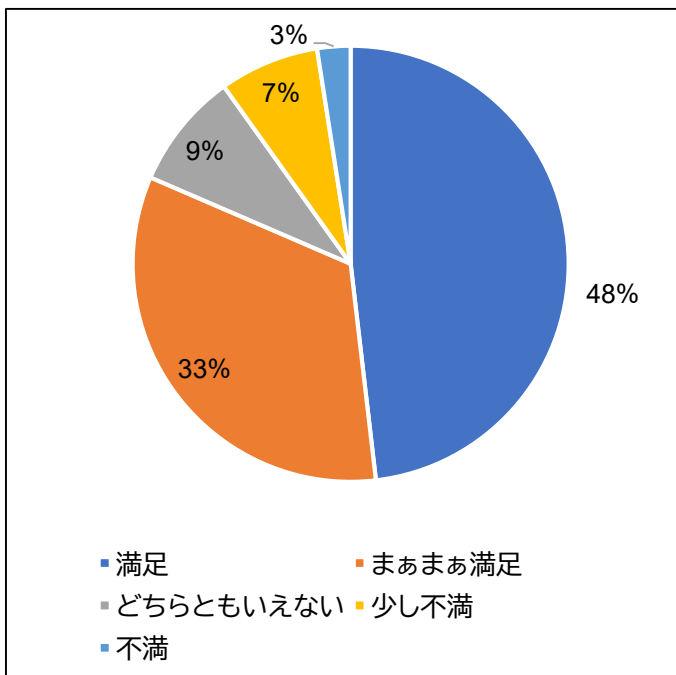
[回答結果]

1. 【内容】当セミナーの満足度をお答えください。



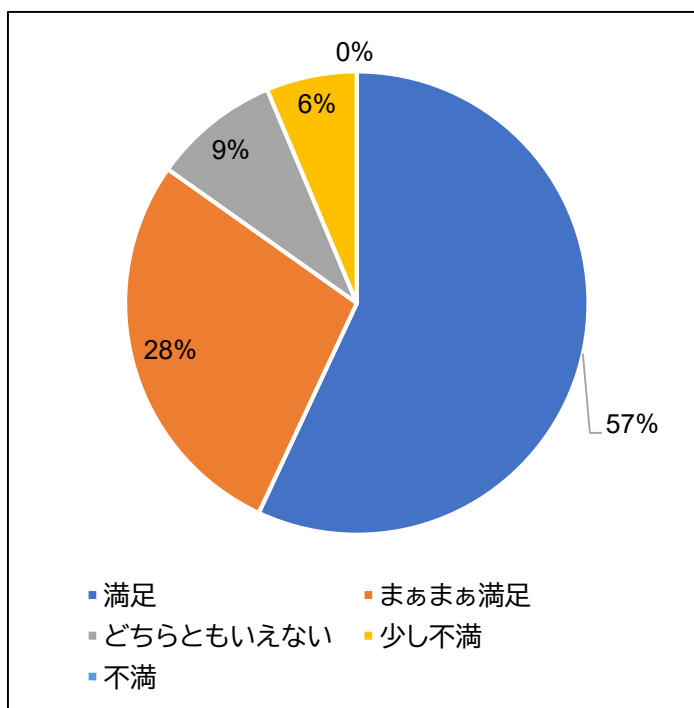
満足	39
まあまあ満足	38
どちらともいえない	1
少し不満	1
不満	0

2. 【時期】当セミナーの満足度をお答えください。



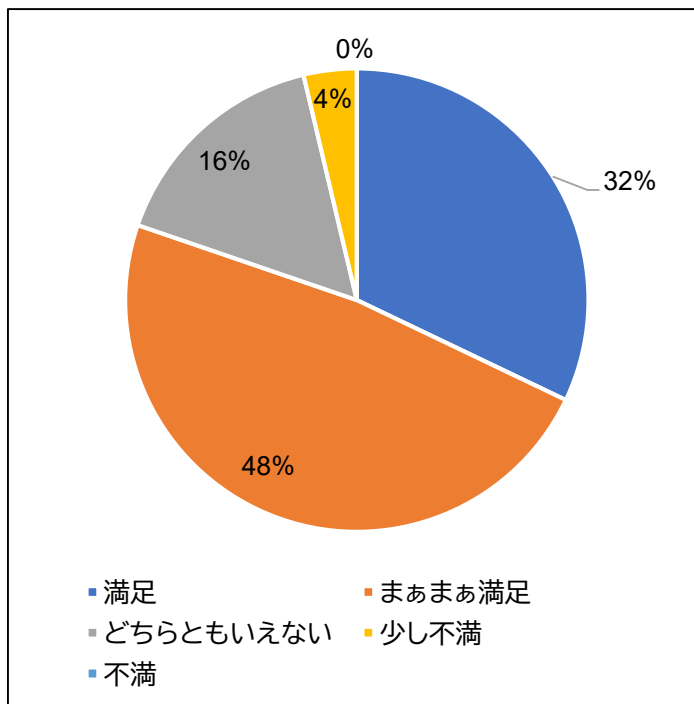
満足	39
まあまあ満足	27
どちらともいえない	7
少し不満	6
不満	2

3. 【施設】当セミナーの満足度をお答えください。



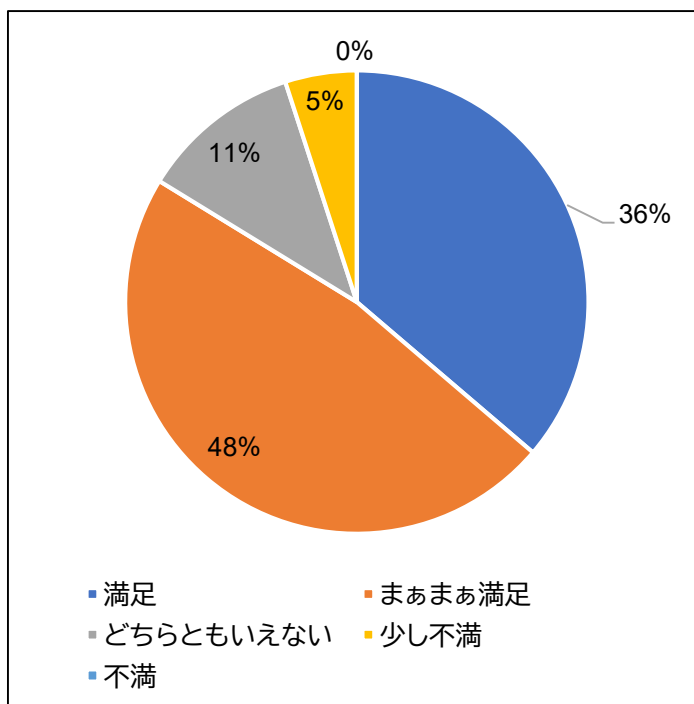
満足	45
まあまあ満足	22
どちらともいえない	7
少し不満	5
不満	0

4. 【教え方】当セミナーの満足度をお答えください。



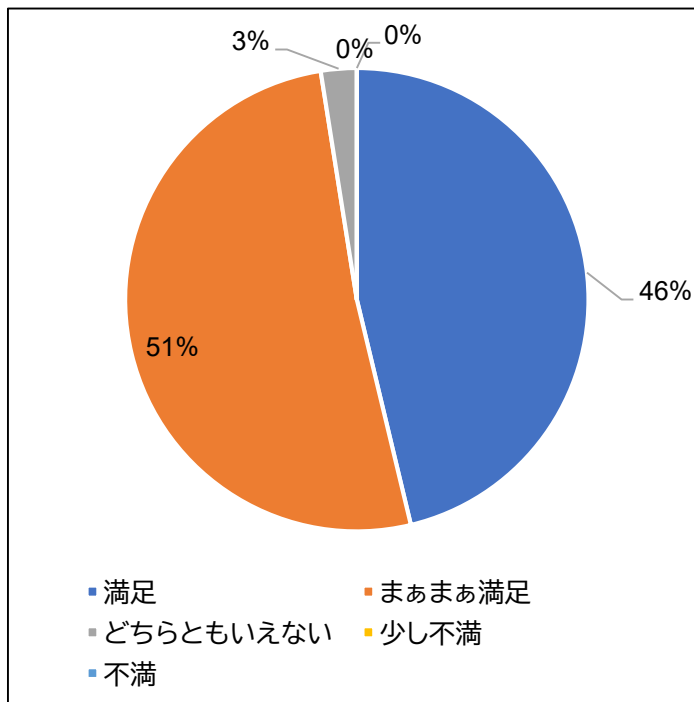
満足	26
まあまあ満足	39
どちらともいえない	13
少し不満	3
不満	0

5. 【教材】当セミナーの満足度をお答えください。



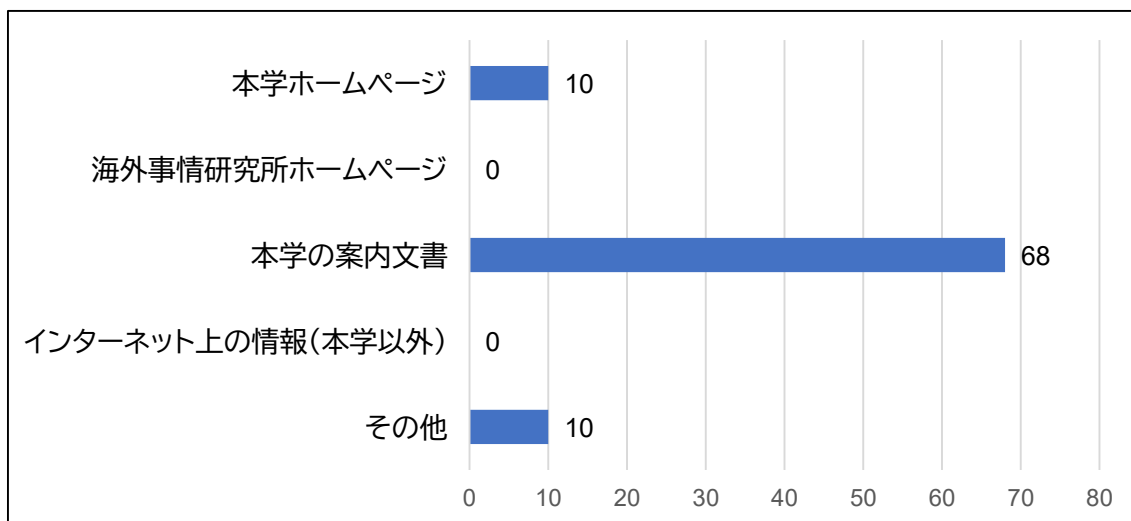
満足	29
まあまあ満足	38
どちらともいえない	9
少し不満	4
不満	0

6. 【総合的】当セミナーの満足度をお答えください。



満足	37
まあまあ満足	41
どちらともいえない	2
少し不満	0
不満	0

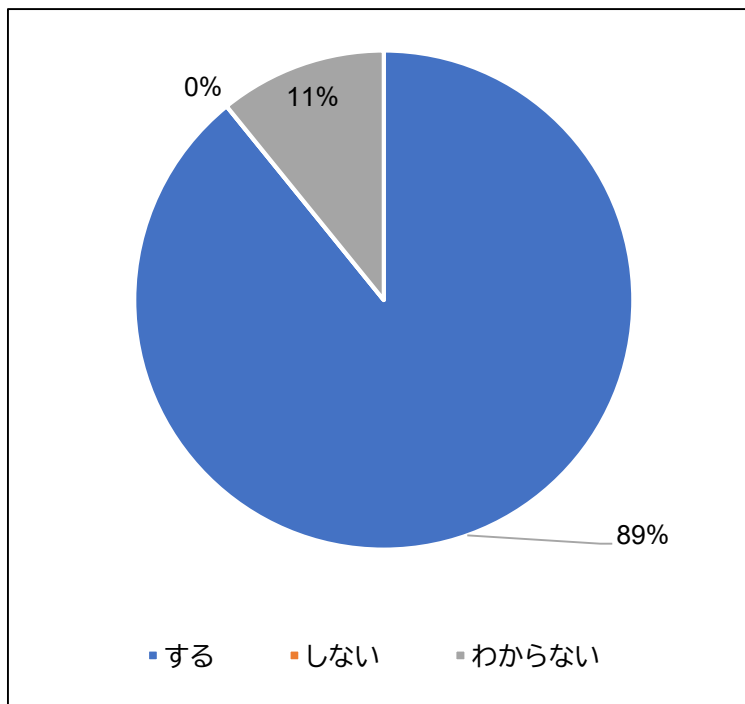
7. 今回、セミナーを知った情報先(複数回答可)



本学ホームページ	8
海外事情研究所ホームページ	5
本学の案内文書	68
インターネット上の情報(本学以外)	0
その他	10

その他の内訳	
以前受講された方から	
知人の紹介	
同僚にすすめられて	
昨年のセミナー時のご案内	
昨年も参加	
勤務校への案内	
主催者側の関係者の紹介	
勤務校での告知	
知人	

8. 来年度以降、「夏期世界史セミナー」が開講された場合、受講を希望しますか？



する	74
しない	0
わからない	9

2014年世界史セミナー・参加者アンケート

■世界史セミナー実施日・会場

- ・2014年7月29日(火)・30日(水)
- ・東京外国語大学府中キャンパス

■参加者数／回収枚数／回収率

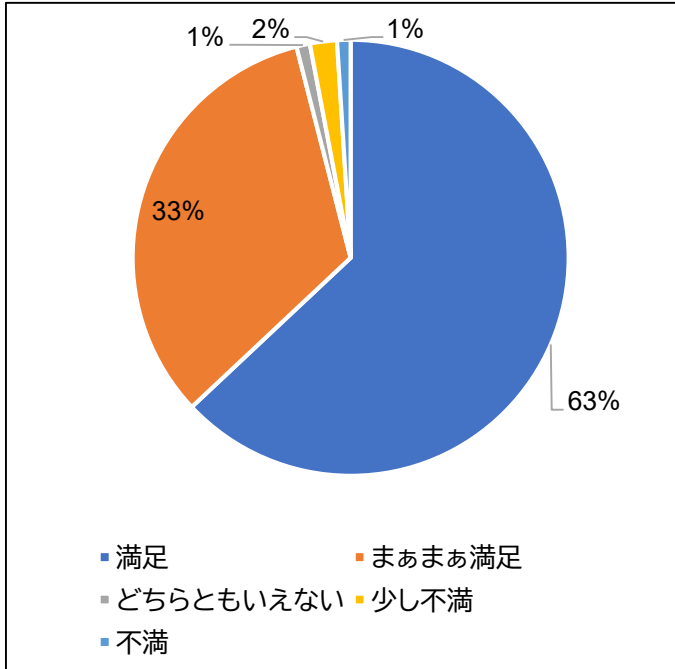
- ・参加者数:143名 / アンケート回収枚数:103枚 / 回収率:72.0%

[質問文・選択肢]

1. 【内容】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
2. 【時期】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
3. 【施設】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
4. 【教え方】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
5. 【教材】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
6. 【総合的】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
7. 今回、セミナーを知った情報先(複数回答可)
〔選択肢〕本学ホームページ / 本学掲示板 / 本学の案内文書 /
/ インターネット上の情報(本学以外) / その他
8. 来年度以降、「夏期世界史セミナー」が開講された場合、受講を希望しますか？
〔選択肢〕する / しない / わからない
9. 会場運営についてお気づきになった点があればお書きください(自由記述欄)
10. その他、講座について、ご意見、ご希望がございましたらご自由にお書きください
(自由記述欄)

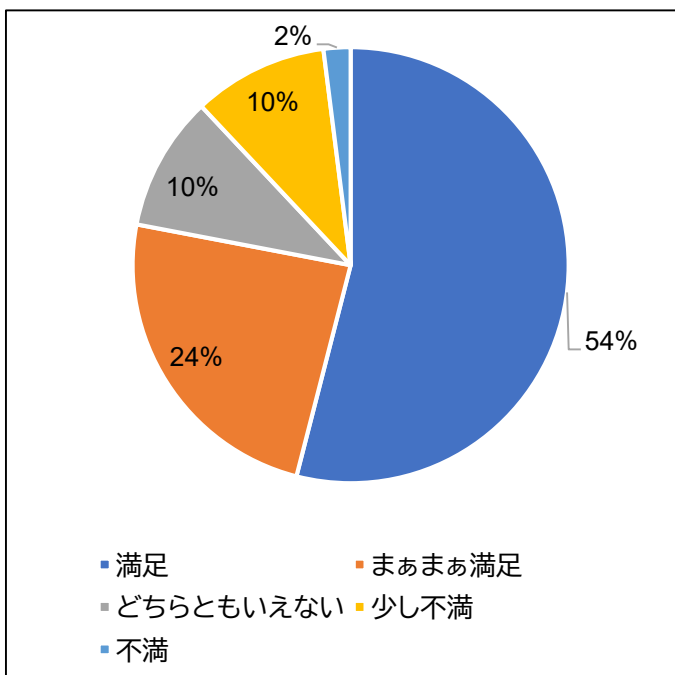
[回答結果]

1. 【内容】当セミナーの満足度をお答えください



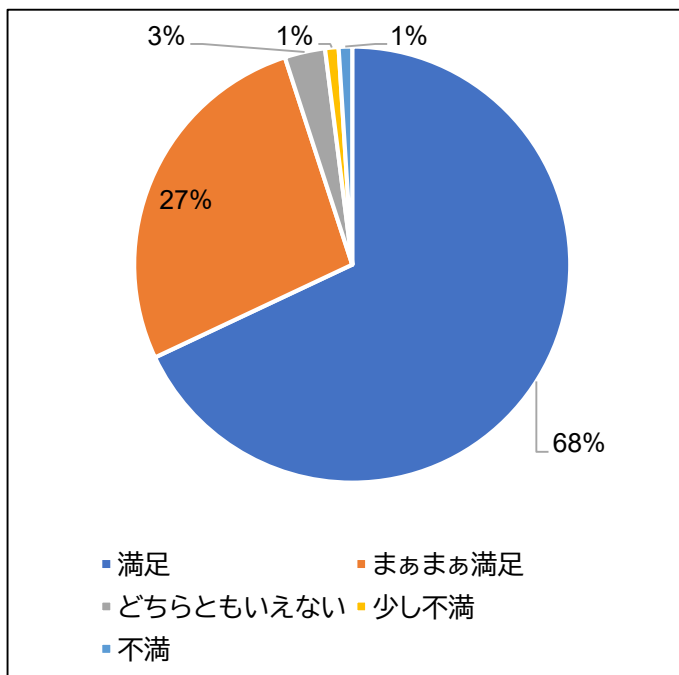
満足	63
まあまあ満足	33
どちらともいえない	1
少し不満	2
不満	1

2. 【時期】当セミナーの満足度をお答えください。



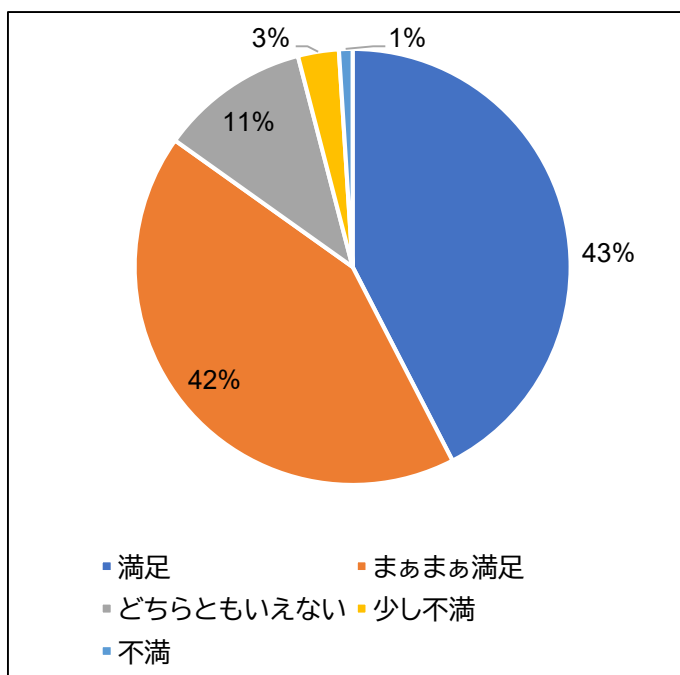
満足	54
まあまあ満足	24
どちらともいえない	10
少し不満	10
不満	2

3. 【施設】当セミナーの満足度をお答えください。



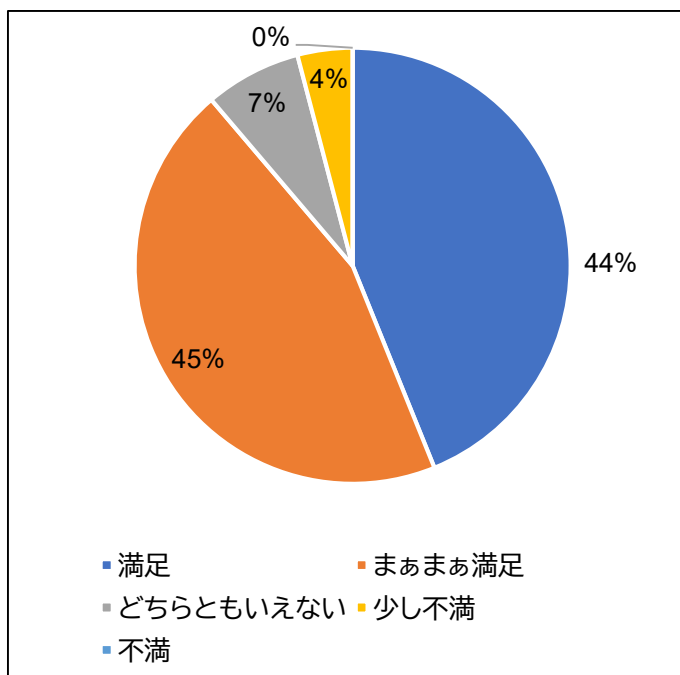
満足	68
まあまあ満足	27
どちらともいえない	3
少し不満	1
不満	1

4. 【教え方】当セミナーの満足度をお答えください。



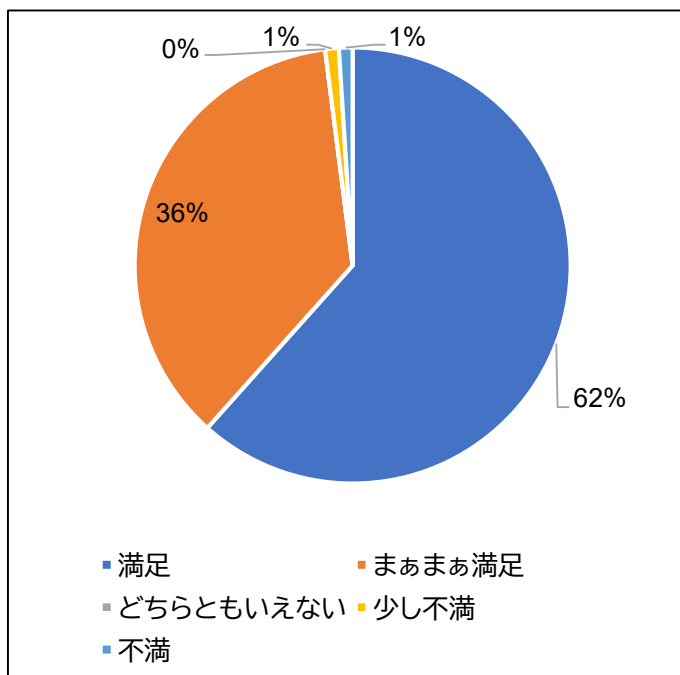
満足	42
まあまあ満足	42
どちらともいえない	11
少し不満	3
不満	1

5. 【教材】当セミナーの満足度をお答えください。



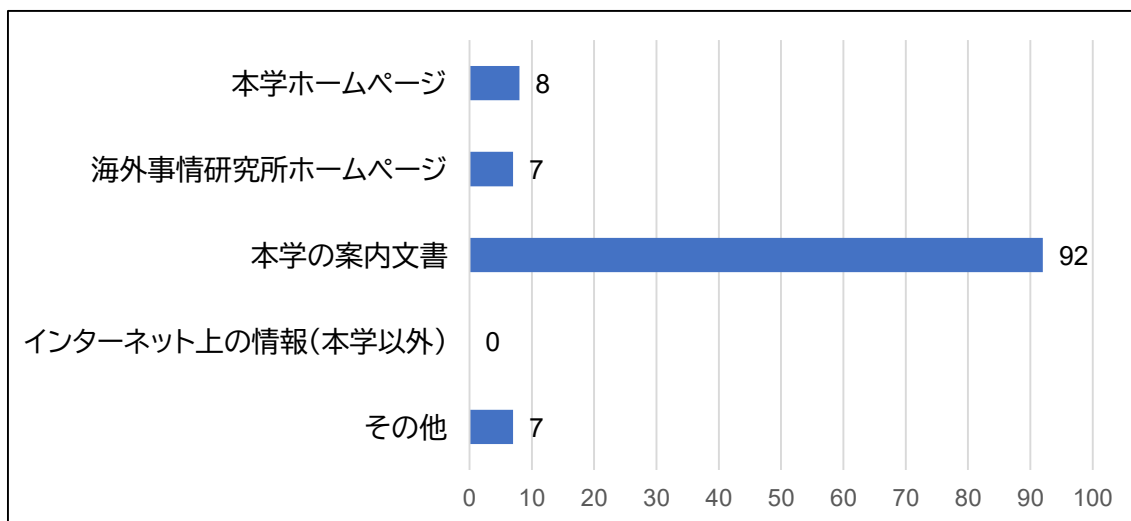
満足	43
まあまあ満足	44
どちらともいえない	7
少し不満	4
不満	0

6. 【総合的】当セミナーの満足度をお答えください。



満足	61
まあまあ満足	36
どちらともいえない	0
少し不満	1
不満	1

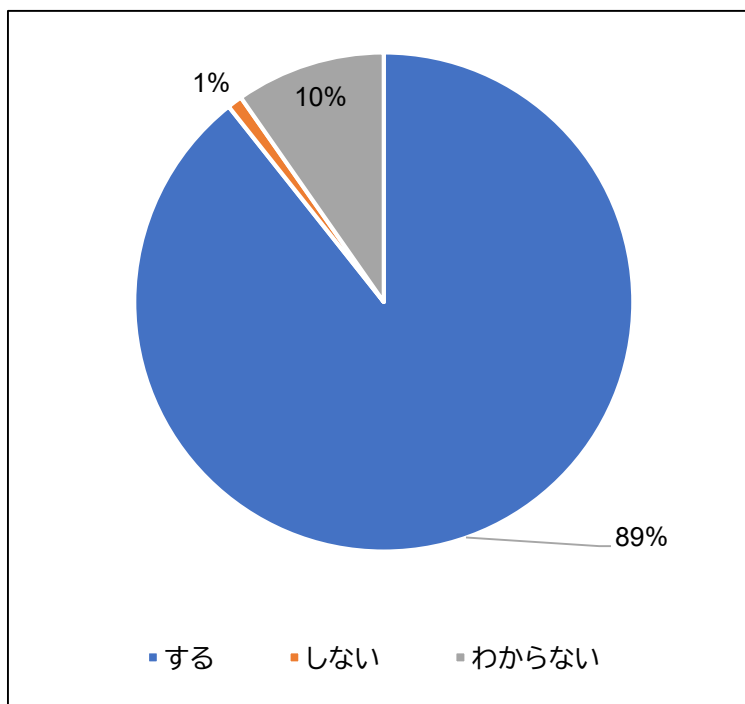
7. 今回、セミナーを知った情報先(複数回答可)



本学ホームページ	8
海外事情研究所ホームページ	7
本学の案内文書	92
インターネット上の情報(本学以外)	0
その他	7

その他の内訳	
昨年参加した同僚から	
知人の紹介	
職場の先生から	
以前から知っていた	
勤務校にて	
同職している方からの紹介	
所員の先生からのご案内	

8. 来年度以降、「夏期世界史セミナー」が開講された場合、受講を希望しますか？



する	92
しない	1
わからない	10

2015年世界史セミナー・参加者アンケート

■世界史セミナー実施日・会場

- ・2015年7月27日(月)・28日(火)
- ・東京外国語大学府中キャンパス

■参加者数／回収枚数／回収率

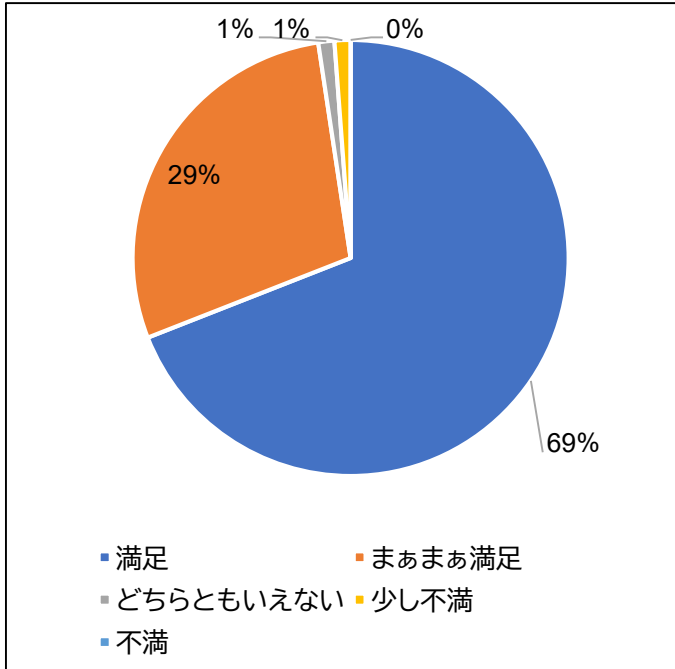
- ・参加者数:158名 / アンケート回収枚数:87枚 / 回収率:55.1%

[質問文・選択肢]

1. 【内容】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
2. 【時期】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
3. 【施設】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
4. 【教え方】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
5. 【教材】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
6. 【総合的】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
7. 今回、セミナーを知った情報先(複数回答可)
〔選択肢〕本学ホームページ / 本学掲示板 / 本学の案内文書 /
/ インターネット上の情報(本学以外) / その他
8. 来年度以降、「夏期世界史セミナー」が開講された場合、受講を希望しますか？
〔選択肢〕する / しない / わからない
9. 会場運営についてお気づきになった点があればお書きください(自由記述欄)
10. その他、講座について、ご意見、ご希望がございましたらご自由にお書きください
(自由記述欄)

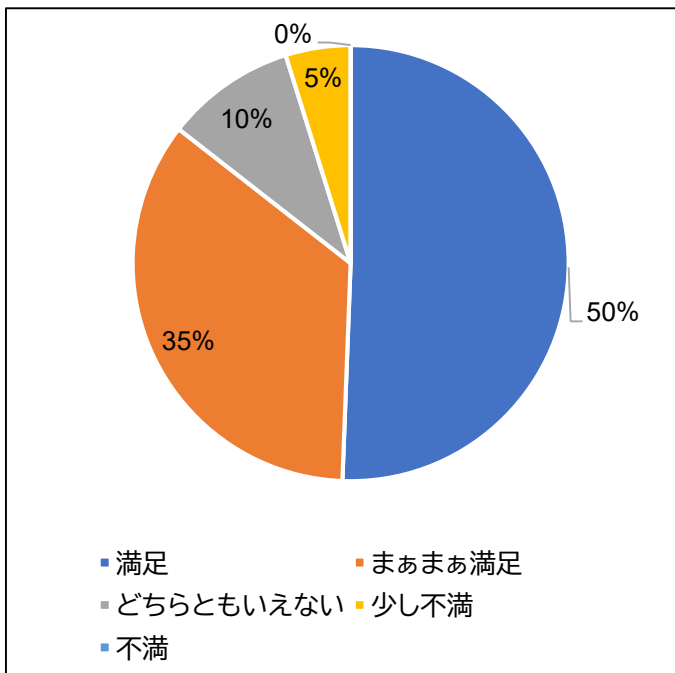
[回答結果]

1. 【内容】当セミナーの満足度をお答えください。



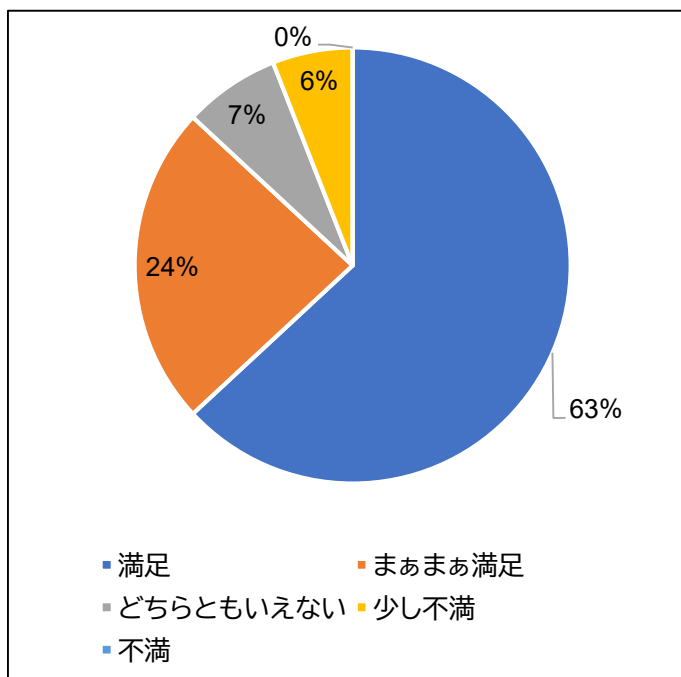
満足	58
まあまあ満足	24
どちらともいえない	1
少し不満	1
不満	0

2. 【時期】当セミナーの満足度をお答えください。



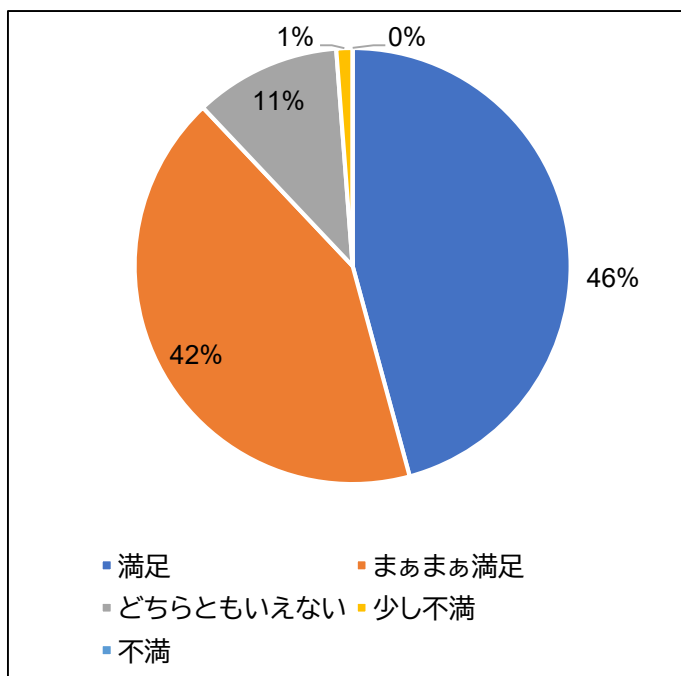
満足	42
まあまあ満足	29
どちらともいえない	8
少し不満	4
不満	0

3. 【施設】当セミナーの満足度をお答えください。



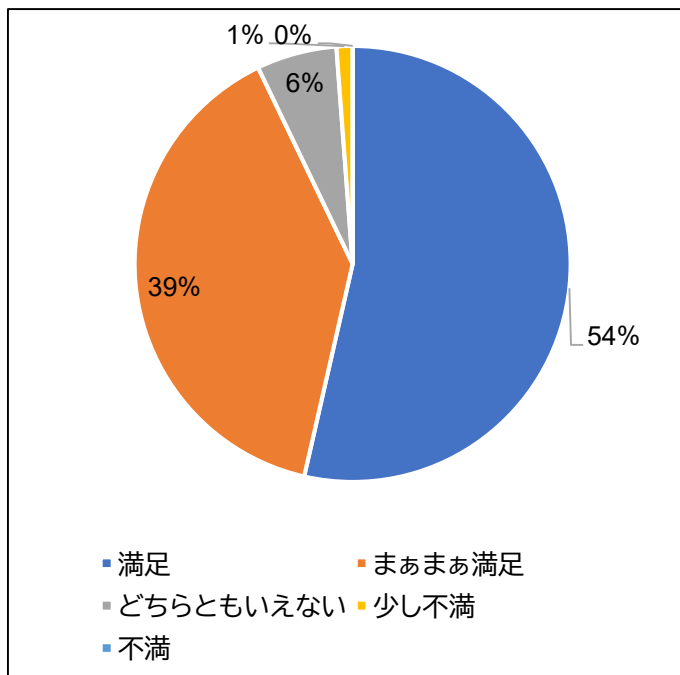
満足	53
まあまあ満足	20
どちらともいえない	6
少し不満	5
不満	0

4. 【教え方】当セミナーの満足度をお答えください。



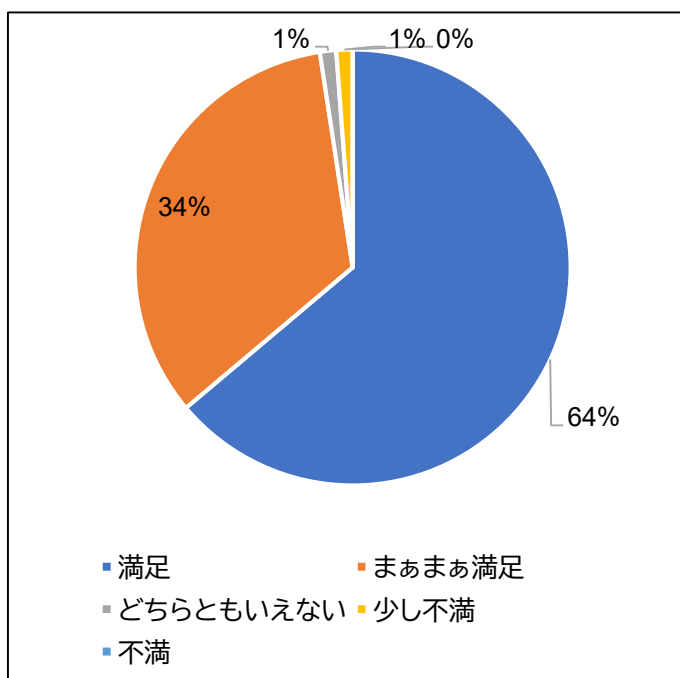
満足	38
まあまあ満足	35
どちらともいえない	9
少し不満	1
不満	0

5. 【教材】当セミナーの満足度をお答えください。



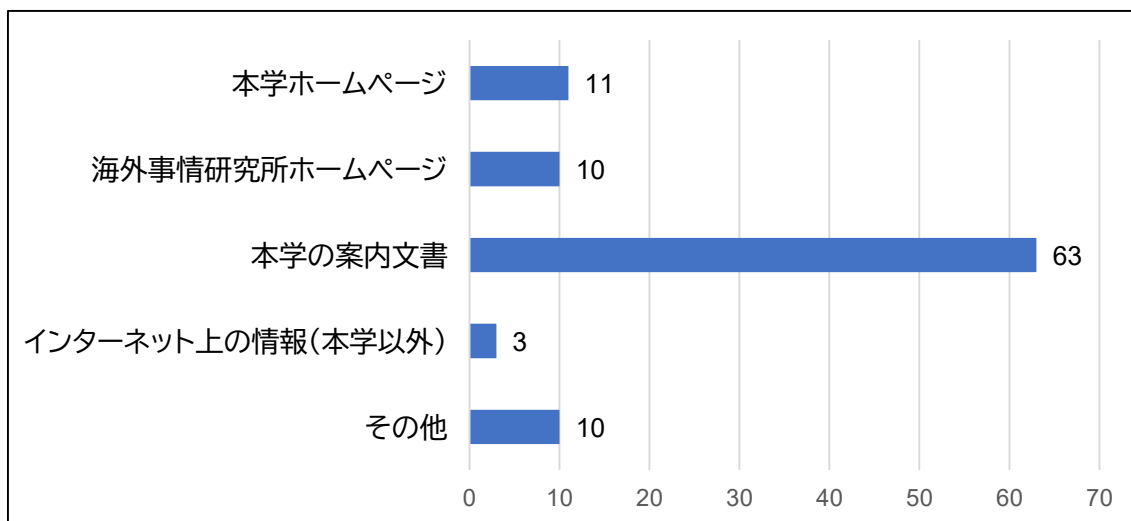
満足	45
まあまあ満足	33
どちらともいえない	5
少し不満	1
不満	0

6. 【総合的】当セミナーの満足度をお答えください。



満足	53
まあまあ満足	28
どちらともいえない	1
少し不満	1
不満	0

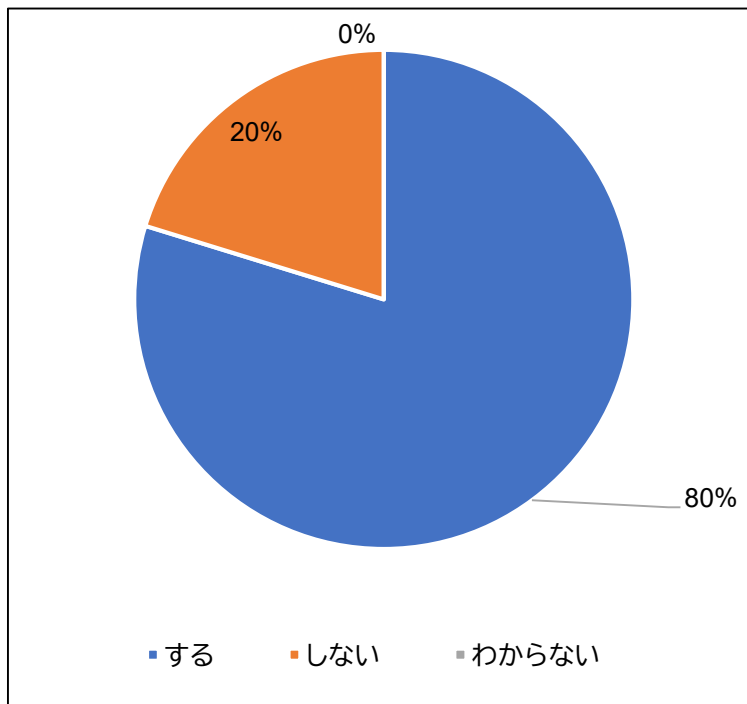
7. 今回、セミナーを知った情報先(複数回答可)



本学ホームページ	11
海外事情研究所ホームページ	10
本学の案内文書	63
インターネット上の情報(本学以外)	3
その他	10

その他の内訳
同僚の教員のすすめで
毎年参加させていただいております
毎年参加させていただいており、お知らせをいただきました。
友人からの紹介
勤務校への案内、個人向け案内
知人の紹介
通知書
電話で確認
同僚から
以前の参加者より

8. 来年度以降、「夏期世界史セミナー」が開講された場合、受講を希望しますか？



する	67
しない	17
わからない	0

2016年世界史セミナー・参加者アンケート

■世界史セミナー実施日・会場

- ・2016年7月28日(木)・29日(金)
- ・東京外国語大学府中キャンパス

■参加者数／回収枚数／回収率

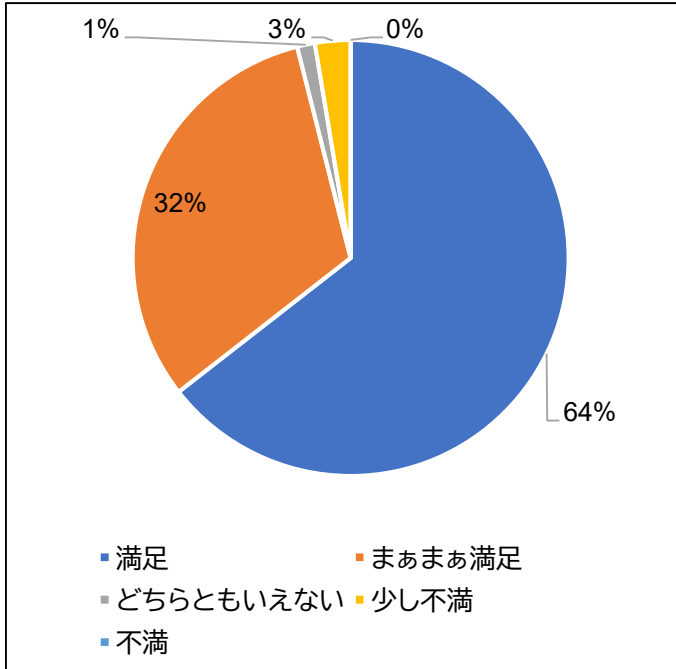
- ・参加者数:124名 / アンケート回収枚数:80枚 / 回収率:64.5%

[質問文・選択肢]

1. 【内容】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
2. 【時期】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
3. 【施設】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
4. 【教え方】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
5. 【教材】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
6. 【総合的】当セミナーの満足度をお答えください。
〔選択肢〕不満 / 少し不満 / どちらともいえない / まあまあ満足 / 満足
7. 今回、セミナーを知った情報先(複数回答可)
〔選択肢〕本学ホームページ / 海外事情研究所ホームページ /
/ インターネット上の情報(本学以外) / その他
8. 来年度以降、「夏期世界史セミナー」が開講された場合、受講を希望しますか？
〔選択肢〕する / しない / わからない
9. 会場運営についてお気づきになった点があればお書きください(自由記述欄)
10. その他、講座について、ご意見、ご希望がございましたらご自由にお書きください
(自由記述欄)

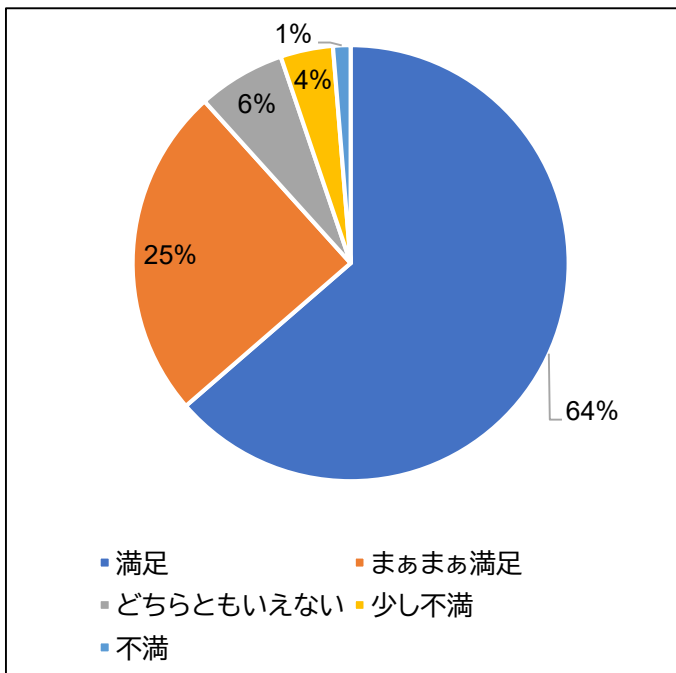
[回答結果]

1. 【内容】当セミナーの満足度をお答えください。



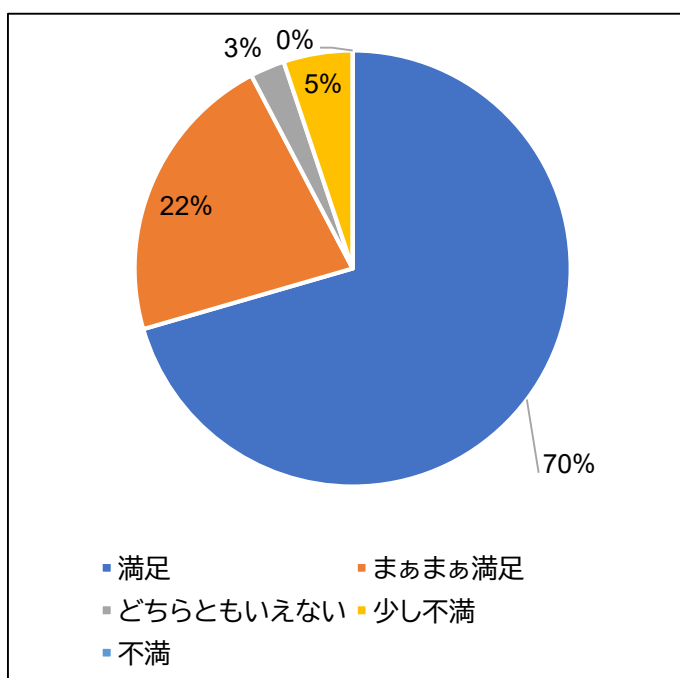
満足	49
まあまあ満足	24
どちらともいえない	1
少し不満	2
不満	0

2. 【時期】当セミナーの満足度をお答えください。



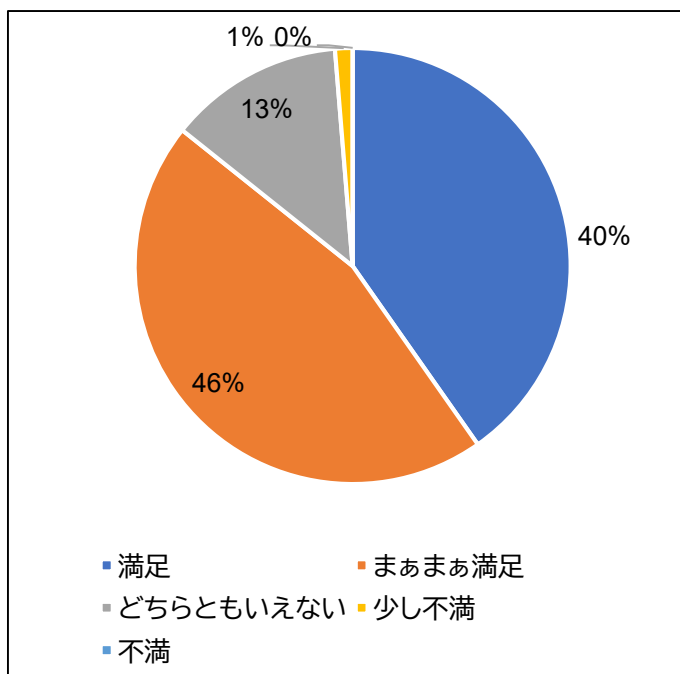
満足	49
まあまあ満足	19
どちらともいえない	5
少し不満	3
不満	1

3. 【施設】当セミナーの満足度をお答えください。



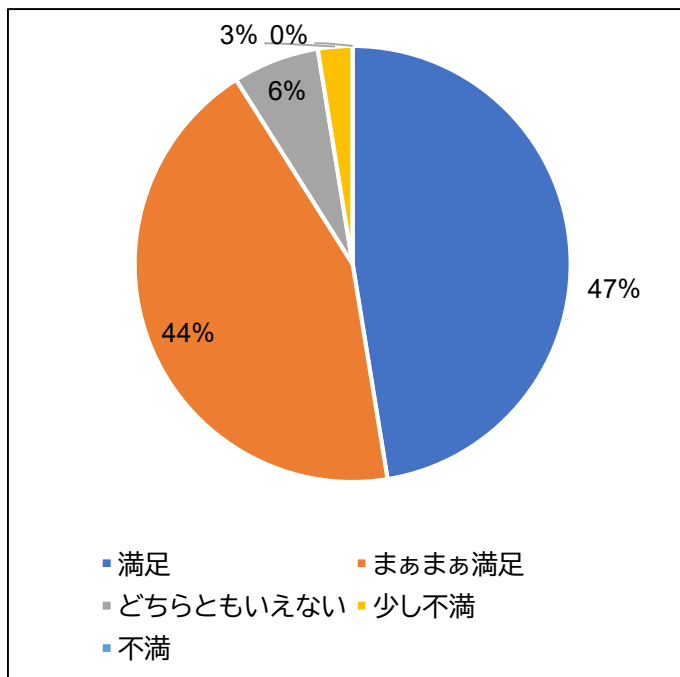
満足	55
まあまあ満足	17
どちらともいえない	2
少し不満	4
不満	0

4. 【教え方】当セミナーの満足度をお答えください。



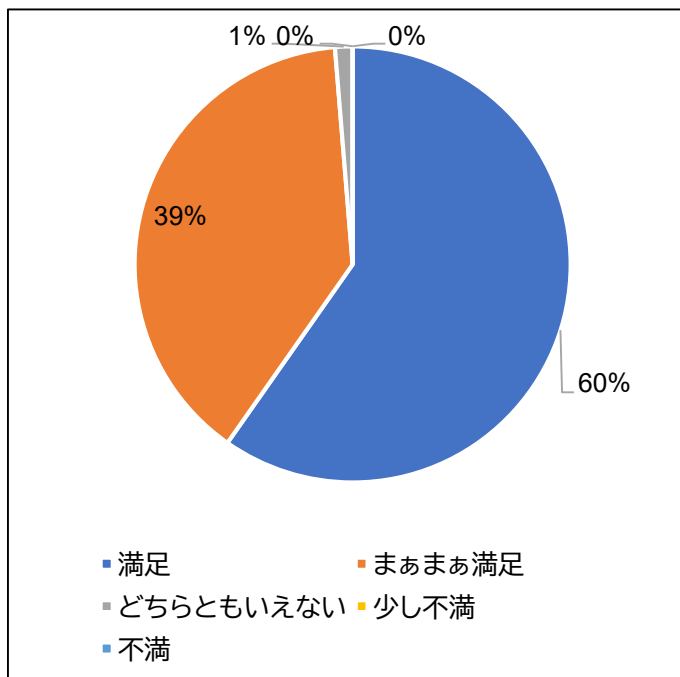
満足	31
まあまあ満足	35
どちらともいえない	10
少し不満	1
不満	0

5. 【教材】当セミナーの満足度をお答えください。



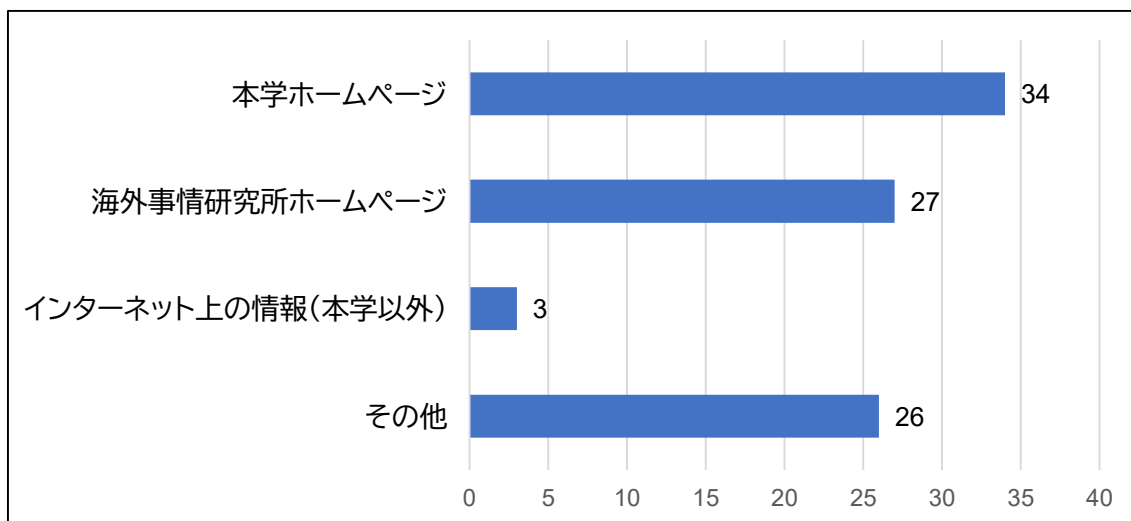
満足	37
まあまあ満足	34
どちらともいえない	5
少し不満	2
不満	0

6. 【総合的】当セミナーの満足度をお答えください。



満足	46
まあまあ満足	30
どちらともいえない	1
少し不満	0
不満	0

7. 今回、セミナーを知った情報先(複数回答可)

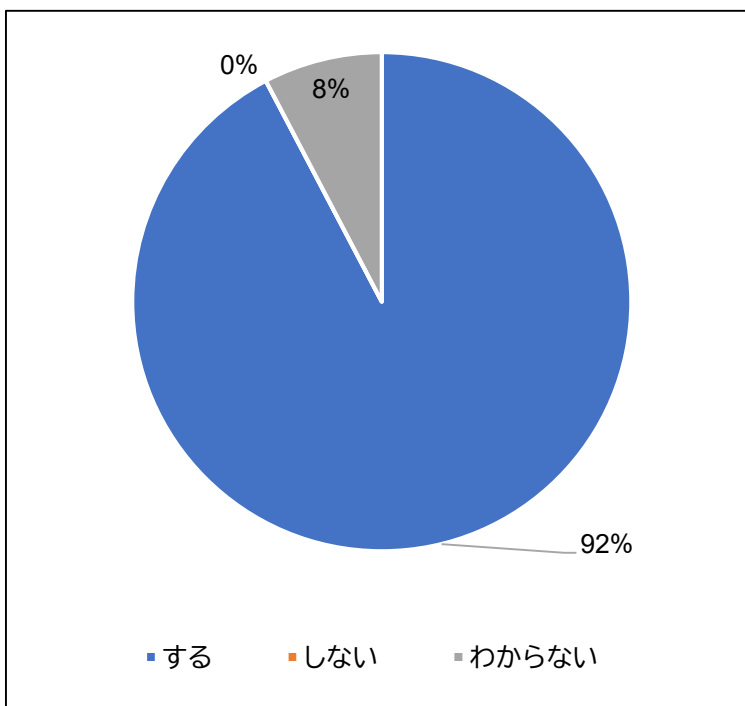


本学ホームページ	34
海外事情研究所ホームページ	27
インターネット上の情報(本学以外)	3
その他	26

その他の内訳
ここ数年、受講しております。
ほかの教員の紹介
メール
メール
メールをいただきました
メールをいただきました
メール配信により
以前に参加させていただいたので
メールで案内を受けた
毎年参加させていただいているため
学校に来たパンフレット
教員の勧め
高大連携歴史教育研究会のメーリングリスト
昨年に引き続き参加
昨年までのご案内の学校への配布

他校の先生より教えていただきました
直接の問い合わせ(以前も参加したので)
東京学芸大、坂井俊樹先生からのすすめ
同僚からの紹介
同僚の紹介
同僚の紹介で
メールでの配信
案内(郵便による)
昨年度も参加させていただき、授業に活かすことができたので
知り合いの教員より話を聞き、ウェブサイトで検索した
毎年参加しているので

8. 来年度以降、「夏期世界史セミナー」が開講された場合、受講を希望しますか？



する	72
しない	6
わからない	0

2020年世界史セミナー・参加者アンケート

■世界史セミナー実施日・会場

- ・2020年7月29日(水)・30日(木)
- ・オンライン開催(Zoom 利用)

■参加者数／回収枚数／回収率

- ・参加者数:95名 / アンケート回収枚数:21枚 / 回収率:22.1%

(※セミナー参加者に Googleform のリンクを送付し、記入を依頼する方法で実施)

[質問文・選択肢]

1. 今回のセミナーの講義に対する満足度をお答えください。

1-1. 講義内容はいかがでしたか？

[選択肢] 不満である／少し不満／どちらともいえない／まあまあ満足／満足している

1-2. 講義者の教え方はいかがでしたか？

[選択肢] 不満である／少し不満／どちらともいえない／まあまあ満足／満足している

1-3. 講義の教材はいかがでしたか？

[選択肢] 不満である／少し不満／どちらともいえない／まあまあ満足／満足している

1-4. 総合的な評価はいかがでしたか？

[選択肢] 不満である／少し不満／どちらともいえない／まあまあ満足／満足している

1-5. その他、講義に関するご意見やご希望がございましたら、ご自由にお書きください。

[自由記述欄]

2. 今回のセミナーの開催時期や開催方法に対する評価をお答えください。

2-1. 今回の世界史セミナーの開催時期についてご意見をお聞かせください(複数回答可)

[選択肢]・開催時期(7月末)は適切だったと思う。

- ・もう少し早い時期(7月中旬)の開催の方が好ましかった。
- ・もう少し遅い時期(8月上旬～中旬)の開催の方が好ましかった。
- ・秋以降の連休の時期の開催の方が好ましかった。
- ・その他

2-2. 今回の開催方法(Web 会議方式+期間限定の動画配信)についてご意見をお聞かせください(複数選択可)。

[選択肢]・適切な方式であるので、来年度以降もこの方式で開催してほしい。

- ・コロナ禍の中では適切だったが、来年度以降は従来の講義方式に戻してほしい。

- ・首都圏外からの参加もしやすくなるので、来年度以降に講義方式に戻したとしてもオンライン(Web 会議あるいは配信動画の視聴)で参加する選択肢を残してほしい。
- ・期間内であれば任意の時間に視聴できるので、来年度以降も動画配信を続けてほしい。
- ・機材設定などのハードルが高いと感じるので、講義方式の方が望ましいと感じた。
- ・会場での質疑応答がしづらいつと感じた。
- ・動画配信の制約を緩和してほしいと感じた。
- ・講義の雰囲気は薄れるので、動画配信は不要ではないかを感じる。
- ・その他

2-3. その他、開催時期や開催方法に関するご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

〔自由記述欄〕

3. その他の質問です。

3-1. 今回の世界史セミナーの情報入手元をお知らせください(複数選択可)。

〔選択肢〕・本学(東京外国語大学)のホームページから

- ・海外事情研究所のホームページから
- ・本学の案内文書から
- ・インターネット上の情報から(本学ウェブページ以外)
- ・本学の教員・関係者からの案内を通じて
- ・その他

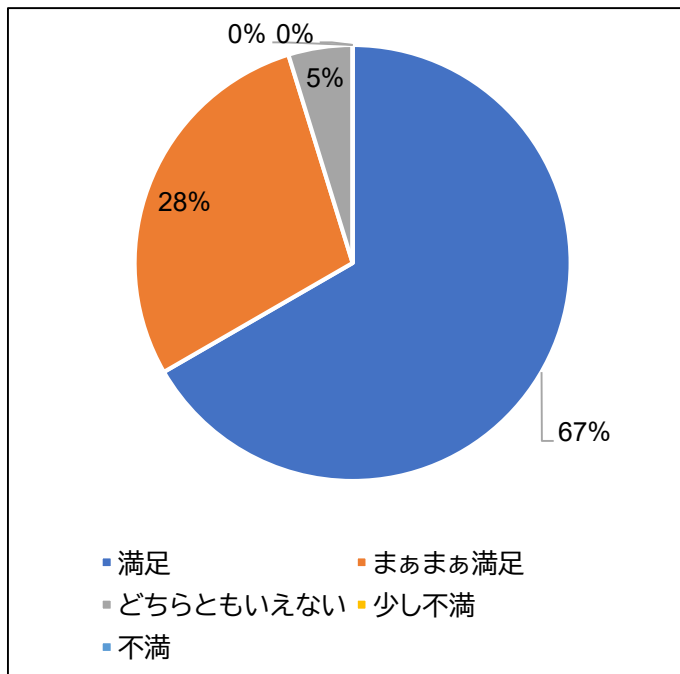
3-2. 来年度以降、「夏期世界史セミナー」が開講された場合、受講を希望しますか？

〔選択肢〕・参加を希望する

- ・参加を希望しない
- ・わからない

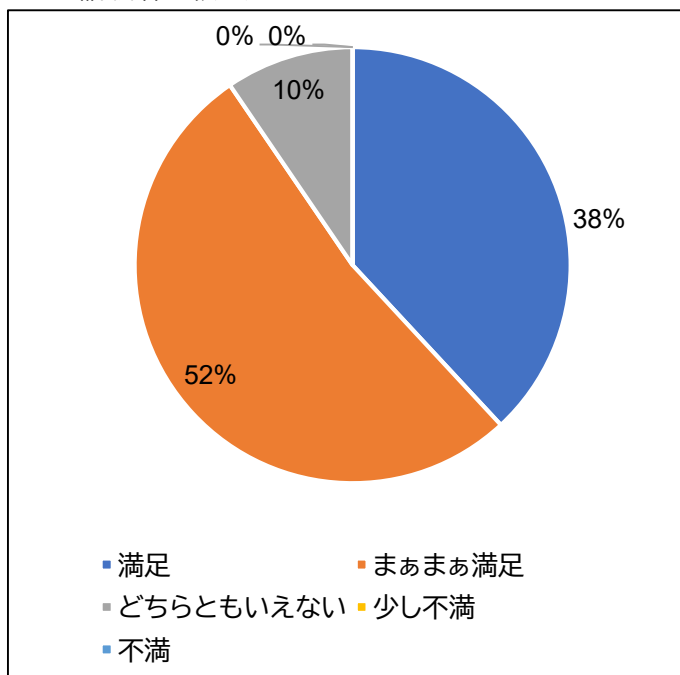
[回答結果]

1-1. 講義内容はいかがでしたか？



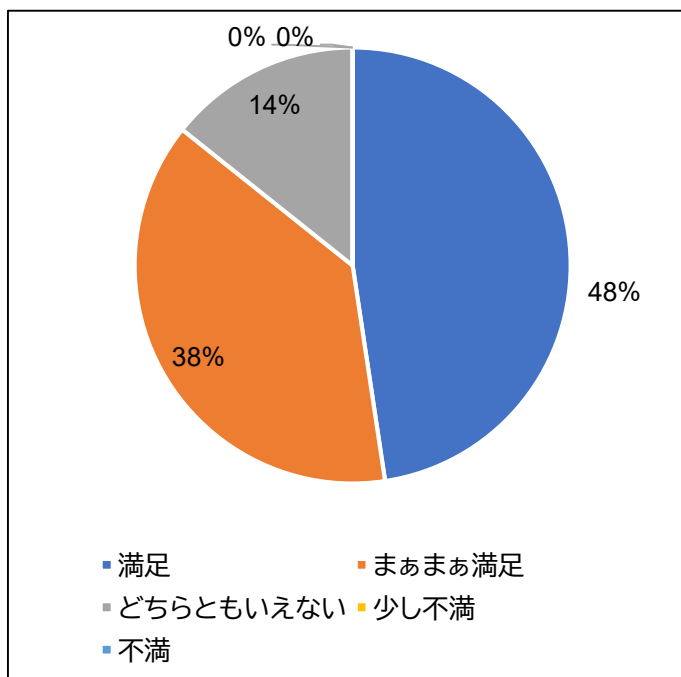
満足	14
まあまあ満足	6
どちらともいえない	1
少し不満	0
不満	0

1-2. 講義者の教え方はいかがでしたか？



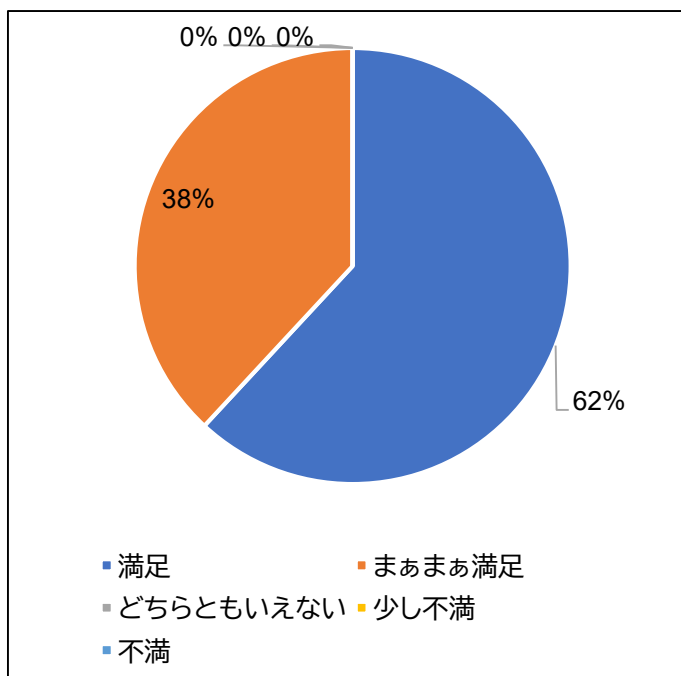
満足	8
まあまあ満足	11
どちらともいえない	2
少し不満	0
不満	0

1-3. 講義の教材はいかがでしたか？



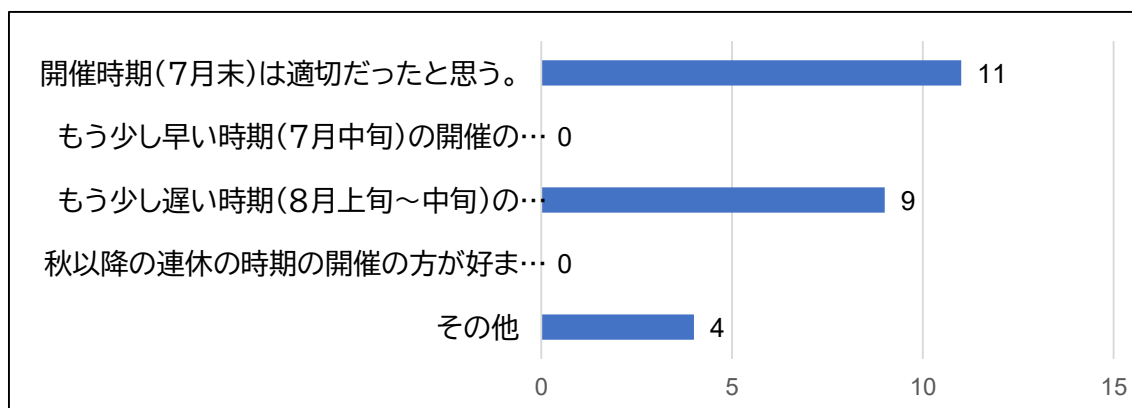
満足	10
まあまあ満足	8
どちらともいえない	3
少し不満	0
不満	0

1-4. 総合的な評価はいかがでしたか？



満足	13
まあまあ満足	8
どちらともいえない	0
少し不満	0
不満	0

2-1. 今回の世界史セミナーの開催時期についてご意見をお聞かせください(複数回答可).



開催時期(7月末)は適切だったと思う。	11
もう少し早い時期(7月中旬)の開催の方が好ましかった。	0
もう少し遅い時期(8月上旬～中旬)の開催の方が好ましかった。	9
秋以降の連休の時期の開催の方が好ましかった。	0
その他	4

その他 詳細

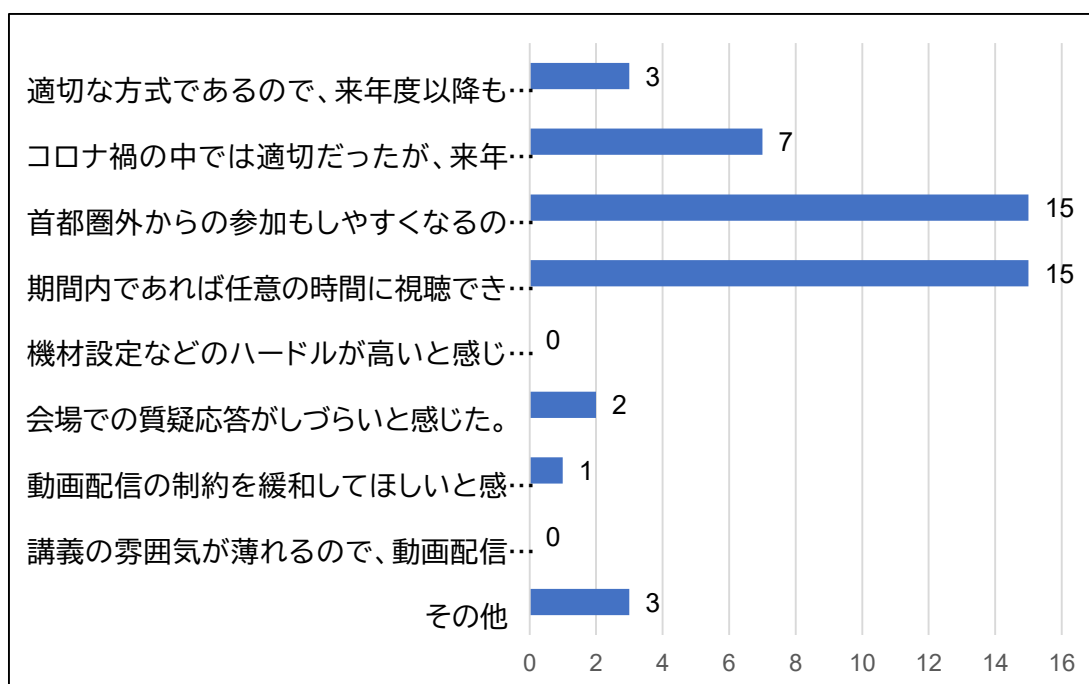
今年はコロナの影響でほとんどの高校は夏休みになっていません。セミナーの予定が決まっていたのは承知の上ですが、現場の高校のことを考えると、今年は8月に入ってから開催でもよかったのではないかと思います。

今回の開催時期の設定は、本当に難しかったと思います。大学のスケジュールも通常の時とは異なると思いますが、勤務校や他の学校も7月末までが考査期間だったり、学期末や授業継続期間だったり、夏休みの期間がずれており、調整が難しく、好ましい時期がなかったように思います。

例年なら、この時期で良いが、今年はコロナ流行で、まだ1学期中だった。

全ての人が余裕のある時期というのはないので、このままで良いと思う。それより都合が悪い場合も後で見られるよう今後も画像をアップしていただければ、時期の問題は解決すると思います。

2-2. 今回の開催方法(Web 会議方式+期間限定の動画配信)についてご意見をお聞かせください(複数選択可)。



適切な方式であるので、来年度以降もこの方式で開催してほしい。	3
コロナ禍の中では適切だったが、来年度以降は従来の講義方式に戻してほしい。	7
首都圏外からの参加もしやすくなるので、来年度以降に講義方式に戻したとしてもオンライン(Web 会議あるいは配信動画の視聴)で参加する選択肢を残してほしい。	15
期間内であれば任意の時間に視聴できるので、来年度以降も動画配信を続けてほしい。	15
機材設定などのハードルが高いと感じるので、講義方式の方が望ましいと感じた。	0
会場での質疑応答がしづらいつと感じた。	2
動画配信の制約を緩和してほしいと感じた。	1
講義の雰囲気は薄れるので、動画配信は不要ではないかと感じる。	0
その他	3

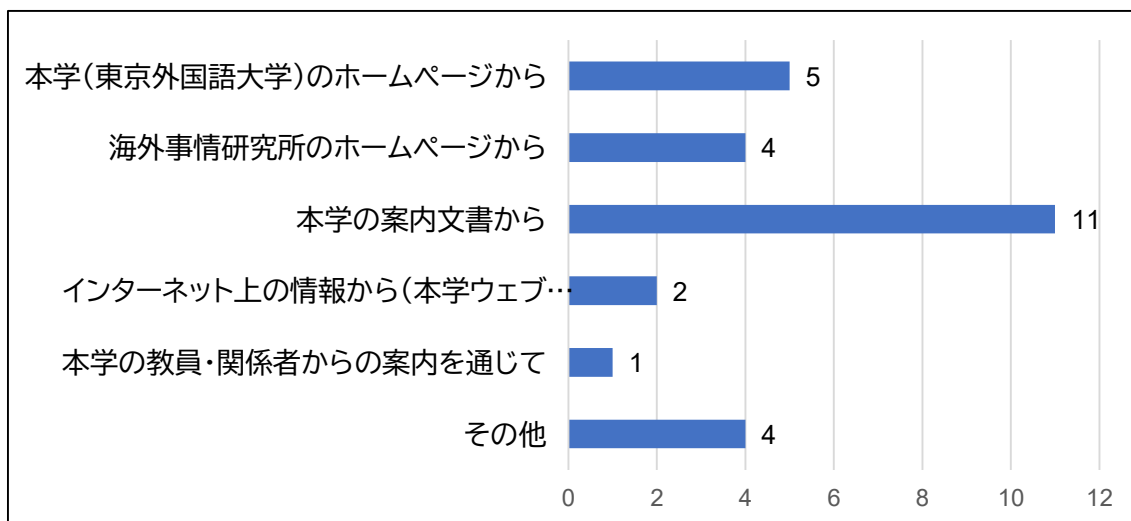
その他 詳細

たまたま Google は研修を受けたばかりでしたが、Windows を使用している方には難儀だったと思います。

講義形式とオンライン動画配信、両方あると理想的です。

3番目の、会場での授業と配信の2本立てがベストです。

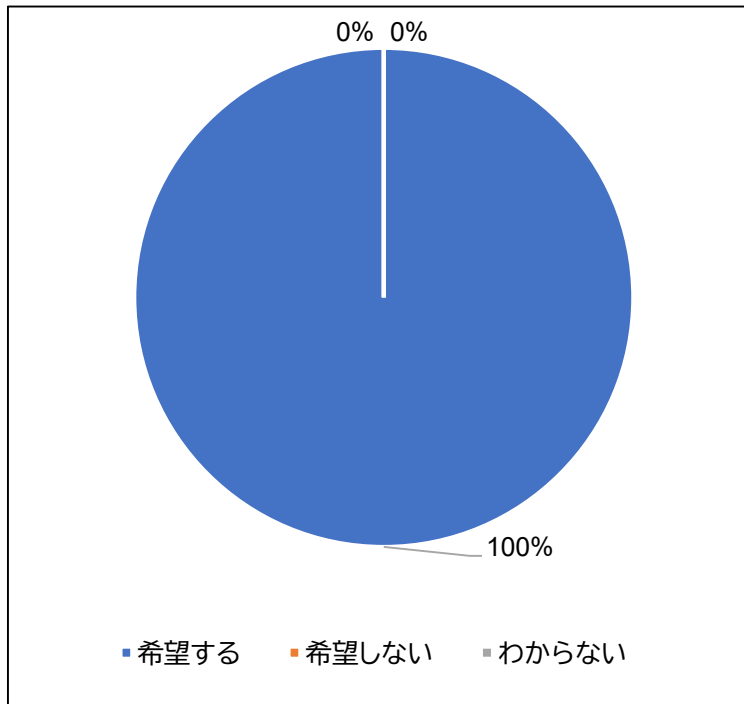
3-1. 今回の世界史セミナーの情報入手元をお知らせください(複数選択可)。



本学(東京外国語大学)のホームページから	5
海外事情研究所のホームページから	4
本学の案内文書から	11
インターネット上の情報から(本学ウェブページ以外)	2
本学の教員・関係者からの案内を通じて	1
その他	4

その他の内訳	
貴学からのメール	
外語大からのメール案内から	
聴講生の仲間からの情報	
研究所からのメール案内	

3-2. 来年度以降、「夏期世界史セミナー」が開講された場合、受講を希望しますか？



参加を希望する	21
参加を希望しない	0
わからない	0

2021年世界史セミナー・参加者アンケート

■世界史セミナー実施日・会場

- ・2021年8月2日(月)・3日(火)
- ・オンライン開催(Zoom ウェビナー)

■参加者数／回収枚数／回収率

- ・参加者数:120名 / アンケート回収枚数:27枚 / 回収率:22.5%

(※セミナー参加者に Googleform のリンクを送付し、記入を依頼する方法で実施)

[質問文・選択肢]

1. 今年度の「世界史セミナー」の講義に対する満足度をお答えください。

1-1. 講義内容はいかがでしたか？

[選択肢] 不満である／少し不満／どちらともいえない／まあまあ満足／満足している

1-2. 講義者の教え方はいかがでしたか？

[選択肢] 不満である／少し不満／どちらともいえない／まあまあ満足／満足している

1-3. 講義の教材はいかがでしたか？

[選択肢] 不満である／少し不満／どちらともいえない／まあまあ満足／満足している

1-4. 総合的な評価はいかがでしたか？

[選択肢] 不満である／少し不満／どちらともいえない／まあまあ満足／満足している

1-5. その他、講義に関するご意見やご希望がございましたら、ご自由にお書きください。

[自由記述欄]

2. 今回のセミナーの開催時期や開催方法に対する評価をお答えください。

2-1. 今年度の「世界史セミナー」の開催時期についてご意見をお聞かせください(複数回答可)

[選択肢]・開催時期(8月初頭)は適切だったと思う。

- ・もう少し早い時期(7月下旬ぐらい)の開催の方が好ましかった。
- ・もう少し遅い時期(8月中旬～下旬)の開催の方が好ましかった。
- ・秋以降の連休の時期の開催の方が好ましかった。
- ・その他

2-2. 今回の開催方法(Zoom ウェビナー+期間限定の動画配信)についてご意見をお聞かせください(複数選択可)。

[選択肢]・適切な方式であるので、来年度以降もこの方式で開催してほしい。

- ・コロナ禍の中では適切だったが、来年度以降は従来の講義方式に戻してほしい。

- ・首都圏外からの参加もしやすくなるので、来年度以降に講義方式に戻したとしてもオンライン(Web 会議あるいは配信動画の視聴)で参加する選択肢を残してほしい。
- ・期間内であれば任意の時間に視聴できるので、来年度以降も動画配信を続けてほしい。
- ・機材設定などのハードルが高いと感じるので、講義方式の方が望ましいと感じた。
- ・ウェビナーでの質疑応答がしづらいつと感じた。
- ・動画配信の制約を緩和してほしいと感じた。
- ・講義の雰囲気は薄れるので、動画配信は不要ではないかを感じる。
- ・その他

2-3. その他、開催時期や開催方法に関するご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

〔自由記述欄〕

3. その他の質問です。

3-1. 今年度の「世界史セミナー」の情報入手元をお知らせください(複数選択可)。

〔選択肢〕・本学(東京外国語大学)のホームページから

- ・海外事情研究所のホームページから
- ・本学の案内文書から
- ・インターネット上の情報から(本学ウェブページ以外)
- ・本学の教員・関係者からの案内を通じて
- ・その他

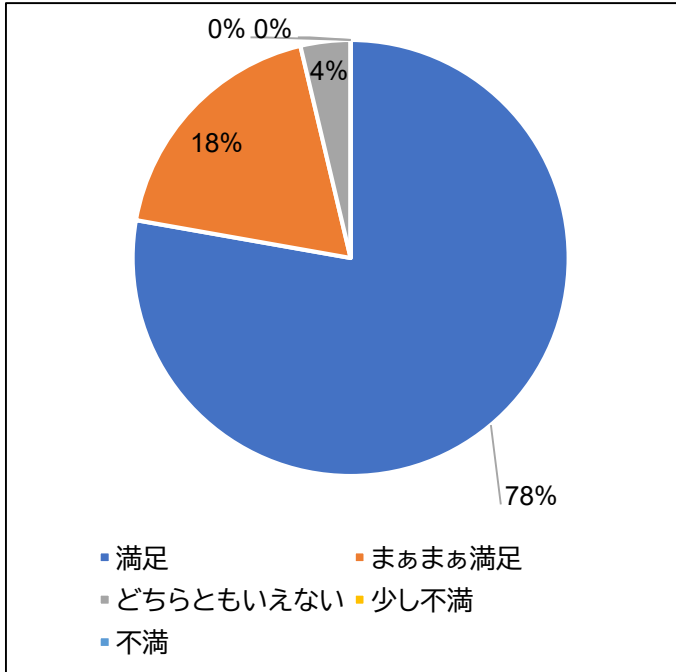
3-2. 来年度以降に「夏期世界史セミナー」が開講された場合、受講を希望しますか？

〔選択肢〕・参加を希望する

- ・参加を希望しない
- ・わからない

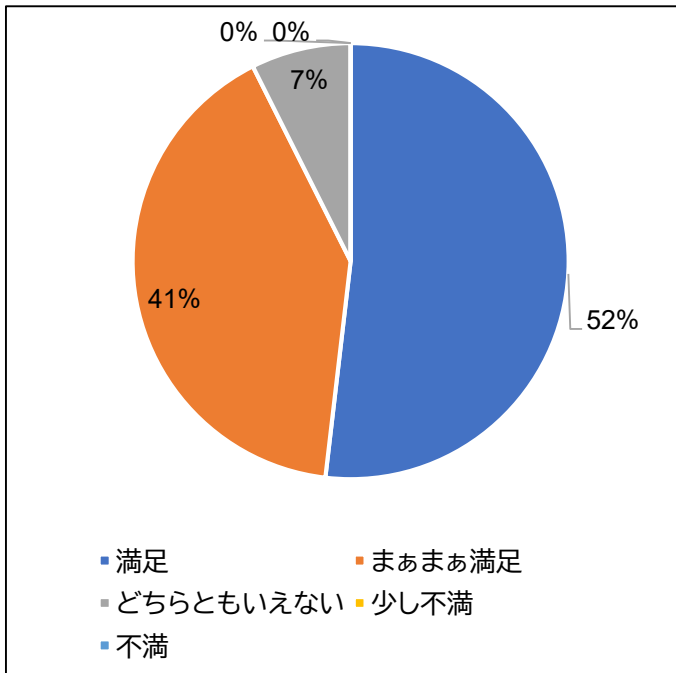
[回答結果]

1-1. 講義内容はいかがでしたか？



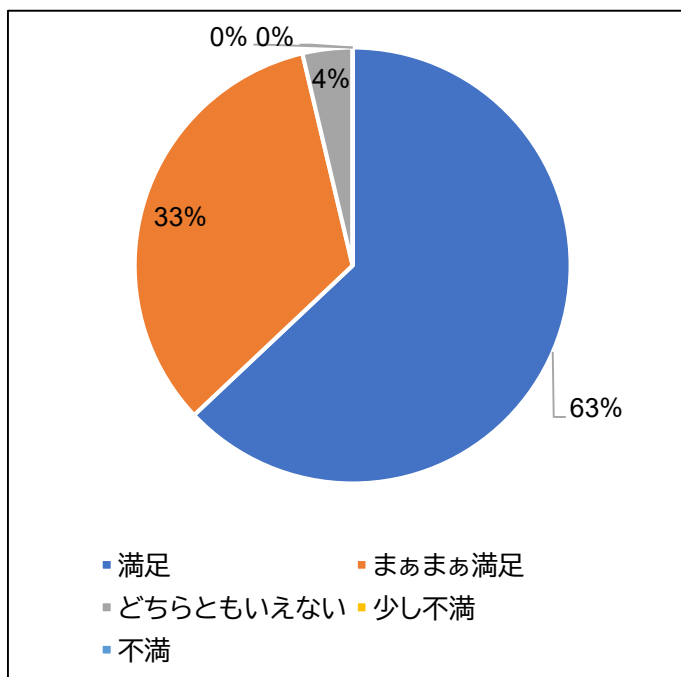
満足	21
まあまあ満足	5
どちらともいえない	1
少し不満	0
不満	0

1-2. 講義者の教え方はいかがでしたか？



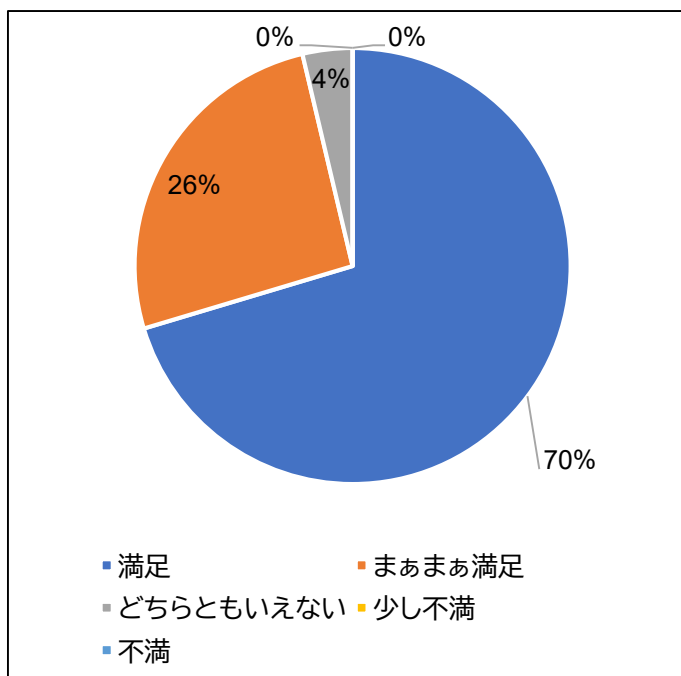
満足	14
まあまあ満足	11
どちらともいえない	2
少し不満	0
不満	0

1-3. 講義の教材はいかがでしたか？



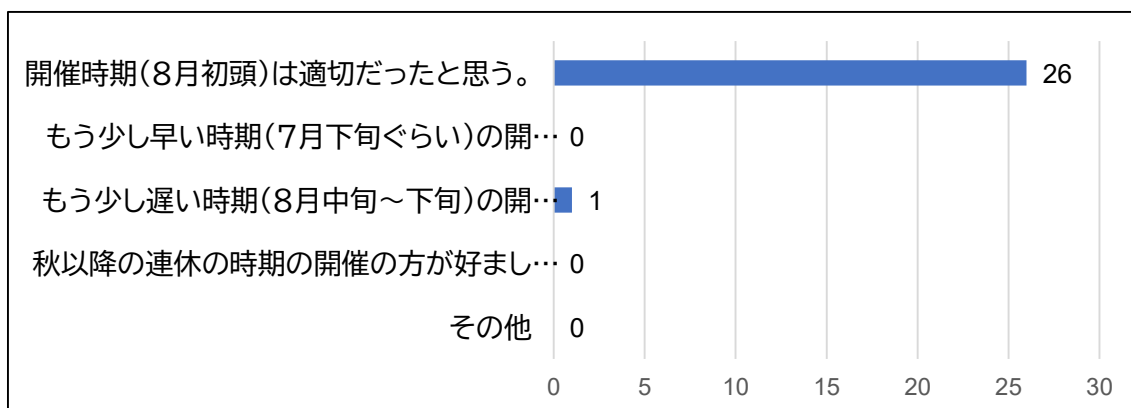
満足	17
まあまあ満足	9
どちらともいえない	1
少し不満	0
不満	0

1-4. 総合的な評価はいかがでしたか？



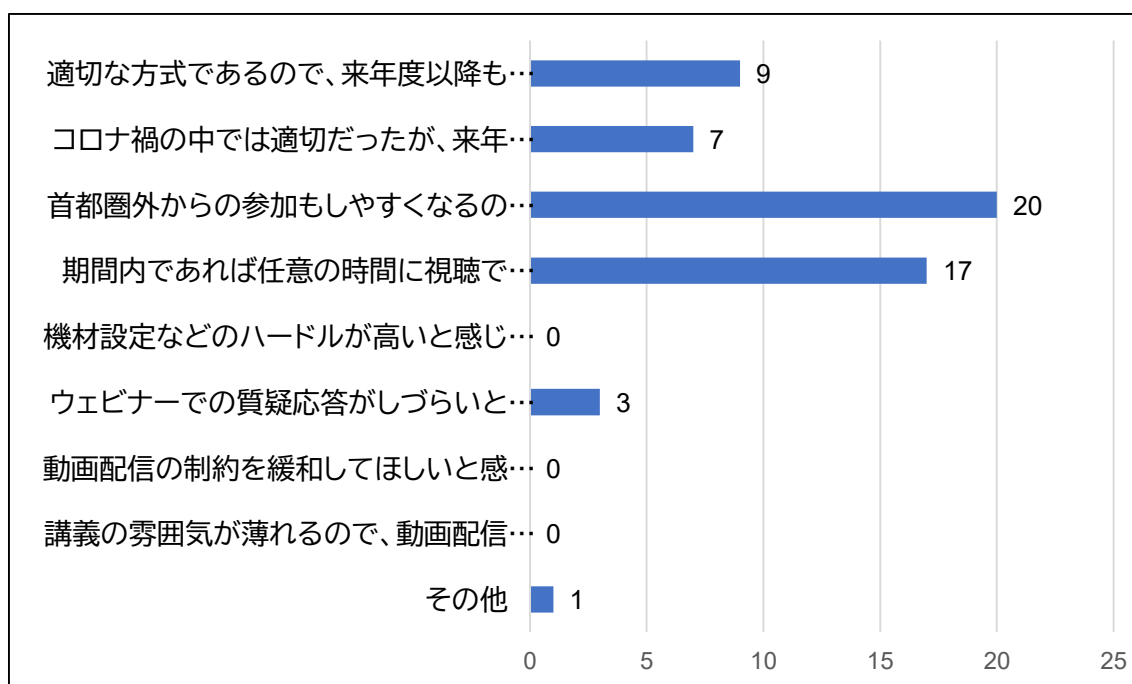
満足	19
まあまあ満足	7
どちらともいえない	1
少し不満	0
不満	0

2-1. 今回の世界史セミナーの開催時期についてご意見をお聞かせください(複数回答可).



開催時期(8月初頭)は適切だったと思う。	26
もう少し早い時期(7月中旬)の開催の方が好ましかった。	0
もう少し遅い時期(8月上旬～中旬)の開催の方が好ましかった。	1
秋以降の連休の時期の開催の方が好ましかった。	0
その他	0

2-2. 今回の開催方法(Web 会議方式+期間限定の動画配信)についてご意見をお聞かせください(複数選択可)。

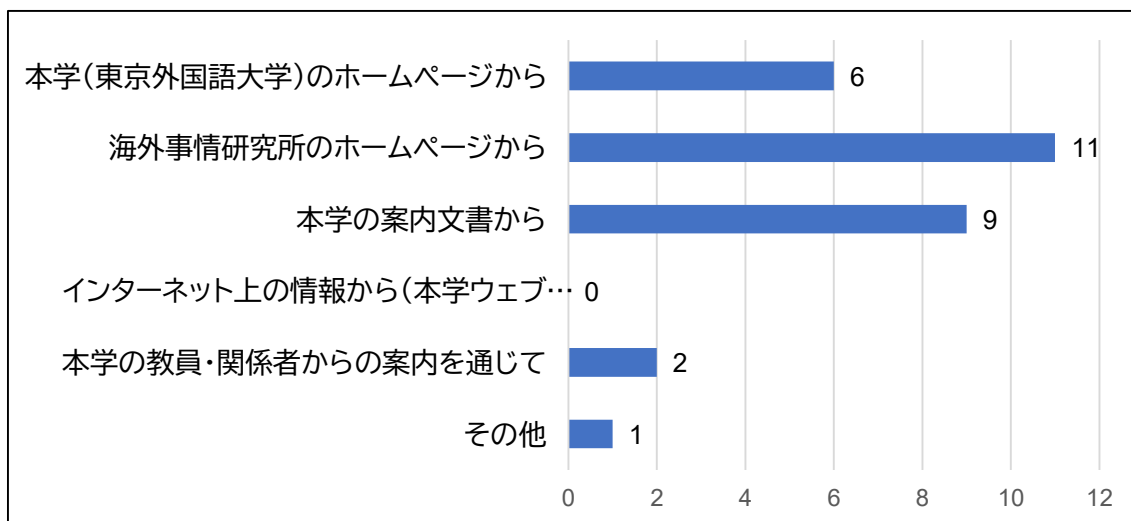


適切な方式であるので、来年度以降もこの方式で開催してほしい。	9
コロナ禍の中では適切だったが、来年度以降は従来の講義方式に戻してほしい。	7
首都圏外からの参加もしやすくなるので、来年度以降に講義方式に戻したとしてもオンライン(Web 会議あるいは配信動画の視聴)で参加する選択肢を残してほしい。	20
期間内であれば任意の時間に視聴できるので、来年度以降も動画配信を続けてほしい。	17
機材設定などのハードルが高いと感じるので、講義方式の方が望ましいと感じた。	0
ウェビナーでの質疑応答がしづらいつと感じた。	3
動画配信の制約を緩和してほしいと感じた。	0
講義の雰囲気は薄れるので、動画配信は不要ではないかと感じる。	0
その他	3

その他 詳細

7月末の時には、合宿と重なり参加できなかったもので、期間限定の動画配信は残していただけるとありがたいです。

3-1. 今回の世界史セミナーの情報入手元をお知らせください(複数選択可)。

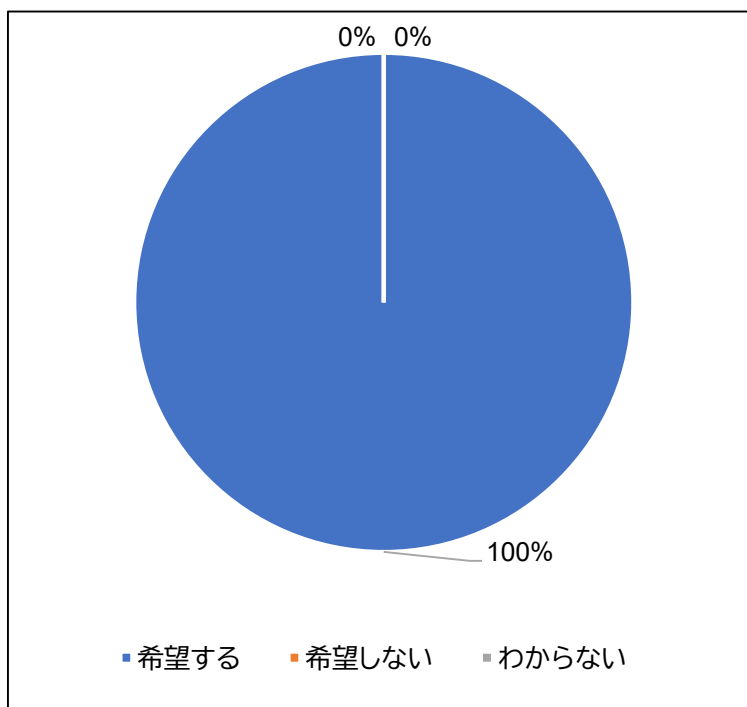


本学(東京外国語大学)のホームページから	6
海外事情研究所のホームページから	11
本学の案内文書から	9
インターネット上の情報から(本学ウェブページ以外)	0
本学の教員・関係者からの案内を通じて	2
その他	1

その他の内訳

他の教員からの紹介

3-2. 来年度以降、「夏期世界史セミナー」が開講された場合、受講を希望しますか？



参加を希望する	27
参加を希望しない	0
わからない	0

2022年世界史セミナー・参加者アンケート

■世界史セミナー実施日・会場

- ・2022年8月2日(火)・3日(水)
- ・オンライン開催(Zoom ウェビナー)

■参加者数／回収枚数／回収率

- ・参加者数:149名 / アンケート回収枚数:41枚 / 回収率:27.5%

(※セミナー参加者に Googleform のリンクを送付し、記入を依頼する方法で実施)

[質問文・選択肢]

1. 2022年度の「世界史セミナー XIV」の講義に対する満足度をお答えください。

1-1. 講義内容はいかがでしたか？

[選択肢] 不満である／少し不満／どちらともいえない／まあまあ満足／満足している

1-2. 講義者の教え方はいかがでしたか？

[選択肢] 不満である／少し不満／どちらともいえない／まあまあ満足／満足している

1-3. 講義の教材はいかがでしたか？

[選択肢] 不満である／少し不満／どちらともいえない／まあまあ満足／満足している

1-4. 総合的な評価はいかがでしたか？

[選択肢] 不満である／少し不満／どちらともいえない／まあまあ満足／満足している

1-5. その他、講義に関するご意見やご希望がございましたら、ご自由にお書きください。

[自由記述欄]

2. 今回のセミナーの開催時期や開催方法に対する評価をお答えください。

2-1. 今年度の「世界史セミナー」の開催時期についてご意見をお聞かせください(複数回答可)

[選択肢]・開催時期(8月初頭)は適切だったと思う。

- ・もう少し早い時期(7月下旬ぐらい)の開催の方が好ましかった。
- ・もう少し遅い時期(8月中旬～下旬)の開催の方が好ましかった。
- ・秋以降の連休の時期の開催の方が好ましかった。
- ・他校での同種の企画との日程重なりを回避してほしい。
- ・その他

2-2. 今年度の「世界史セミナー」の開催方法(Zoom 利用のオンライン式+期間限定の動画配信)についてご意見をお聞かせください(複数選択可)。

[選択肢]・来年度以降もオンライン式で開催してほしい。

- ・来年度以降は対面式に戻してほしい。

- ・来年度以降はハイブリッド式とし、参加方式を選択(対面／オンライン)できるようにしてほしい。
- ・期間内であれば任意の時間に視聴できるので、来年度以降も動画配信を続けてほしい。
- ・機材設定などのハードルが高いと感じるので、対面式の方が参加しやすい。
- ・ウェビナーでの質疑応答がしづらいつと感じた。
- ・動画配信の制約を緩和してほしいと感じた。
- ・講義の雰囲気は薄れるので、動画配信は不要ではないかを感じる。
- ・その他

2-3. その他、開催時期や開催方法に関するご意見やご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

〔自由記述欄〕

3. その他の質問です。

3-1. 今年度の「世界史セミナー」の情報入手元をお知らせください(複数選択可)。

〔選択肢〕・本学(東京外国語大学)のホームページから

- ・海外事情研究所のホームページから
- ・本学の案内文書から
- ・インターネット上の情報から(本学ウェブページ以外)
- ・本学の教員・関係者からの案内を通じて
- ・その他

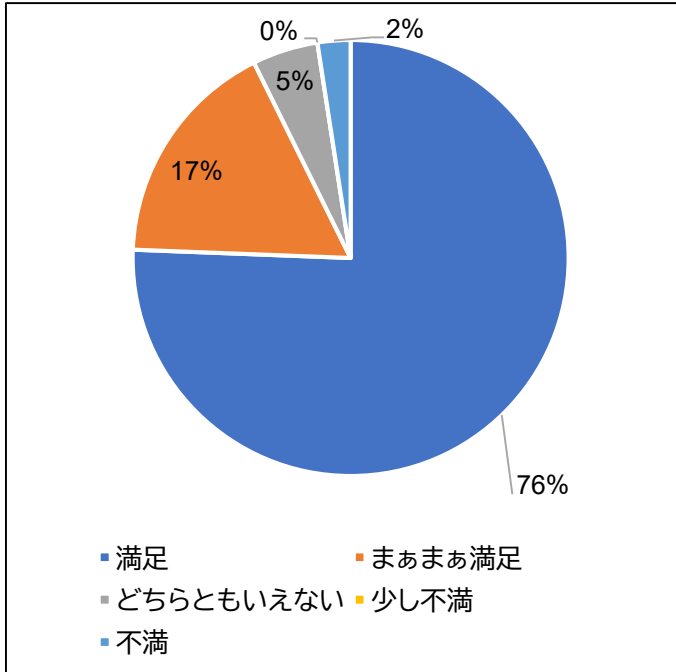
3-2. 来年度以降に「夏期世界史セミナー」が開講された場合、受講を希望しますか？

〔選択肢〕・参加を希望する

- ・参加を希望しない
- ・わからない

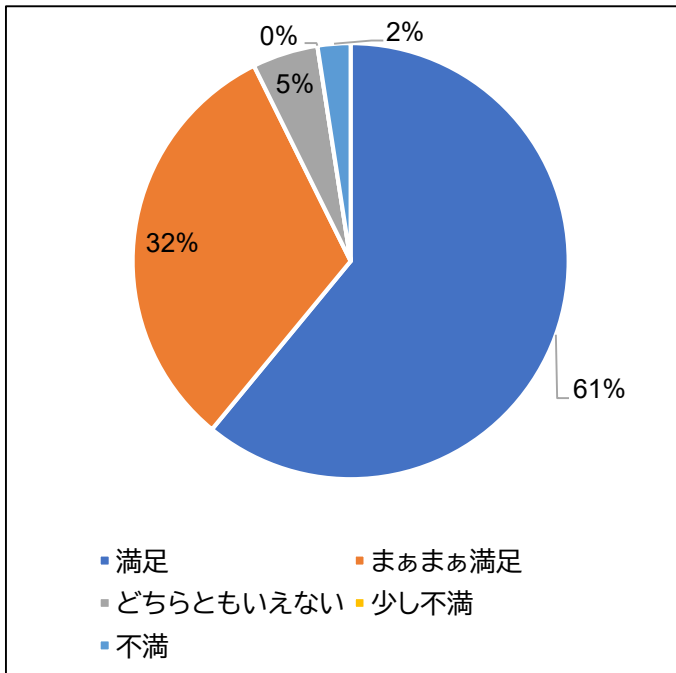
[回答結果]

1-1. 講義内容はいかがでしたか？



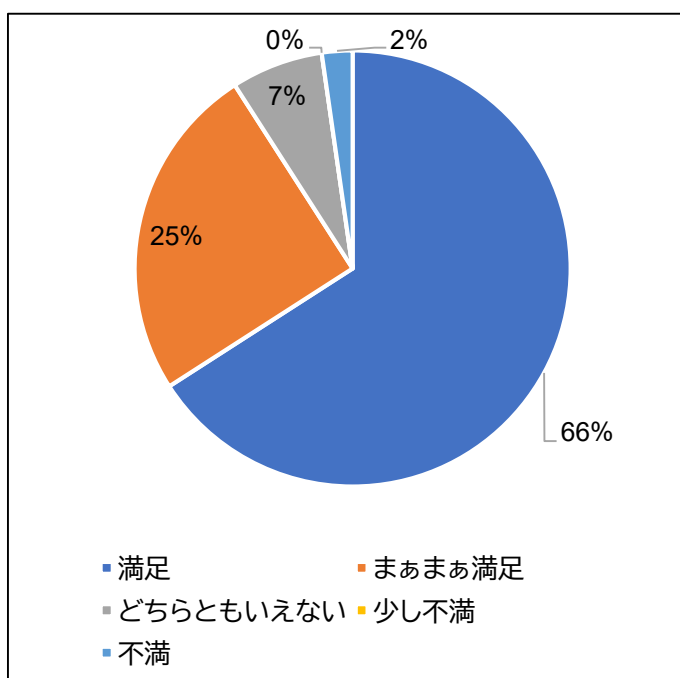
満足	31
まあまあ満足	7
どちらともいえない	2
少し不満	0
不満	1

1-2. 講義者の教え方はいかがでしたか？



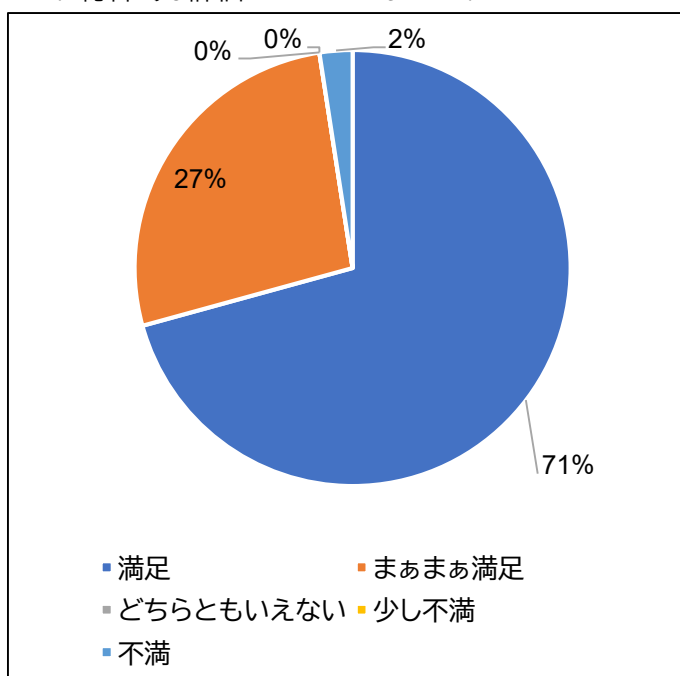
満足	25
まあまあ満足	13
どちらともいえない	2
少し不満	0
不満	1

1-3. 講義の教材はいかがでしたか？



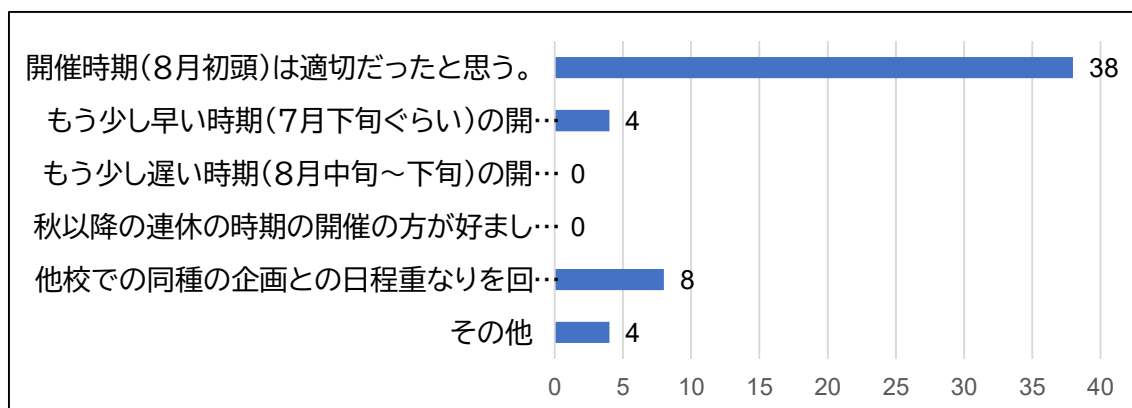
満足	29
まあまあ満足	11
どちらともいえない	3
少し不満	0
不満	1

1-4. 総合的な評価はいかがでしたか？



満足	29
まあまあ満足	11
どちらともいえない	0
少し不満	0
不満	1

2-1. 今年度の「世界史セミナー」の開催時期についてご意見をお聞かせください(複数回答可)。



開催時期(8月初頭)は適切だったと思う。	38
もう少し早い時期(7月中旬)の開催の方が好ましかった。	4
もう少し遅い時期(8月上旬～中旬)の開催の方が好ましかった。	0
秋以降の連休の時期の開催の方が好ましかった。	0
他校での同種の企画との日程重なりを回避してほしい。	8
その他	4

その他 詳細

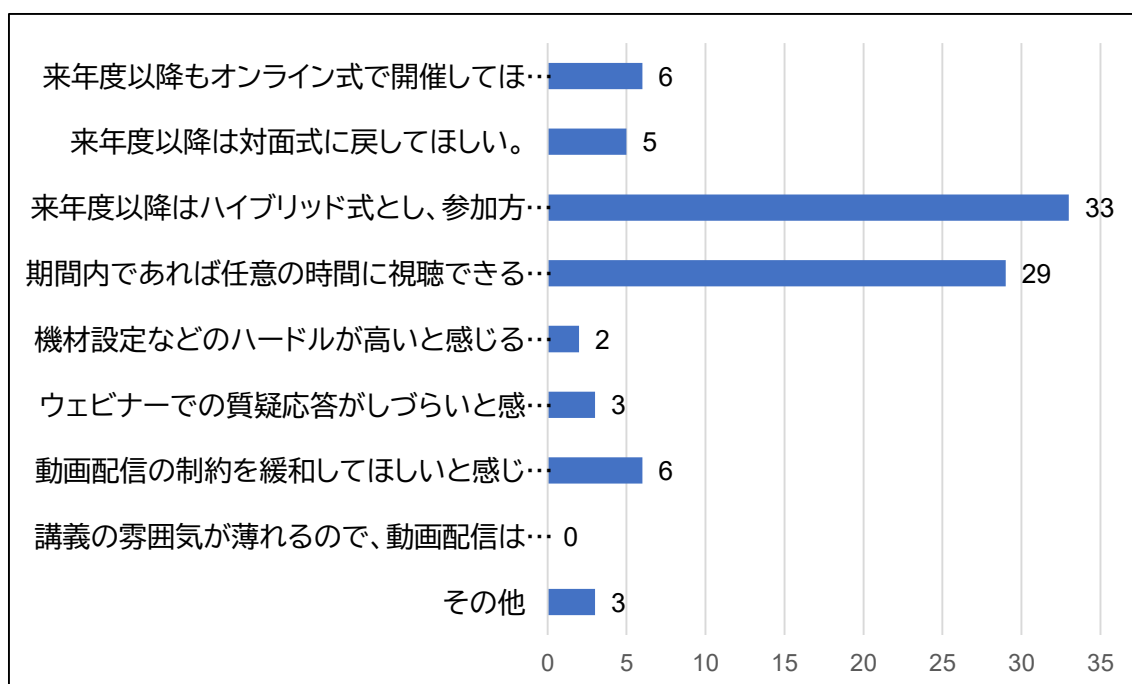
全歴研茨城大会や高大連携歴史教育研究会と重ならなくて、とても良い日程でした。

7月中に開催されると進学校では補習と重なり参加が難しい。

会の冒頭で話が出ていたが、専修大との日程重複を避けてほしかった。

本校は6月にコロナで休校があったため、7月末まで2学期が延長された。その意味で結果的に8月初頭の実施はありがたかったが、さまざまな面で見通しを予測できない状況がつついているのが現状だ。

2-2. 今回の開催方法(Web 会議方式+期間限定の動画配信)についてご意見をお聞かせください(複数選択可)。



来年度以降もオンライン式で開催してほしい。	6
来年度以降は対面式に戻してほしい。	5
来年度以降はハイブリッド式とし、参加方式を選択(対面/オンライン)できるようにしてほしい。	33
期間内であれば任意の時間に視聴できるので、来年度以降も動画配信を続けてほしい。	29
機材設定などのハードルが高いと感じるので、対面式の方が参加しやすい。	2
ウェビナーでの質疑応答がしづらいつと感じた。	3
動画配信の制約を緩和してほしいと感じた。	6
講義の雰囲気が薄れるので、動画配信は不要ではないかと感じる。	0
その他	3

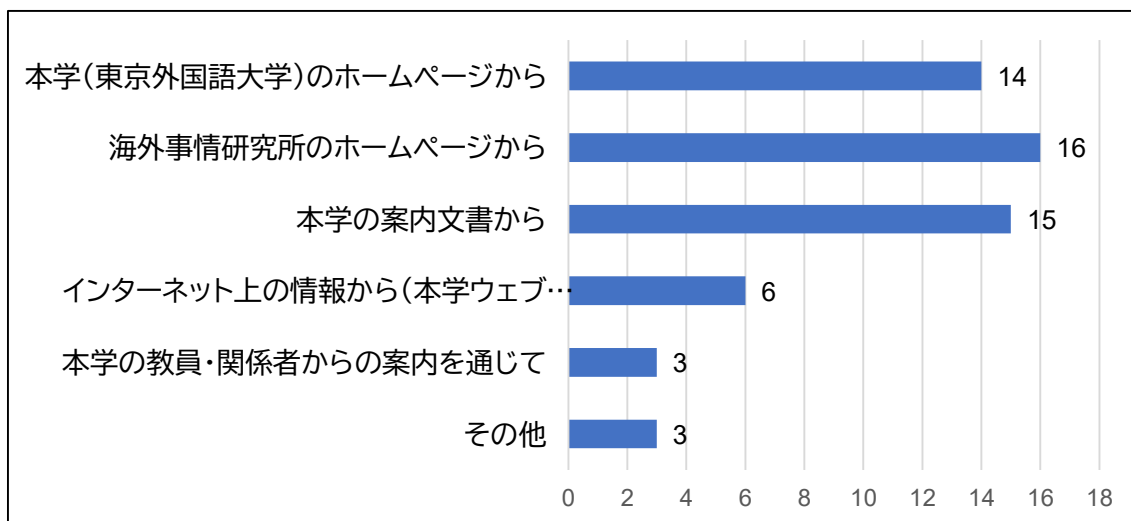
その他 詳細

事前にレジュメを配信していただけたのは助かりました。

8月は進学補講の日程がかぶるため、キャンパスまで足を運びたいものの難しい。オンライン式も合わせて実施していただければありがたい。

ズームアドレスを配信してください。

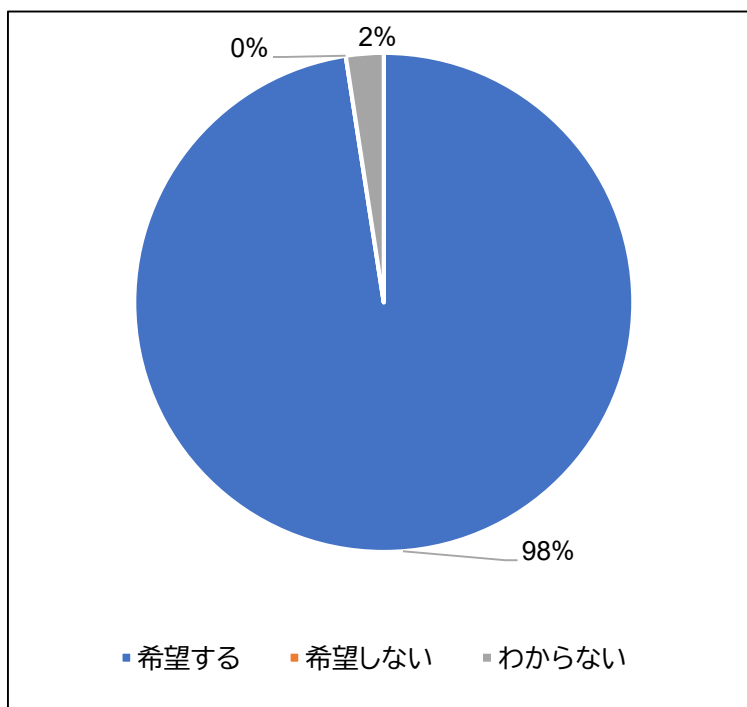
3-1. 今回の世界史セミナーの情報入手元をお知らせください(複数選択可)。



本学(東京外国語大学)のホームページから	14
海外事情研究所のホームページから	16
本学の案内文書から	15
インターネット上の情報から(本学ウェブページ以外)	6
本学の教員・関係者からの案内を通じて	3
その他	3

その他の内訳	
偶然	
昨年までの参加で、メールでお知らせをいただきました。	
メールでご案内をいただきました	

3-2. 来年度以降、「夏期世界史セミナー」が開講された場合、受講を希望しますか？



参加を希望する	40
参加を希望しない	0
わからない	1

第2部 「夏季世界史セミナー」参加者アンケートから

第2章 参加者アンケート分析

世界史セミナー アンケート分析

吉田友香・金理花

(文責：金理花)

本章では、これまで世界史セミナー（以下、本セミナー）において実施してきた参加者アンケートの分析を通じて明らかになったことについて述べる。なお、資料の所在の問題から2017～2019年の参加者アンケートは含まれていない。

まず、2009～2016年及び、新型コロナウイルス感染拡大後オンライン形式で開催された2020～2022年のアンケートにみられた全体的な傾向について、「会場運営」「講義内容」「その他」の三つに分けてみていく。

会場運営については、2009～2016年に対面形式で実施していた時期に得られた回答への分析が主となる。ここで共通してみられた回答としては、「(室内が)暑い」「椅子が硬く長時間座ることがつらい」「マイクの音量が小さい」などがあり、参加者から教室設備を改善する声があがっていたことがわかる。今後、対面形式での開催を再開することがあれば、例年使用してきた教室ではない会場（例えばアゴラホールなど）への変更によって設備の問題が改善される可能性があると思われる。

このほかに、「専修大の講座／全歴研／高校の夏期講習／部活の合宿と重ならないようにしてほしい」「開始時間を遅らせてほしい／終了時間を早めてほしい／本郷サテライトで開催してほしい」など、開催時期や時間に対する意見も多くみられた。これは、全国各地から参加者が集まるという本セミナーの特徴が関係していると考えられ、特に遠方からの参加者の意見であったといえる。こうした意見への対応が十分になされてきたかどうかについては、今後さらなる精査が必要だろう。

講義内容に関しては、「内容が多すぎる」「時間不足」「60分では不十分」「90分が妥当」「休憩をきちんと取りたい」など、講義内容に対する時間配分を改善するよう求める回答が目立った。「前置きが長く本題が駆け足で終わってしまった」といった趣旨の回答も複数見られたことから、講師の側のプレゼン技量に問題があったことがうかがえる。今後は、講義時間に見合った内容量であるのかの確認を徹底するなど、対策を講じていく必要があると思われる。

また、予習がしたいという参加者からは、教材（資料・レジュメ）を事前に配布してほしいという回答もみられた。これについて、早い対応は難しい点もあるが、少なくとも開催前日からPDFを閲覧できるようにするなどの対応が可能であれば、改善する可能性がある。

さらに、講義内容そのものについては、「もう少し高校世界史と関連のある内容にしてほしい」「高校世界史と歴史学の接点、歴史学を高校世界史にどう活用するかについて提案してほしい」などの意見が寄せられており、実際の授業に本セミナーの内容を取り入れるための工夫や方法について学びたいというニーズがあることがうかがえる。その根源には、学問としての歴史学と高校世界史をどのように架橋するのかという課題があるといえるが、例えば、歴史用語の用いられ方やその問題についての学問的背景を授業中の小話として取り入れる工夫を凝らす、などの実践的なアイデアを提示するといった取り組みも今後は求められるのではないだろうか。

このほかに、「レジュメの写真・地図・絵などが見づらい」「カラー印刷にしてほしい」「パワーポで示された絵や写真をレジュメに入れてほしい」などの回答がみられた。これらについては、現在はオンライン形式での開催にともない Zoom 上の画面共有並びに PDF で資料配布などの方法に移行したことから改善したとみられる。

その他に寄せられた回答については、「大学側の情報（講師の専門言語・所属、入試情報、施設案内など）を知りたい」「講師の書籍を販売してほしい」「講師も懇親会に参加してほしい」「高校教員のスピーチがあってもよいのでは」「現場からの発表があるとよい」「参加者名簿がほしい」など、高大連携、大学教員と高校教員の交流、高校教員同士の交流を求める声が多くみられた。こうした回答からも、本セミナーが全国の高校教員たちにとって意義ある場として長年にわたり受けとめられてきたこと、そして今後もそのように活用されることを望む人々が多くいるということがわかる。

次に、2009 年以降のアンケートから、講義内容に対する意見について特徴的だと思われるポイントを以下の五点に絞ってみていく。

第一に、2010 年（第 2 回）以降の回答は「とある先生の情熱的な講義に感銘を受けた」などの講師それぞれに対する意見・感想が出始めた点があげられる。これについては、世界史セミナーが定例のイベントとして開催されるようになって間もない時期にあたることから、講師の側もそれぞれが講義内容を模索し工夫をして実践していたことがうかがえる。

第二に、2015 年の回答では IS、2022 年の回答ではロシア・ウクライナ戦争といった、社会情勢を踏まえた講義に対して「もっと聞きたかった」「話が聞けてよかった」「戦争について考える回だった」という意見がみられた。このことから、今日の世界情勢と世界史の連続性をいかにして考えるかということに参加者が問題意識を向けていることがわかる。

第三に、2016 年の回答では、高校現場でのアクティブ・ラーニングに対するアドバイスを求める声が複数見られた。これは、高校世界史の学習内容の変化による現場のニーズの変化をあらわしたものであると考えられる。

第四に、2022 年の回答では「一次史料を提示してくれたことがよかった」「一次史料へのアクセス方法を教えてほしい」など一次史料に関心を寄せる意見がみられた。これは 2022

年度からの新科目である歴史総合の導入の影響とみられる。

第五に、日本史についての意見がくり返しみられた。「日本史の講座が面白かった、興味深かった」「来年も取り入れてほしい」「日本史の内容を、もう少し世界史に繋げてほしい」といった、世界史的視点から日本史を捉えなおす重要性を意識した回答がある一方で、「日本史講座は別の機会に開催してほしい」「世界史に絞ってほしい」など、日本史を世界史の枠組みではなく個別に捉える回答もあった。これについては、世界史と日本史、そして新科目である歴史総合を、今後どのように位置づけ連携させていくことができるのかについて、本セミナーにおいても議論を深めていく必要がある議題であると思われる。

最後に、2020年以降実施してきた、オンライン開催に関する意見についてみていく。

オンライン開催についての好意的な意見としては、「オンラインは遠隔地でも受講できる」「後日振り返ることができる」「育児中でも参加しやすい」「Zoom活用の参考になった」などがあげられる。これについては、遠方からの参加者や子育て中の教員といった、来校が簡単ではない層の人々にとって、本セミナーを受講するハードルが大きく下がったことがわかる。

他方で、改善点を指摘する意見としては「参加者同士の交流の場がほしい」「他の参加者がわからないのが残念」「事前にメールが届かず、参加できなかった」「Zoomウェビナーの使い方がよくわからない」などがみられた。本セミナーの重要な位置づけの一つであった交流の場をオンライン開催とどのように両立していくのかは今後の課題であると思われる。また、ウェビナーリンクが確実に届くZoomの事前登録機能を活用することや、Zoomに慣れていない参加者へのわかりやすい案内など、世の中のニーズに即した形で事務局の運営フローをオンライン形式前提のものに改変することも課題であるといえる。

ここまで、アンケートからみえてきた本セミナーの意義や改善点について述べてきたが、アンケート全体を通して参加者の満足度は非常に高く、次回も参加したいとの声は毎年のように寄せられている。また、2020年以降にオンライン形式に移行してからは、オンライン開催を歓迎する声がある一方で、対面開催を希望する声も複数みられる。新型コロナウイルスのパンデミックを経験したことで世界が大きく変化した今日、本セミナーもまた過渡期を迎えていることは間違いない。

作業の所感

一点目は、今年度の中心的な作業は歴代資料のアーカイブ化とアンケートの集計であった。特にアンケートからは、2009年の初回以降、一貫して、高校の先生方が世界史セミナーに熱心に参加し、コミットメントしようとする回答が多くみられ、2009年以降今日に至るまで、高大連携が重要視されていると感じた。

二点目は、オンライン開催による問口の拡大を感じたことである。アンケート分析でも述べたように、遠方からの参加者のハードルを下げるができるのはメリットが大きく、時代のニーズにも合っているので、引き続き開催するのがよいように感じた。ただし、世界史セミナーの重要な位置づけの一つであった交流の場をどのように担保するのかについては、今後の課題であるように思う。

三点目は、2020年以降オンライン開催に伴い、アンケートの回答がwebフォームに移行したことで、従来の紙での回答よりも回答数が大幅(1/3)に減少したことである。そのため、事務局は、Zoomのサードパーティ機能を使用するなどして、アンケートにアクセスしやすい環境を整える必要があるといえる。

吉田友香・金理花
(文責：金理花)

「東京外国語大学世界史セミナー」の資料をまとめて

東京外国語大学では常時、世界の多様な地域を専門にする 30 名近い歴史研究者が研究・教育に携わっています。これだけの数の歴史研究者を擁する大学は日本にはほとんどありません(残念ながら多くの大学で歴史系の教員が減らされています)。今次の『岩波講座 世界史』の目次をみても、本学の研究者がとてもたくさん寄稿しているのがわかります。研究対象が世界全域におよび、それぞれの研究者が研究対象地域で使われている言語に精通して、現地の研究者たちと活発に学術交流を行っていることも本学の(に限りませんが)歴史研究者に共通する資質です。研究対象地域で使われていることばはひとつとは限りません。古典語や地域の共通語(リンガ・フランカ)の知識も必要です。「言語と文化」、そして「地域の歴史的・社会的背景」を深く理解する力を養うことが本学の教育目標ですから、教員には当然その資質が共通して求められています。私たちが学び、生活している現場(当面は東京です)、研究対象地域、そしてグローバルな動向を見つめる「三点測量」によって、現代世界の課題は立体的に見えてきます。歴史を学ぶことによってその世界像にはさらに深い奥行きがうまれるでしょう。現代的関心と歴史研究とを積極的に結びつけてきたのも、東京外国語大学の歴史研究・教育の大きな特徴です。本学で活動する歴史研究者の専門領域も知的バックグラウンドもさまざまですが、大学という特定の場所を共有することで、星雲状に広がりまとまったある個性を共有していると自負しております。過去のプログラムを見て、改めてそのことを確認することができました。

さて、そのような研究者たちが集まっているにもかかわらず、東京外国語大学の歴史研究は社会にも、高校の先生方にも、潜在的な受験生たちにも認知されておりました。それどころか外国語学部時代には、教育プログラムがおよそ言語・地域別に編成されていたので歴史研究者たちが「星雲状」に集まる機会もありませんでした。世界史セミナーは、そうした課題に応えるために当初、企画されたものでした。

しかし始めてみると、むしろ私たちが参加者の皆様から学ぶことの方が多くあることに気がつきました。私たちはたしかに世界の特定の地域、時代の歴史や文化を専門としていますが、歴史を「世界史」として考え、教えるような知見もなければ問題意識にも欠けていたのです。また高校生や大学生にとって「歴史を学ぶ」ことがそもそもどのような意味を持つのか、という根源的な問いにも無自覚だったかもしれません。「世界史セミナー」を始めた頃は、昨年から導入された「歴史総合」につながる議論も発芽していました。高校と大学の教育を結びつける必要性、「高大連携」の課題も指摘されるようになりました。本学の鈴木茂さん、金井光太郎さんたちが科研プロジェクトで高校の先生方との研究会を積極的に組織するようになったのもそのような流れのなかでのことでした。こうして私たちは「世界史セミナー」を高校で歴史教育を担当されている先生方と本学の歴史研究者たちとの相互交

流の場として位置づけるようになりました。さいわい、「世界史セミナー」を通じて知り合った先生方と、たとえば「歴史総合」の実践をめぐって今日も議論を続けています。

いままでの活動をアーカイヴとしてまとめながら、次の課題も見えてきました。それは高校での歴史教育の実践、大学での教育・研究を結びつけて、歴史を学ぶことの意義、面白さを具体的に示し、さらに考え続けることです。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

篠原琢



東京外国語大学夏期世界史セミナー 世界史の最前線 —14年間の軌跡と展望—
2023年5月25日 初版発行

編集・発行：東京外国語大学 海外事情研究所

TUFS Institute for Global Area Studies

〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1

<http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ifa/index.html>

ISBN: 978-4-909866-05-9

本書を無断で複写・複製することを禁じます。
